342.1
0635m
(1)

0030515012

0030515-012

３４２．１－０６３５ｍ－（ｓ）

明治大正財政史

大蔵省・編

財政経済学会

1936－1940

AEA

七四四8

大藏省編纂

明治大正財政史

第十二卷

發行元　東京

財政經濟學會

342.1
O635m
(4)

2420

明治大正財政史　第十二卷　目次

第八編　國　債（下）

第三章　外國債……一
第一節　日露戰役前の外國債……一
第一款　明治初年の外國負債……一
第一項　舊幕府及新政府の外國負債……一
第二項　舊諸藩の外國負債……四
第二款　九分利付外國公債……一二
第一項　起　債……一二
第二項　償還及支拂……一二
第三款　七分利付外國公債……二二
第一項　起　債……二二
第二項　償還及支拂……二三
第四款　第一回四分利付英貨公債……三一
　　三四

第一項　起　債……三三四
第二項　償還及支拂……四四八
第二節　第一回六分利付英貨公債……五〇
第一款　起　債……五〇
第二款　募　集……六〇
第三款　收　支……七七
第四款　起債費……八〇
第五款　事務取扱……八一
第六款　償還及支拂……八四
第三節　第二回六分利付英貨公債……八七
第一款　起　債……八七
第二款　募　集……九四
第三款　收　支……一一一
第四款　起債費……一一三
第五款　償還及支拂……一一四
第四節　第一回四分半利付英貨公債……一一五
第一款　起　債……一一五
第二款　募　集……一一九
第三款　收　支……一三三
第四款　起債費……一三六
第五款　償還及支拂……一三七
第五節　第二回四分半利付英貨公債……一三九
第一款　起　債……一三九
第二款　募　集……一四五
第三款　收　支……一七六
第四款　起債費……一七八
第五款　事務取扱……一七九
第六款　償還及支拂……一八一
第六節　第二回四分利付英貨公債……一八三
第一款　起　債……一八三
第二款　募　集……一八三
第三款　收　支……一八九
……二一九

第四款　起債費……二二三
第五款　事務取扱……二二四
第六款　償還及支拂……二二七
第七節　五分利付英貨公債……二二九
第一款　起　債……二二九
第二款　募　集……二二九
第三款　收　支……二六一
第四款　起債費……二六五
第五款　事務取扱……二六六
第六款　償還及支拂……二六八
第八節　四分利付佛貨公債……二七〇
第一款　起　債……二七〇
第二款　募　集……二七五
第三款　收　支……二八一
第四款　起債費……二八三
第五款　事務取扱……二八四

第六款　償還及支拂……二八五
第九節　第三回四分利付英貨公債……二八六
第一款　起　債……二八六
第二款　募　集……二八六
第三款　收　支……二九〇
第四款　起債費……三〇〇
第五款　事務取扱……三〇二
第六款　償還及支拂……三〇三
第十節　第一回英貨鐵道證券及英貨鐵道債券……三〇四
第一款　起　債……三〇四
第二款　收　支……三〇五
第三款　起債費……三〇五
第四款　償還及支拂……三一三
第十一節　佛貨國庫債券……三一三
第一款　起　債……三一四
第二款　募　集……三一五

第三款　收　支……三二四
第四款　起債費……三二五
第五款　償還及支拂……三二六
第十二節　第二回英貨鐵道證券……三三九
第一款　起　債……三三九
第二款　收　支……三三九
第三款　起債費……三四三
第四款　償　還……三四四
第十三節　第三回英貨鐵道證券……三四四
第一款　起　債……三四四
第二款　收　支……三五一
第三款　起債費……三五二
第四款　償　還……三五二
第十四節　六分半利付米貨公債及(第三回)六分利付英貨公債……三五四
第一款　起　債……三五四
第二款　募　集……三六六

第三款　收　支……三八八
第四款　起債費……三九一
第五款　事務取扱……三九一
第六款　償還及支拂……三九四
第十五節　承繼外國債……三九七
第一款　緒　言……三九七
第二款　舊北海道炭礦鐵道株式會社英貨社債……三九七
第三款　舊關西鐵道株式會社英貨社債……四〇二
第四款　南滿洲鐵道株式會社英貨社債……四〇五
第一項　社債の承繼……四〇五
第二項　第一回英貨社債……四〇七
第三項　第三回英貨社債……四〇九
第四項　第四回英貨社債……四一〇
第五項　償還及支拂……四一二
第十六節　內國債の外國賣出……四一三
第一款　緒　言……四一三
第二款　軍事公債證書の賣出……四一八

第三款　五分利公債證書の賣出……四二四
第四章　臨時國庫證券……四二九
第一節　緒　言……四二九
第二節　新規發行……四二九
第一款　臨時國庫債券(い號)……四三六
第二款　臨時國庫證券(ろ號)……四三六
第三款　臨時國庫證券(は號)……四四一
第四款　臨時國庫證券(に號)……四四六
第五款　臨時國庫證券(ほ號)……四五〇
第六款　臨時國庫證券(へ號)……四五二
第七款　臨時國庫證券(と號)……四五三
第八款　臨時國庫證券(ち號)……四五四
第九款　臨時國庫證券(り號)……四五五
第十款　臨時國庫證券(ぬ號)……四五六
第十一款　割引發行……四五七
第三節　借換發行……四五八
第一款　臨時國庫證券(る號)……四五九
第二款　臨時國庫證券(を號)……四五九
第三款　臨時國庫證券(わ號)……四六四
第四款　臨時國庫證券(か號)……四七〇
第五款　臨時國庫證券(よ號)……四七〇
第六款　臨時國庫證券(た號)……四七一
第七款　臨時國庫證券(れ號)……四七二
第八款　臨時國庫證券(そ號)……四七二
第九款　臨時國庫證券(つ號)……四七三
第十款　臨時國庫證券(ね號)……四七三
第十一款　臨時國庫證券(な號)……四七八
第十二款　臨時國庫證券(ら號)……四七九
第十三款　臨時國庫證券(む號)……四七九
第十四款　臨時國庫證券(う號)……四八〇
第十五款　臨時國庫證券(の號)……四八五
……四八六

第十六款　臨時國庫證券（く號）……四八六
第十七款　臨時國庫證券（に號）……四八七
第十八款　割引發行……四八九
第四節　收支及運用……四八九
第一款　收　支……四九一
第二款　資金運用……四九三
第一項　輸出爲替資金疏通……四九四
第二項　輸出軍需品代金決濟……四九六
第三項　聯合國財政援助……五〇〇
第三款　運用損益……五〇二
第五節　臨時國庫證券收入金特別會計の廢止……五〇四
第六節　償還及支拂……五〇六
第五章　大藏省證券……五〇九
第一節　根據法令……五〇九
第一款　大藏省證券條例……五〇九
第二款　臨時軍事費支辨に關する法律……五一二
第三款　專賣局及製鐵所の据置資本補足に關する法律……五一三
第四款　帝國鐵道會計法第十二條……五一五
第二節　發　行……五一六
第三節　償　還……五三二
第六章　米穀證券……五三四
第一節　米穀法及米穀需給調節特別會計法の制定……五三四
第二節　米穀證券の發行……五三七
第七章　借入金……五四四
第一節　緒　言……五四四
第二節　日露戰役前の短期借入金……五六一
第一款　第八期以前の借入金……五六一
第二款　征討費借入金……五六二
第三款　常用部不足金一時借入金……五六二
第四款　金祿公債償還金借入金……五六三
第五款　陸軍軍用新式銃及彈藥製造費借入金……五六四

第六款　假皇居御造營費借入金……五六五
第七款　諸官衙及議院建築費借入金……五六六
第八款　鐵道建設費借入金……五六七
第九款　臨時軍事費借入金(日清戰役)……五六七
第十款　償金預ケ合借入金……五六七
第十一款　清國事件費借入金……五六八
第十二款　製鐵所作業資金繰替借入金……五六九
第三節　紙幣銷却借入金……五七〇
第四節　軍用切符銷却借入金……五七三
第五節　短期借入金……五七九
第一款　明治二十七年法律第十六號に依る借入金……五七九
第一項　緒言……五七九
第二項　明治三十五年度以前の借入金……五八二
第三項　明治三十六年度以後の借入金……五八二
第二款　軍備補充費一時借入金……六〇七
第三款　臨時艦艇製造費借入金……六一〇
第四款　臨時事件費一時借入金……六一一
第一項　明治三十七年法律第一號に據る借入金……六一一
第二項　明治三十八年法律第十二號に據る借入金……六一九
第三項　明治三十九年法律第一號に據る借入金……六二四
第五款　專賣局及製鐵所据置運轉資本補足借入金……六二七
第六款　鐵道事業費借入金……六三四
第七款　鐵道事業費一時借入金……六四〇
第八款　治水事業費借入金……六四三
第九款　大正三年臨時事件費借入金及大正三年臨時軍事費借入金……六四五
第十款　朝鮮事業費借入金……六四八
第十一款　朝鮮事業費一時借入金……六五四
第十二款　朝鮮旱害救濟費借入金……六五四
第十三款　臺灣事業費繰替借入金及臺灣事業費借入金……六五七
第十四款　臺灣經費補充一時借入金……六六七
第十五款　樺太事業費借入金……六七〇
第十六款　樺太災害費借入金……六七三

第十七款　關東事業費借入金……六七四
第十八款　米穀借入金……六七四
第十九款　健康保險事業費借入金……六八〇
第六節　承繼借入金……六八〇
第一款　舊鐵道會社借入金……六八〇
第二款　舊韓國政府借入金……六八〇
附錄　地方債……六八六
第一節　起債の權限……六八六
第一款　緒　言……六八八
第二款　道府縣債……六八八
第三款　郡　債……六九二
第四款　市町村債……六九六
第五款　水利及土功組合債……六九七
第二節　起債の稟請……七〇三
第三節　起債許可の方針……七〇六
第四節　地方外債の許可……七〇九
第五節　地方債の監督……七一四
第六節　日露戰後に於ける地方債の整理……七二二
地方債附表……七二六
第八編附表……七三二
附表第一　國債整理基金特別會計歲入歲出決算額一覽表……七六〇
附表第二　公債金特別會計歲入歲出決算額一覽表……七六〇
附表第三　國債證券取引高表……七六五
附表第四　國債市價表……七六六
（イ）內國債……七六六
（ロ）外國債……七六九
國債市價圖表（二葉）……七八四—八〇〇
卷末

第八編　國債（下）

圖版目次

一　九分利付外國公債證書
二　七分利付外國公債證書
三　第一回四分利付英貨公債證書
四　第一回六分利付英貨公債證書
五　第二回六分利付英貨公債證書
六　第一回四分半利付英貨公債證書
七　第二回四分半利付英貨公債證書
八　第二回四分利付英貨公債證書
九　五分利付英貨公債證書
一〇　四分利付佛貨公債證書
一一　第三回四分利付英貨公債證書
一二　英貨鐵道債券
一三　英貨鐵道證券
一四　佛貨國庫債券
一五　六分半利付米貨公債證書
一六　（第三回）六分利付英貨公債證書
一七　臨時國庫證券（利札附）
一八　同　上（割引發行）
一九　大藏省證券（割引發行）
二〇　同　上（利付發行）
二一　米穀證券

第三章　外國債

第一節　日露戰役前の外國債

第一款　明治初年の外國負債

明治初年の外國負債としては、政府が起債したるものの外に、幕府及諸藩より承繼したるものあり。新に政府が起債したるものの中には、九分利付及七分利付兩外國公債の如く、純然たる近代的募集方法に依れるものありて、此等は別に一款を設けて之を說述すべしと雖も、其の外に新政府が維新匆々に際し、財務缺乏のため外國人より借入したるものなきにあらず。又舊幕府及舊諸藩の外國負債は直接政府の關係したるものにあらざるも、政權歸一後は政府之が整理處分に任ぜざるを得ず、當時兵馬倥傯財政窮迫の際、殊に列强の監視下に之を遂行することは、政府の最も困難としたる所なり。而して此の種明治初期の外國負債の顚末に就ては、既刊の國債史上に全然記述する所なきを以て、玆に其の起因の大要と處分の概略を述ぶべし。但し玆に云ふ外國負債は現在の所謂外國債とは趣を異にし、單に本邦在住の外國人に對する借入金又は債務を指稱するものとす。

第一項　舊幕府及新政府の外國負債

明治初年政府が舊幕府より承繼し、及自ら起したる外國負債は合計百五十萬弗にして、其の他の對

外債務を合すれば凡六百萬弗と推定せられたり。而して政府が其の整理處分方に就き甚だ苦慮したることは、明治二年三月外國官が所謂「外國官問題四條」中の第一條に之を掲げて、以て廟議の方針を求め、次で四月之を公議所の議案に附し、更に五月二十四日には「外國交際及理財會計」に關する勅問ありて、本問題に關し廣く衆議を求められたる點に見ても明かなり。今右「外國官問題」第一條に依れば當時の外國負債の種類及債額は左の如くなりき。

『方今王政維新ノ際、舊幕ヨリ引繼外國ヱ逋債大凡六百萬弗（一弗ハ凡我三歩二朱餘也）ノ高ニ及ブ。故ニ今急速此債ヲ償フノ催促アリ。卽今內外費用夥シ。是ヲ償フノ道果シテ如何。

一　長州下關一條ニ付英佛米蘭ヱ償金三百萬弗ノ內、殘高百五十萬弗

一　橫濱「ヲリエンタルバンク」（英商兩替屋ノコト）ヨリ借入高五十萬弗

一　英商「ヲルト」ヨリ貨幣局ヱ借入高大凡百萬弗

一　外國人ヨリ諸藩ノ引負高、政府關係ノ分凡二十三四萬弗

一　長崎製鐵所引當ノ金高竝橫須賀製鐵所・燈明臺・造幣局・鑛山局・軍艦等、外國人ニ關係スル諸拂高迄ヲ通計シテ本文ノ金高ニ至ル也。然レドモ大凡ノ數ニシテ詳細ニ記シ難シ。』

右の內第一項の下關事件の賠償金は性質上多少異なる所あり、又第五項に掲ぐる分は內容判明せざるも、概ね一般經費として支拂はるべきものに屬する如く解せらるるを以て、此の兩者を除けば純然たる外國負債は第二、第三、第四項の三種なりとす。而して此の內第四項の諸藩關係の分は詳細明かならざれども、次項に述ぶべき舊諸藩の外國負債中の一部なるべきを以て之れ亦玆には姑く省略し、專ら第二及第三の外國負債に就て略說すべし。

（一）東洋銀行よりの借入金

本債は元來幕府が橫須賀製鐵所を抵當として、佛國ソシエテ・ゼネラルより洋銀五十萬弗を借入したるに原由せり。卽ち慶應四年（明治元年）二月幕府外國事務副總裁川勝近江守及會計副總裁成島大隅守とソシエテ・ゼネラルの代表者ピゲー竝にワツソールとの間に約定を結び、期限七箇月、年利一割橫須賀及橫濱製鐵所抵當の條件を以て洋銀五十萬弗を借入したるが、幾許もなく幕府は倒れ、而も償還期限切迫して督促急なりしを以て、政府は已むなく之を引受け、同年七月英國東洋銀行橫濱支店より同額の借入をなして、前債を償還したり（五十萬弗中三萬弗は銷却濟なりしを以て實際支拂高は四十七萬弗なりとす）。神奈川府裁判所東久世中將及小松帶刀等が、東洋銀行と結びし約定に依れば、其の債額五十萬元（弗）（英貨十一萬六千六百六十六磅餘）、償還期限二箇年、年利一割五分、橫濱稅關の關稅收入を抵當とし、其の支拂方法は、利子は明治二年一月より同三年七月までに各半箇年分宛四回に、元金は二年十月より同三年七月までに每回五萬弗宛を月賦拂渡すものとせり。

（二）貨幣司借入金

本債は明治元年十二月貨幣司（前揭引用文に貨幣局とあるは誤りなるべし）經費充當のため、同司知事長岡右京が英商ヲールトと契約して借入したるものにして、債額洋銀四十萬弗、年利一割二分、其の償還は本邦物產を同人に賣却し、其の代價を以て之に充つる豫定なりしが、期限到來に先ち翌二年三月に至り、政府は大阪府判事兼外國官判事五代才助、會計官出仕加賀權作に命じ、和蘭國ボードイン會社より洋銀百萬弗を借入せしめ（借入條件不明）、此の內四十萬弗及解約金若干をヲールトに交付して、同人との契約を解けり（前揭引用文にヲールトに對する負債百萬弗となせるはボードインの誤りなり）。但し右百萬弗中六十

萬弗は年度内に償還せしを以て、ボードイン社に對する負債額は決算書上には四十萬弗と計上せられたり。

以上は明治二年三月現在の調査なるが、此の外に第一期及第二期歳入歳出決算書に依れば舊幕府の和蘭商社に對する債務（兵器等の購入代金）あり、又第二期には政府が在横濱蘭商某より借入せし十萬五百圓の收支ありと雖も、今其の詳細を知るを得ず。茲に右決算書に依りて外國借入金の各年度の收支を掲ぐれば、第一期（慶應三年十二月より明治元年十二月まで）の借入金は、前掲東洋銀行及ヲールト分合計八十九萬四千三百七十五圓（便宜上以下弗或は元を圓に直す）にして（歳入第九款）、償還高はソシエテ・ゼネラル及蘭商某に對する舊幕府の負債合計五十四萬五千九百三十六圓四十二錢五厘（歳出第十一款）、第二期（明治二年一月より同年九月まで）の借入高は在横濱蘭商某よりの十萬五百圓（歳入第九款）にして、償還高は第一期の蘭商某に對する幕府舊債殘金四萬二千五百圓（歳出第十一款）及當期借入の前記某蘭商に對する十萬五百圓（歳出第十五款）、第三期（明治二年十月より同三年九月まで）は起債なく、償還高は東洋銀行及ボードインに對する分合計八十九萬四千七百五十圓（歳出第十五款）にして、第三期を以て外國負債は悉皆整理償還せられたり。卽ち右三期間に於ける借入高合計は九十九萬四千八百七十五圓、償還高合計は百五十八萬三千六百八十六圓五十七錢四厘にして、其の差額は卽ち舊幕府より引繼ぎたる負債額なりとす。尚ほ右償還金額は何れも元金高にして、此の外に利子の支拂あるは言を俟たざるも、今其の內譯を明示することを得ず。

第二項　舊諸藩の外國負債

既に前章第一節第一款新公債及舊公債の部に於て述べたるが如く、明治四年七月の廢藩置縣と共に、舊諸藩の內國負債は新政府によりて承繼處分せらるることとなり、之に對して政府は新公債及舊公債を發行して、夫々債權者に交付したり。

然るに諸藩の債務は必ずしも內國人に限らず、安政開港以後外國との交易開かるるに及び、外國人に對しても多大なる借債を負ひしもの少からざりき。殊に其の傾向は維新以後更に著しきを加へたるを以て、政府は屢〻法令を發して之を禁制し、又諸藩に對して其の整理方を懲懃したり。然れども其の效果殆んど擧らざる中に廢藩置縣となりたれば、今や中央政府直接之が整理處分に當らざるべからざるに至りしを以て、政府は一方に內國債の處分を斷行すると共に、他方別に一局を設けて諸藩の外國負債の整理處分に當らしめたり。

政府が舊諸藩の內外負債整理處分を發表して、府縣及債主に對して藩債の申告を命ずるや、外國負債に在りては此の前後に於て債權者たる外國人より、其の稱貸したる諸藩の債務不履行・延滯を理由として、自ら或は自國の領事・公使の手を經て續々訴訟を提起し來る者あり、政府をして豫想外の難局に陷らしむるに至れり。仍て政府は明治四年九月從來民部省戸籍寮の所管なりし判理局を大藏省に移管し、專ら舊諸藩の外國債を審議せしめ、同局に於て公債と判定するものは之を受理し（公私債の判定は固より其の經費の使途如何に依りしものなるも、外國負債に就ては證書に藩印若くは藩官印あるものは、其の費途を問ふことなく一時之を公債と認め、其の費途より見て私債と爲すべきものは後日之を追徵することとせり）、私債と判定するものは悉く之を司法省に送致して其の判決に俟つこととせり。

斯くして公債と決定したるものは全部を合せて三十七藩、百十一件、外國債主五十七人、金額四百萬

餘圓に達したるが、此の內元利減却を交渉の上實際に支拂ひし額は三百六十餘萬圓に上れり。右の內純然たる公債の性質を帶びたるものは僅に水戸・鹿兒島・館・二本松・高知・黑石・福岡・山口・小城・沼田・豐橋・福江・廣島の十三藩分と、秋田・仙臺兩藩債の各一部にして、合計九十萬圓を超えず、又司法省の判決によりて公債と決したるは會津・米澤藩（兩藩にて一件）の四萬圓、弘前藩の千四百四十八圓に止まり、他は悉く藩士族・用達商人等が藩名を藉り、藩費と假稱して借入したるもの、卽ち一時辨給の私債的公債に外ならざりき。「舊藩外國逋債處分錄」には之を次の如く言へり。

『抑各藩ノ逋債タル千差萬別一轍ノ軌ヲ以テ判理ス可カラズト雖モ、大凡藩用ヲ給シ國費ニ充テ事止ヲ得ザルニ出ルモノハ幾バクモナシ。一時商法ノ說ニ眩シ、猾吏姦商其間ニ攀援シ、藩廳ヲ慫慂シ濫借浪費、公ヲ假リ私ヲ濟シ終ニ今日ノ大債ヲ釀成スル比々皆是ナリ。然ト雖モ版籍奉還以降各藩之事大小ナク官省ト同視ス。苟モ證券ニ藩官ノ名印アル、其經費ノ如何ヲ問ハズ概シテ公債ト爲サザルヲ得ズ云々』

諸藩の外國負債の起因及態樣は固より複雜を極めたるも、多くは戊辰役前後に發生し、大體左の如き原因に依るものなりき（左の數字は元高のみにして利子を除外し、且つ錢位を切捨てしため次表の計數と合致せず）。

（一）	輸入品代金支拂未濟	一、八五四、一四五圓
（イ）	軍艦・汽船買入代	七二二、六三〇
（ロ）	武器買入代	三四〇、〇六三
（ハ）	支那米買入代	四七九、二一二
（ニ）	反物・小間物・毛布・靴等買入代	一三四、七〇九
（ホ）	機械類買入代	五、三〇六
（ヘ）	其の他（品名不詳）	一七二、二二六
（二）	輸出品引當前借（茶・生絲・銅・樟腦等）	三一六、三六五
（三）	藩經費充當現金借入	七四九、七九八
（四）	商業資金・民間勸業救恤貸附資金借入	三六九、三五二
（五）	其の他（留學生費用・傭人俸給・違約金・破談金等）	四七二、七〇〇

卽ち政府が公債、或は本質上は私債なるも藩印・藩官印の押捺あるため、一時公債として處分すべきものと認めたる額は、右の如くにして、其の利子を加ふれば四百萬圓を超えたり。而して此等の負債は概ね頗る高利率にして、中には二三割に上るものありしを以て、政府は現金卽償を翳して元金の切下利子の減額免除を交渉し、結局支拂金額を三百六十八萬八千餘圓に減ずることを得たり。今負債決定高、償却決定高、差引減高及件數を藩別に表示すれば左の如し。

藩名	種別	件數	外債決定高	償却決定高	差引減額
津	私	九	二五四、八八〇、四九〇円	二二九、八五七、四九〇円	二五、〇二三、〇〇〇円
犬山	私	一	八三、五一六、一七〇	七九、〇〇〇、〇〇〇	四、五一六、一七〇
豐橋	公	一	三、二七〇、六六〇	二、五〇〇、〇〇〇	七七〇、六六〇
忍	私	一	一六、〇六七、四一〇	一四、七三八、四五〇	一、三二八、九六〇
岩槻	私	一	五、〇六七、九〇〇	四、八四二、一〇〇	二二五、八〇〇
花房	私	一	二八、〇〇〇、〇〇〇	二八、〇〇〇、〇〇〇	—
加知山	私	一	八、九六二、五三〇	八、九六二、五三〇	—

| | | |

右に依れば外國負債に對する實際の支拂高は三百四十五萬五千四百二十圓餘にして、前掲政府償却高と多少相違するも、右は恐らく償却高決定後同一債主に屬する數件或は十數件を併算し、支拂に當り更に元利の減却をなせしもの、支拂期日繰上のため割引せしもの、債權者事故のため支拂不能に終りしもの等ありしに由るなるべし。

斯くして舊諸藩外債に關する政府對外國債主との問題は解決したるが、對內問題卽ち政府と、斯かる負債を引起せし所の舊藩當事者、若くは舊藩を通じて負債を起したる舊藩士族・用達商人等との關係は尙殘りたり。此等の者に對しては明治二年以來の再三の禁制を犯したる廉、竝に藩名を假稱したる廉等に因り、夫々行政處分乃至司法處分に附すると共に、他方其の性質上私債に屬するものは、其の起因に從つて舊藩主・士卒・商人等の負債に歸せしめ、此等に對しては之を追徵することとせり。而して先述の如く政府が一時辨給せし此の種の私債的公債は全債額の五分の四に達したるが、此の內債務辨償と共に擔保物を官收したる件々に對しては單に「拂棄」として追徵せず、又實際追徵に當りては多くの長年賦を以て爲され、且つ情狀に因りては免除せられたるもの少からず（明治五年四月舊藩主士卒の家祿を以て藩債を抵償することを止む）、或は當事者の破產等に依り徵收不可能となりし金額も少からざりき。其の年賦返納を命ぜられしものは政府貸附金の一種として處理せらるるに至れり。今八期間歲入歲出決算報告書に依りて第八期迄の追徵額を揭ぐれば左の如し。

第四期	一、〇〇〇圓・〇〇〇
第五期	二五二、七七三・二二五
第六期	七三、〇九八・五九三
第七期	五、九一二・八三一
第八期	一一六、〇四六・二六三
合計	四四八、八三〇・九一二

此等の追徵金と共に政府の負擔を輕減したるものは、前記の抵當物、卽ち政府が諸藩より引繼を受けたる軍艦・汽船・武器・機械等の拂下代價收入なり。拂下代價も亦多く年賦上納の方法に依りしものなるが、皆濟に至らずして棄捐・免除となりしもの大多數を占め、其の然らざるものは之れ亦政府貸附金の一種となれり。

斯くして政府が舊藩外國負債承繼によりて眞實に負擔したる額は、支拂總額より返納總額及現品拂下代總額を控除せし額にして、此の金額が從來政府の引受けたる公債額と看做され、其の控除額が一時辨給の私債と看做されたり。卽ち此の公私債の區別は債務の性質に依るものにあらずして、單に會計整理上の便法として採用せられたるに過ぎず、從て此の區分に依るときは、悉皆返納或は拂下代價を以て全債額を補塡し得たるものは、公債處分として現はれざるに至れり。左に償却高・追徵及拂下代價收入高・差引政府負擔高を各藩別に表示すべし。

藩名	償却高	追徵及拂下代價收入	差引政府負擔高
津	二二九、八五七・四九〇円	九四、七五八・八〇六円	一三五、〇九八・六八四円
犬山	七九、〇〇〇・〇〇〇	七九、〇〇〇・〇〇〇	—
豐橋	二、五〇〇・〇〇〇	—	二、五〇〇・〇〇〇
忍	一四、七三八・四五〇	一一、五九一・二三三	三、一四七・二一七
岩槻	四、八四二・一〇〇	四、八四二・一〇〇	—
花房	二八、〇〇〇・〇〇〇円	二八、〇〇〇・〇〇〇円	—
加知山	八、九六二・五三〇	二、六九一・六八〇	六、二七〇・八五〇
櫻井	六、八四四・五七〇	—	六、八四四・五七〇
水戶	五四、四三三・一五四	—	五四、四三三・一五四
郡上	一五、五四〇・七〇〇	四、四八一・二五〇	一一、〇五九・四五〇

高富	七、五〇〇・〇〇〇円	一〇五・八三四円	七、三九四・一六六円	赤穂	六、八一四・二七〇円	二、九〇三・〇六〇円	三、九一一・二一〇円
松代	五、六一六・〇〇〇	—	五、六一六・〇〇〇	廣島	四六、一七〇・〇〇〇	—	四六、一七〇・〇〇〇
沼田	五、一七〇・八一四	五、一〇六・〇〇〇	六四・八一四	山口	一、六七〇・八三〇	—	一、六七〇・八三〇
二本松	一〇九、九四四・〇七九	五〇〇・〇〇〇	一〇九、四四四・〇七九	田邊	五、八〇〇・〇〇〇	—	五、八〇〇・〇〇〇
仙臺	一〇九、六二一・〇〇〇	六一、二九三・七五〇	四八、三二七・二五〇	高知	四五一、四九三・五一五	一四二、九九八・八〇〇	三〇八、四九四・七一五
盛岡	六〇八、七二一・九五〇	六三、六四八・五九〇	五四五、〇七三・三六〇	福岡	一、九一〇・五八〇	—	一、九一〇・五八〇
弘前	一、四四八・九六〇	—	一、四四八・九六〇	岡	一二四、九五〇・七八九	五七、三一一・六六三	五七、六三九・一二六
館	一〇〇、〇八二・五七〇	—	一〇〇、〇八二・五七〇	佐賀	四六九、九七三・二五〇	一九六、四〇六・〇三二	二七三、五六七・二一八
斗南	五二、七〇六・九三〇	五、〇九八・六二五	四七、六〇八・三〇五	小城	一九、九九八・〇〇〇	—	一九、九九八・〇〇〇
黑石	一、三〇六・二五〇	—	一、三〇六・二五〇	福江	一、八〇〇・〇〇〇	—	一、八〇〇・〇〇〇
米澤	二〇、〇〇〇・〇〇〇	—	二〇、〇〇〇・〇〇〇	高鍋	二一、三四二・六八〇	一四、四六四・六〇八	六、八七八・〇七二
秋田	四八八、九六五・四八〇	一四、八二五・〇四二	四七四、一四〇・四三八	鹿兒島	三五、〇一二・九四〇	—	三五、〇一二・九四〇
岩崎	六二、八一四・二二〇	二、三八二・二三四	六〇、四三一・九八六	嚴原	三一八、六四四・六六五	二七、七一八・三六四	二九〇、九二六・三〇一
金澤	一七四、二六三・五九八	六七、〇一六・七五一	一〇七、二四六・八四七	合計	三、六八八、四五一・三六四	八八七、一四四・四二二	二、八〇一、三〇六・九四二

（備考）追徵額及拂下代價收入は追徵せらるべき額及收入せらるべき額を示す。從て其の後に棄捐・免除となりしものも完濟として計上せり。例へば犬山藩の外債七九、〇〇〇圓の代價として引繼ぎし汽船の拂下代は八、〇〇〇圓（但年賦）にして、其の內五三三圓が收入せられしのみにて、殘餘は棄却となれり。而して此の種の例は頗る多く、從て之を考慮に入るれば、假令實際の支拂高は前表償却高より幾分減少せしとは云へ、政府の實際負擔額は右表の數額よりも遙に多額に上りしものなり。

第二款　九分利付外國公債

第一項　起債

我國が初めて公債證書發行に依りて外國債を募集したるは明治三年三月に於ける九分利付外國公債なるが、本公債は最初の外國債たりしのみならず、實に我國財政史上公債募集の嚆矢をなすものとす。

維新政府は開國進取富國强兵の國是の下に大いに殖產興業を圖らんとせしが、其の第一著手として鐵道起工の計畫を樹てたり。偶〻英國人ホレーショ・ネルソン・レーなる者ありて、其の朋友數名と相謀り故國倫敦に於て蒸氣機械及電氣機械の製作を營まんがため會社を起したるが、レーは能く東洋の事情に通じ且つ支那文を解したるを以て、西曆千八百六十九年（明治二年）支那に至り、同國政府に建白して、政府をして鐵道及電信等の事業を起さしめ、其の費用に供せんが爲め同國政府の公債を發行すべき免許を受け、以て自ら利せんと欲し頗る努むる所ありたり。然るに此のことは遂に不成功に終りしを以て、去つて我國に遊說し、頻りに政府の鐵道起工計畫を賞讚し、且つ該工事費凡そ英貨三百萬磅を要するものと豫算して、其の資金は我が海關稅竝に將來築造すべき鐵道の純益を抵當として之が稱貸に任ずべく、其の爲めには先づ自己一人若くは其の友人數人の資財を以て百萬磅を提供し而して該工事及起債諸般の事項は總て之を一任せられむことを建議したり。玆に於て政府はレーに命ずるに該工費豫算高英貨三百萬磅の內百萬磅を供給すべきことを以てし、元金拂戾の期限・方法・利率竝に其の支拂方等を定むるの權を擧げて之に委任したり。之れ明治二年十一月のことなり。

而して當時政府の意圖したる所は單純なる資金の調達に在りて、之を公募に付する等の考へなかりしが、レーの故國に歸るや、帝國の委任を受けたりと稱してヘンリー・シュレーダー商會の手を經て之を公募に付し、翌年四月募集を完了したるのみならず、委任の範圍を超えて海關稅及鐵道純益を擧

げて之が抵當に供したり。斯くの如くレーの爲す所政府の豫期に反すること多かりしを以て、政府は大に其の背信を責め、且つ之が善後の措置を採らしめんが爲め、大藏大丞上野景範を特例辨務使として英國に派遣し、種々折衝の上レーに對する委任を解くこととし、卽ち募集費及解約金を合せて七萬磅をレー等に交付して同人との關係を斷ち、既に募集したる公債は之を承認して、其の事務は擧げて之を東洋銀行の取扱に移したり。而して殘餘の二百萬磅は遂に募集せざりしに由り、海關稅抵當公債として發行せられたる九分利付外國公債は結局總額英貨百萬磅、當時の我金貨に換算して四百八十八萬圓に止まれり。今其の發行條件を摘記すれば左の如し。

一、總　　額　英貨百萬磅（邦金貨換算額四百八十八萬圓）
一、發行價格　百磅に付九十八磅
一、政府手取額　同上に付九十一磅
一、利　　子　年九分、明治三年八月より付し、毎年二月一日、八月一日の兩回に支拂ふ。
一、抵　　當　帝國海關稅收入及鐵道純益
一、元金償還　證券を十組各十萬磅宛に分ち、三箇年据置後卽ち明治六年（一八七三年）八月より明治十五年（一八八二年）八月まで、毎年其の一組宛を償還す。

一、證　　券　千磅券　二〇〇枚　二〇〇、〇〇〇磅
　　五百磅券　四〇〇枚　二〇〇、〇〇〇磅
　　百磅券　六、〇〇〇枚　六〇〇、〇〇〇磅

又ヘンリー・シュレーダー商會が募集に當り發表したる目論見書及其の譯文左の如し。

IMPERIAL GOVERNMENT OF JAPAN CUSTOMS LOAN FOR £1,000,000 STERLING.

In Bonds to Bearer for £100, £500, and £1,000 Each.

BEARING INTEREST AT 9 PER CENT. PER ANNUM FROM 1st AUGUST, 1870.

(The Instalments meanwhile bearing 6 per cent.)

Payable Half-Yearly in London.

The Loan to be redeemed at par in 13 Years, by means of
Ten Annual Drawings, beginning 1st August, 1873.

PRICE OF ISSUE 98 PER CENT.

MESSRS. J. HENRY SCHRÖDER & Co. are authorised by Mr. HORATIO NELSON LAY, C. B., the Special Commissioner duly empowered by the Imperial Government of Japan, to receive applications for this Loan on the following conditions:—

1. The Loan will be represented by Bonds to Bearer for £100, £500, and £1,000 each, divided into ten Series of £100,000 each, marked A to K. One of these Series will be drawn annually in the month of May, commencing 1873, and be paid off at par on the 1st August following.

2. This Loan is specially secured upon the Customs' Dues and Duties of the Empire, and on the net receipts of the Railways hereafter mentioned, the construction and equipment of which is the principal object of the Loan.

3. The Japanese Government have nominated the Oriental Bank Corporation their Agents to receive the proceeds of this Loan.

4. The Oriental Bank Corporation, through its branches, will act as Agents for the receipt of the funds required for the payment of the interest and principal to be transmitted to Messrs. J. Henry Schröder & Co.

5. The Price of Issue is 98 per cent. payable .-

£ 5	per cent.	on Application.
15	„	on Allotment.
30	„	on the 28th May.
25	„	on the 28th June.
23	„	on the 1st August.
£ 98		

Interest at the rate of 6 per cent. per annum will accrue on each instalment from the date of payment to the 1st August. The amount of such accrued interest will be deducted from the final payment. All the instalments may be anticipated, with allowance of interest as above, which, in that case, will be deducted at the time of payment in full.

The first half-yearly coupon will be payable, on the 1st February, 1871, at the Counting-house of Messrs. J. Henry Schröder & Co., London.

In cases of allotment of £ 1,000, or a multiple thereof, the allotment will be made as nearly as possible in an equal number of Bonds of each series, in order to insure the redemption of one-tenth part at each drawing.

Scrip Certificates to Bearer will be issued against Allotment Letters, to be exchanged for Bonds to Bearer, as early as possible after payment of all the instalments.

The Bonds will be signed by the Special Commissioner, and countersigned by Messrs. J. Henry Schröder & Co., as Agents for the Loan. Coupons for the half-yearly interest due 1st February and 1st August of each year will be attached.

The General Bond, specifying the conditions of, and the securities for, the Loan, has been executed by the Special Commissioner, Mr. H. N. Lay, C. B., on behalf of the Japanese Government, and will be deposited, together with the original Edicts, at the Bank of England. A copy of the General Bond is appended.

Applications must be made in the annexed form, at the Oriental Bank Corporation, Threadneedle Street, E. C., accompanied by a deposit of £ 5 per cent. on the nominal amount of the Bonds applied for.

In case default is made in payment on allotment, or of any of the instalments on the days named above, the allotment will be liable, to be cancelled, and the sums then already paid to be forfeited.

In case no allotment is made, the money deposited will be returned to the applicant without deduction.

The radical changes which have recently taken place in Japan, and their important effects, not only on the Japanese themselves, but upon their commercial relations with Foreign countries, are recognised by all who have a knowledge of the vast resources and the productive powers of that Empire.

The natural result of this improved state of things has been a desire, on the part of the Government, to develope the resources of the Empire by the introduction of Railways, and to the accomplishment of that object the present Loan is mainly designed.

Mr. Horatio Nelson Lay, C. B., whose name in connection with China and Japan is well known, has been selected by the Japanese Government as their Special Commissioner for raising the Loan on their behalf. They have conferred on him full powers to that effect, and have assigned and appropriated as a special fund for payment of the interest and the repayment of the capital, the whole of the Customs Dues and Duties now or hereafter to be levied throughout the Empire, with full powers for the collection and transmission of the moneys necessary for such purposes.

The Railways, the proceeds of which form an additional security for the Loan, and which the Government have agreed to construct and complete within a period of from Three to Five years, from December, 1869, are —

1. A Line from YEDO, the present capital, with a population exceeding 2,000,000, to HIOGO via OSAKA, a town of a million of inhabitants all engaged in trade, or via KIOTO, the ancient Sacred Capital, and the centre of wealth and commerce of the Empire.

2. A Line from YEDO to YOKOHAMA, which from its close proximity to the capital, and as the natural outlet of the great silk producing districts, must always maintain its commanding position among the open ports of Japan.

3. A Line from OSAKA connecting the Biwa Lake with the Port of Tsuruga.

A Plan is annexed showing the course of the Railways, from which their important connection with the commercial outlets of the Country can be clearly seen.

145, LEADENHALL STREET, LONDON, 23rd April, 1870.

日本帝國政府英貨百萬磅海關稅公債目論見書譯文

無記名證券壹百磅、五百磅、壹千磅ノ三種ニシテ何レモ千八百七十年八月一日ヨリ年九分ノ利子ヲ付シ年二回倫敦ニ於テ之ヲ支拂フ

（分割拂込ヲ許シ其期間中ハ年利六分トス）

千八百七十三年八月一日以後毎年一回宛十回抽籤ヲ行ヒ十三年間ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス

發行價格額面九拾八「パーセント」

「ヘンリー・シユレーダー」商會ハ日本帝國政府ニ依リ適法ニ權限ヲ賦與セラレタル特命全權委員英國「バス」勳位「ホレーシオ・ネルソン・レー」ニ依リテ左ノ諸條件ニ基キ本公債ニ對スル申込ヲ受付クルコトヲ認可セラレタリ

一、本公債ハ無記名證券壹百磅、五百磅及壹千磅ノ三種ノ證券ニシテA號乃至K號（J ヲ除キ）ノ各拾萬磅十組トス右ノ中一組ニ付千八百七十三年以降毎年五月抽籤ヲ爲シ其ノ年八月一日ニ至リ額面金額ヲ以テ之ヲ支拂フ

二、本公債ハ特ニ日本帝國海關稅及後述スル處ノ諸鐵道ノ純益ヲ以テ擔保セラル本公債ノ主タル目的ハ右鐵道ヲ敷設シ之カ設備ヲ爲スニ在リ

三、日本政府ハ本公債收入金ノ取扱ヲ爲サシムル爲メ東洋銀行ヲ以テ代理店トシテ指定ス

四、東洋銀行ハ本公債ノ元利金ノ支拂ニ必要ナル資金ヲ受領シ之ヲ「ヘンリー・シユレーダー」商會ニ移送スヘキコトニ關スル代理店タル事務ヲ其ノ支店ニ於テ行フ

五、本公債ノ發行價格ハ九十八「パーセント」トシ其ノ拂込左ノ如シ

應募申込ノ際	額面百磅ニ付	五　磅
割當ノ際		十五　磅
五月二十八日		三十　磅
六月二十八日		二十五磅
八月一日		二十三磅
合計		九十八磅

各分割拂込ニ對シテハ其ノ拂込ノ日ヨリ八月一日ニ至ル迄年六分ノ利子ヲ付シ該利子額ハ拂込完了ノ際之ヲ控除ス

總テノ分割拂込金額ハ繰上ケテ之ヲ拂込ムコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ該拂込金ニ對スル前記ノ利子ハ拂込完了ノ際ニ之ヲ控除ス

第一回半箇年分利札ハ千八百七十一年二月一日在倫敦「ヘンリー・シユレーダー」商會會計課ニ於テ之ヲ支拂フ

壹千磅又ハ其ノ倍數ノ割當ノ場合ニハ該割當ハ毎回抽籤時ニ於テ必ス本公債額ノ十分ノ一ヲ償還シ得セシムル爲メニ各組公債ノ數ヲ能フ限リ同等ニスル樣之カ割當ヲ爲スヘシ」

公債割當通知書ト引換ニ無記名假證券ヲ發行シ置キ分割拂込完了後成ル可ク速ニ之ヲ無記名本證券ニ交換セシム

本證券ニハ特命委員署名シ代理店トシテ「ヘンリー・シユレーダー」商會副署ス尙每年二回二月一日及八月一日ニ支拂フヘキ利札ヲ附ス

特命委員英國「バス」勳位「ホレーシオ・ネルソン・レー」氏ハ日本政府ノ爲メニ公債諸條件及擔保ヲ明記セル證券雛形ヲ作成シ命令書原書ト共ニ之ヲ英蘭銀行ニ預託スヘシ證券雛形寫ハ之ヲ添付セリ

應募申込ヲ爲サントスル者ハ別紙書式ニ之ヲ認メ該公債額面百磅ニ付五磅ノ保證金ヲ添ヘ倫敦「イー・シー・スレツドニードル」街東洋銀行ニ之ヲ差出スヘシ

割當又ハ前記分割拂込諸期日ニ際シ拂込ヲ怠ルトキハ該割當ハ其ノ效力ヲ失ヒ既ニ拂込タル金額ハ之ヲ沒收ス

全然割當ノ行ハレサル場合ニ於テハ保證金全額ヲ應募申込者ニ返還ス

最近日本ニ起リタル急激ナル變革及其ノ結果日本自身ノミナラス諸外國トノ通商關係ニ對シテ重大ナル影響ヲ生シタルコトハ同帝國ノ資源豐富ニシテ生產力强大ナルコトヲ知ル者ノ均シク認ムル所ナリ事物發達ノ當然ノ結果トシテ日本政府ニ於テハ豫テヨリ鐵道ヲ創設シ以テ其ノ資源ヲ開發セントノ希望ヲ有シタルカ本公債ノ募集ノ主タル目的ハ之カ完成ヲ期スルニ在ルモノトス

日本政府ハ日本及支那ニ關シ著名ナル英國「バス」勳位「ホレーシオ・ネルソン・レー」氏ヲ以テ日本政府ノ爲メニ本公債ノ募集ヲ爲スヘキ特命全權委員ニ選任シタリ

日本政府ハ該目的ノ爲メニ其ノ全權ヲ「ホレーシオ・ネルソン・レー」氏ニ賦與シ公債利子ノ支拂及元金ノ償還ノ特別資金トシテ日本帝國ニ於テ現在及將來課徵スヘキ海關稅ノ全部ヲ充當及流用スルコトトシ之カ爲メ必要ナル金員ノ徵集及移送ノ全權ヲ賦與シタリ

左ニ揭ケタル諸鐵道ノ收入ハ本公債ノ附加的擔保ト爲ルモノニシテ日本政府ハ千八百六十九年十二月以降三年乃至五年間ニ之カ建設及完成ヲ爲スヘキコトヲ約ス

一、現首都ニシテ人口二百萬以上ヲ有スル江戸ヨリ大阪（人口百萬總テ商業ニ從事ス）若シクハ京都（古來ノ神聖ナル首都ニシテ日本帝國ノ富ト商業ノ中心地タリ）ヲ經由シテ兵庫ニ至ル線

二、江戸ヨリ橫濱（地理的ニ見テ首都ニ接近シ且ツ生絲ノ大生產地方ヨリノ輸出港ニ當ルヲ以テ常ニ日本ニ於ケル諸開港中ノ樞要ナル地位ヲ占ムヘシ）ニ至ル線

三、大阪ヲ發シ琵琶湖ヲ敦賀港ニ連結スル線

右諸鐵道路線ヲ示セル地圖ヲ添付ス之ニ依リ如何ニ是等諸鐵道カ日本ニ於ケル貿易港ト重大

ナル關係ニ立ツモノナルカヲ察知スルコトヲ得ヘシ

千八百七十年四月二十三日　倫敦「リーデンホール」街一四五

第二項　償還及支拂

九分利付外國公債の元金は之を十組各十萬磅に分ち、三箇年の据置後十箇年間に、毎年其の一組を償還するものとす。仍て政府は規定通り明治六年より之が償還を開始し、同十五年八月を以て全部の償還を終了したり。年々の償還額及支拂額左の如し。

年度	償還額 英貨	償還額 邦金貨換算額	支拂額	支拂額の爲替相場に依る差增減(*)
第六期	一〇〇、〇〇〇磅	四八〇、〇〇〇円	四八五、七二三・五五七円	* 二、二七六・四四三円
第七期	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	四八五、七二三・五五七	* 二、二七六・四四三
第八期	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	四八五、七二三・五五七	* 二、二七六・四四三
明治八	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	四九四、六四二・四三八	六、二四二・四三八
九	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	四九九、二九八・〇七〇	一一、二九八・〇七〇
一〇	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	五二一、七一五・〇七一	三三、七一五・〇七一
一一	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	五六六、二三七・九七二	七八、二三七・九七二
一二	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	五九〇、九五九・一三一	一〇二、九五九・一三一
一三	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	七三一、九三五・六八一	二四三、九三五・六八一
一四	一〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇	五三七、八一五・一二六	四九、八一五・一二六
合計	一、〇〇〇、〇〇〇	四、八八〇、〇〇〇	五、三九九、七七四・一六〇	五一九、七七四・一六〇

（備考）一、第八期は明治八年一月より同年六月迄、八年度は八年七月より九年六月迄とす。
二、支拂額は國庫の決算額に依るを以て、實際債主へ拂渡したる金額とは年々多少の異動を免れず。

次に本公債の利率は年九分にして、毎年二月一日及八月一日に各半箇年分を支拂ふものとす。毎年度の利子支拂額左の如し。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
第四期	四三七、一五一・二〇一円	明治八	三一一、六二四・七三六円	明治一三	一三一、七四八・四二二円
第五期	四三七、一五一・二〇一	九	二六九、六二〇・九五八	一四	四七、七四三・九一五
第・六期	四三七、一五一・二〇一	一〇	二三四、七七一・七八二	合計	三、四一三、五二五・〇九四
第七期	三九三、四三六・〇八一	一一	二〇三、八四五・六七〇		
第八期	三四九、七二〇・九六一	一二	一五九、五五八・九六六		

第三款　七分利付外國公債

第一項　起　債

九分利付外國公債に次で募集せられしは七分利付外國公債なりとす。本公債は第二回目の外國公債なると共に又第二回目の帝國公債にして、之に引續きて內國に於て發行せられたる新舊兩公債及秩祿公債等と共に制度變革の爲めに起債したるものに屬す。

抑〻明治四年廢藩置縣の擧ありて中央集權の制度漸く成りしが、政府の歲入は尙ほ未だ多きを加へ

ざるに拘らず、歳出は頻りに增加して歳計上收支相償はざるの結果を生じ、財政頗る困難を極めたり。茲に於て政府は華士族一般の祿制を定め、士族以下の者に對して祿券を交付して、以て一面には彼等に營業資本を得しめて遊手徒食の弊を除き、一面には國庫の費用を省きて歳計の整理を圖らんと欲したり。然るに該祿券は速かに多少の買上を爲すに非ざれば市價の低落を來すべく、爲めに彼等をして却て困難の地位に陷らしむるの虞なきにあらざるを以て、深く將來の利害得失を較量したる上廟議終に外國公債を募りて之が資金を得ることに決定したり。卽ち其の募集の事は之を大藏卿に一任し、尋いで明治五年二月大藏少輔吉田清成を理事官となし、米國若くは英國に於て右公債の募集を命任せり。

此の公債の募集額は最初米貨千五百萬弗乃至三千萬弗の實額を目途としたるものにして、其の最高額三千萬弗は獨り上記祿券買上の資金に充つるのみならず、內凡そ二千萬弗は鑛山·鐵道等の興業費に充て、以て一方に消極的の效果を收むると共に、他方には積極的なる施設を企圖したるものが、吉田清成の命を受けて海外に赴き、之が募集に著手するや、米國に於ては內外之が募集に反對する者ありしを以て、遂に同地を斷念し、募集地は之を倫敦に限り、且つ金額も豫定高三千萬圓（三千萬弗）を得るは困難なる情勢なりしが故に、一應主要の目的たる諸祿整理の資用凡そ一千萬圓に止むることとなせり。但し此の目的は後に至り多少變更せられ、公債金の全部は之を秩祿奉還者に供與する就業資本の財源となれり。

今明治六年一月吉田理事官と發行銀行たる倫敦東洋銀行代表者との間に締結せし約定に依り、其の發行條件の大要を示せば左の如し。

一、總　　額　二百四十萬磅（邦金貨換算額一千百七十一萬二千圓）
一、發 行 價 格　百磅に付九十二磅十志
一、政府手取額　同上に付九十磅
一、利　　子　年七分、每年一月一日、七月一日に東洋銀行に於て支拂ふ。
一、抵　　當　祿制改革に由りて生ずべき餘裕金を以て每年米四十萬石を買上げ、之を抵當として備ふ。
一、元 金 償 還　元利混合濟崩法に依り二箇年据置後、明治八年より明治二十九年に至る間、每年四月一日抽籤に依り償還し、最終殘額は三十年七月を以て全部償還す。
一、證　　券　千磅券　八〇〇枚　八〇〇、〇〇〇磅
　　五百磅券　二〇〇〇枚　一、〇〇〇、〇〇〇磅
　　百磅券　六〇〇〇枚　六〇〇、〇〇〇磅

又募集に當り東洋銀行の發表したる目論見書及其の譯文左の如し。

PROSPECTUS OF 7% JAPANESE STERLING LOAN OF 1873.

SEVEN PER CENT. STERLING LOAN of the IMPERIAL GOVERNMENT of JAPAN, authorized by Decree of the Emperor of Japan, date 23rd March, 1872, and 22nd September, 1872. £2,400,000 stock in Bonds of £1,000, £500, and £100 each, bearing interest from 1st January, 1873, redeemable at par by means of an accumulative sinking fund of £2 per cent. in yearly drawings, principal and interest payable in London free from all Japanese taxes. Price of issue 92½ per cent.

THE ORIENTAL BANK CORPORATION, duly empowered and acting on behalf of the Japanese Government, hereby invites SUBSCRIPTIONS for the amount of £2,400,000 of £7 per cent. Bonds, at the issue price of £92 10s. per cent. payable as follows:—

£ 5	per cent.	on application.
12 10s.	„	on allotment.
20	„	on 1st March, 1873.
20	„	on 1st April, 1873.
20	„	on 2nd May, 1873.
15	„	on 1st June, 1873.
£92 10s.	per cent.	

Subscribers may pay up in full on any day when an instalment falls due, under discount at the rate of five per cent. per annum.

Default in payment of any instalment will render all previous payments liable to forfeiture. Scrip certificates to bearer will be exchanged against allotment letters and bankers' receipts, and Bonds to bearer, when ready, will be issued to the holders of paid-up scrip.

The Bonds will bear interest at the rate of £7 per cent. per annum, payable half-yearly, on the 1st January and 1st July, at the office of the Oriental Bank Corporation in London. The first half years interest, upon the full amount of each Bond, will be payable on the 1st July, 1873.

An accumulative Sinking Fund of £2 per cent. on the entire nominal amount of the Loan will be applied, by annual drawings, on 1st of April, 1875, and every subsequent 1st day of April, so as to redeem the whole Loan at par within 25 years.

The Bonds drawn will be payable on the 1st of July next succeeding each drawing, and no interest after that date will be paid on the said Bonds so drawn.

If no allotment is made the deposit will be returned without deduction, and if only part of the amount applied for is allotted, the balance of deposit will be first applied towards the 12½ per cent. due on allotment, and the remainder, if any, returned.

The object of this Loan is to redeem certain public charges payable in kind out of the revenues of land, which charges are now enjoyed by pensioners, and are redeemable by the Government.

The Loan is therefore intended to be applied for the increase of the Imperial Revenues, and this increase will be effected to an amount largely exceeding the annual charge of the interest and sinking fund on the Loan; which excess the government propose to apply towards various reproductive public works already commenced or in contemplation.

The Loan and interest are guaranteed by the General revenues of Japan; but the Government also specially hypothecates the charges to be redeemed to the extent of 400,000 kokus of rice per annum. (Note.)

The average price of a koku of rice being four dollars or 16s. 8d. per koku, the revenue hypothecated is equivalent to £333,000 per annum, while the amount required to meet the interest and sinking fund of the Loan will not exceed £216,000.

The only public loan hitherto issued by the Government is the Customs Loan for £1,000,000, issued in 1870, for the purpose of the construction and equipment of railways, which have already been partially opened for public traffic, to the great advantage of the commerce and public revenues of Japan.

Applications in the annexed form, accompanied by a deposit of £5 per cent., will be received by the Oriental Bank Corporation, London.

The General Bond which has been executed by His Excellency Yoshida Kiyonari, Vice Minister of Finance of the Imperial Government of Japan, and Special Commissioner on behalf of the Government to the Oriental Bank Corporation as trustee for securing this Loan, and the official documents authorising the Loan, with translations, lie for inspection at the office of Messrs. Murray and Hutchins, solicitors, No.

11, Birchin-lane, London.

Forms of application can be obtained of the Oriental Bank Corporation; of Messrs. Steer, Lawford, and Cuerton, 51, Threadneedle Street; and of Messrs. J. and A. Scrimgeour, 18, Old Broad-Street, brokers.

London, 13th January, 1873.

Note.—It may here be explained that of the whole Imperial Revenue about 9½ per cent. is collected in rice.

千八百七十三年（明治六年）七分利付英貨公債目論見書譯文

千八百七十二年九月二十二日日本天皇陛下勅旨ニ依リ認可セラレタル日本帝國政府七分利付英貨公債各一千磅、五百磅及一百磅ノ證券ヨリ成ル二百四十萬磅公債ニシテ千八百七十三年一月一日ヨリ利子ヲ付シ倫敦ニ於ケル年一回ノ抽籤ニ依リ二「パーセント」ノ割合ヲ以テ積立ツル減債基金ニ依リ額面金額ヲ以テ償還セラレ其ノ元金及利子ハ日本ノ總テノ課稅ヲ免除セラル

發行價格九二½「パーセント」

日本帝國政府ニ依リ適法ニ權能ヲ賦與セラレ且ツ日本帝國政府ニ代リテ行動スル東洋銀行ハ玆ニ七分利付二百四十萬磅ノ金額ニ對シ申込ヲ勸誘ス證券ノ發行價格ハ百磅ニ付九十二磅十志ニシテ其ノ拂込方法左ノ如シ

申込ノ際	百磅ニ付　五磅
割當ノ際	同　十二磅十志
千八百七十三年三月一日	同　二十磅
千八百七十三年四月一日	同　二十磅
千八百七十三年五月二日	同　十五磅
千八百七十三年六月一日	同　九十二磅十志
合計	同

應募者ハ分割拂込金ノ各滿期日ニ於テ殘餘ノ全額ヲ支拂フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該金額ニ付年五分ノ割合ニテ割引ヲ行フ

各分割拂込金ヲ滯納シタルトキハ其ノ以前ノ總テノ拂込金額ハ違約金トシテ之ヲ沒收スルモノトス所持人拂假證券ハ割當通知書及銀行領收書ト引換ヘニ之ヲ交付スヘシ而シテ所持人拂本證券出來ノ上ハ拂込完了假證券所持者ニ對シテ之ヲ發行スヘシ證券ニハ年七分ノ利子ヲ付シ每年二月一日及七月一日ノ二回在倫敦東洋銀行ニ於テ之ヲ支拂フ

第一回半箇年利子ハ各證券額面金額ニ應シ千八百七十三年七月一日ニ支拂ハルヘシ

本公債全額ヲ二十五箇年間ニ償還スル爲千八百七十五年四月一日及爾後每年四月一日ニ年一回ノ抽籤ニ依リ本公債額面總額ニ對シ百磅ニ付二磅ノ割合ヲ以テ積立減債基金ヲ使用スヘシ」當籤シタル證券ハ各抽籤直後ノ七月一日ニ之ヲ支拂ヒ其ノ日以後ニ於テハ當籤證券ニ對シ利子ヲ付セサルモノトス

若シ割當カ全然爲サレサリシ場合ニ於テハ保證金ノ全額ヲ返戻シ申込額ノ一部分ニ對シテ割當テラレタル場合ニ於テハ保證金ノ殘額ヲ割當滿期日ニ於テ第一ニ百磅ニ付十二磅半ノ拂込

ニ充當シ、尚殘額アルトキハ之ヲ返戻スヘシ

本公債ノ目的ハ土地ヨリノ收入ニ依リ現物ヲ以テ支拂ハルヘキ特定ノ政府ノ債務ヲ銷却セントスルニ在リ右債務ハ現在ニ於テハ家祿賞典祿享有者ニ對シテ負擔セルモノニシテ政府ニ於テ銷却スルコトヲ得ヘキモノニ屬ス

從ツテ本公債ハ日本帝國ノ收入ノ增加センコトヲ企圖スルモノニシテ右增加額ハ本公債利子及減債基金ノ每年ノ支拂ヲ遙ニ超過スヘク此ノ超過額ヲ政府ハ已ニ開始シタル又ハ建設中ナル諸種ノ再生產的公共事業ニ向ケテ適用スヘキ豫定ナリ

本公債及利子ハ日本ノ一般收入ニ依リ保證セラルルモノナレトモ政府ニ於テハ特ニ每年米四十萬石迄ヲ政府カ銷却スヘキ經費ヲ支出シテ之ヲ擔保ス（註）

米一石ノ平均價格ハ四弗卽チ十六志八片ナルヲ以テ擔保トセラルル收入ハ每年三十三萬三千磅ニ相當ス而シテ本公債利子及減債基金ノ支拂ニ充當スヘキ額ハ二十一萬六千磅ヲ超過セサルヘシ

今日迄ニ政府カ發行セル公債ハ唯鐵道ノ建設及設備ノ目的ヲ以テ千八百七十年ニ發行セル壹百萬磅ノ海關稅公債ノミニシテ右鐵道ハ已ニ一般運輸ノ爲メ一部分開通シ日本ノ商業及財政上ニ多大ノ利益ヲ齎ラシツツアリ

申込ハ本書附屬ノ書式ニ依リ百磅ニ付五磅ノ割合ニテ保證金ヲ添ヘテ倫敦東洋銀行ニ提出スヘシ

本公債ヲ保證スル爲メ日本帝國政府大藏少輔兼特命理事官吉田清成閣下カ作成シ受託者タル東洋銀行ニ渡シタル證券雛形竝ニ本公債ヲ認可セル公文書ハ其ノ譯文ト共ニ一般ノ閱覽ニ供スル爲メ法律顧問タル倫敦「バーチン・レーン」一一號「マーレー・ハッチンス」事務所ニ備付ケ置ケリ」

申込書式ハ東洋銀行及仲買商「スレッドニードル・ストリート」五一「スチーヤー・ロフォード・クウエヤトン」商會竝ニ「オールド・ブロード・ストリート」一八「エー・スクリムジョーア」商會ニ於テ受取ラルヘシ

倫敦　千八百七十三年一月十三日

（註）日本帝國全收入ノ約九割半ハ米ヲ以テ蒐集セラルルモノナリ

本公債の應募總額は九百六十六萬四千九百磅の巨額に達し、所要額の四倍以上に上るの好況を呈し、其の拂込額は二百二十二萬磅（邦金貨換算額千八十三萬三千六百圓）、手數料を控除したる實收額は二百十六萬磅（千五十三萬八百圓）なりき。

第二項　償還及支拂

七分利付外國公債の償還は所謂元利混合濟崩法に依るものにして、卽ち年々元金總額の二パーセント（四萬八千磅）を減債基金となし、之を以て元金の抽籤償還に充て、且つ元金銷却によりて生ずる利子の支拂減額は、翌年度の元金償還に充當するものとす。斯くて政府は据置期限三箇年後の明治八年度より償還を開始して逐次此の方法により明治三十年度を以て償還を完了し、三十二年度を以て其の支拂を終了したり。每年度の償還額及支拂額左の如し。

年度	國債				支拂	
	英貨		邦貨		額	
	貨幣額	換算額	貨幣額	換算額	英貨	邦貨
第八期	四〇〇、〇〇〇鎊	一、〇五〇、四〇〇円	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇片	一六八、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇五〇、四〇〇円	一六八、〇〇〇、〇〇〇円
第七期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
第六期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
第五期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
第四期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
第三期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
第二期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
第一期	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
合計	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇

（備考）一、明治十六年度迄の支拂額は取纏銀行より報告したる額なるも、十七年度以降は決算順序改正のため年度内に決算せざりし分を以て、同年度には支拂額は生ぜず。但し十七年度は決算額にして、即ち東洋銀行へ交付したる額なるも、十九年度即ち十九年七月以後は實際の支拂年度所屬とせるを以て、表中十九年度には償還額なし。

二、金支拂の期月は毎年七月なりと雖も本邦も前年度の支出として經理せり。然るに前二三月にあるを以て、十九年度即ち二十年七月以後は實際の支拂年度所屬の償還金は何れも前年度の支出として經理せり。

次に此の間に支拂はれたる利子額を表示すれば左の如し。

年度	英貨		邦貨	
	貨幣額	換算額	貨幣額	換算額
明治				
一四	一四、九六〇・〇〇片	一三八、九六〇・〇〇円	一四、〇五〇・〇〇円	一四、〇五〇・〇〇円
一五	一四、〇〇〇・〇〇	一三八、九〇〇・〇〇	一四、〇〇〇・〇〇	一四、〇〇〇・〇〇
一六	一三、九〇〇・〇〇	一三七、七五〇・〇〇	一三、九〇〇・〇〇	一三、九〇〇・〇〇
一七	一三、八〇〇・〇〇	一三七、〇〇〇・〇〇	一三、八〇〇・〇〇	一三、八〇〇・〇〇
一八	一三、七〇〇・〇〇	一三六、二五〇・〇〇	一三、七〇〇・〇〇	一三、七〇〇・〇〇
一九	一三、六〇〇・〇〇	一三五、四〇〇・〇〇	一三、六〇〇・〇〇	一三、六〇〇・〇〇
二〇	一三、五〇〇・〇〇	一三四、五〇〇・〇〇	一三、五〇〇・〇〇	一三、五〇〇・〇〇
二一	一三、四〇〇・〇〇	一三三、六〇〇・〇〇	一三、四〇〇・〇〇	一三、四〇〇・〇〇
二二	一三、三〇〇・〇〇	一三二、七〇〇・〇〇	一三、三〇〇・〇〇	一三、三〇〇・〇〇
二三	一三、二〇〇・〇〇	一三一、八〇〇・〇〇	一三、二〇〇・〇〇	一三、二〇〇・〇〇
二四	一三、一〇〇・〇〇	一三〇、九〇〇・〇〇	一三、一〇〇・〇〇	一三、一〇〇・〇〇
二五	一三、〇〇〇・〇〇	一三〇、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇
二六	一二、九〇〇・〇〇	一二九、一〇〇・〇〇	一二、九〇〇・〇〇	一二、九〇〇・〇〇
二七	一二、八〇〇・〇〇	一二八、二〇〇・〇〇	一二、八〇〇・〇〇	一二、八〇〇・〇〇
二八	一二、七〇〇・〇〇	一二七、三〇〇・〇〇	一二、七〇〇・〇〇	一二、七〇〇・〇〇
二九	一二、六〇〇・〇〇	一二六、四〇〇・〇〇	一二、六〇〇・〇〇	一二、六〇〇・〇〇
三〇	一二、五〇〇・〇〇	一二五、五〇〇・〇〇	一二、五〇〇・〇〇	一二、五〇〇・〇〇
三一	一二、四〇〇・〇〇	一二四、六〇〇・〇〇	一二、四〇〇・〇〇	一二、四〇〇・〇〇
三二	一二、三〇〇・〇〇	一二三、七〇〇・〇〇	一二、三〇〇・〇〇	一二、三〇〇・〇〇
三三	一二、二〇〇・〇〇	一二二、八〇〇・〇〇	一二、二〇〇・〇〇	一二、二〇〇・〇〇
三四	一二、一〇〇・〇〇	一二一、九〇〇・〇〇	一二、一〇〇・〇〇	一二、一〇〇・〇〇
三五	一二、〇〇〇・〇〇	一二一、〇〇〇・〇〇	一二、〇〇〇・〇〇	一二、〇〇〇・〇〇
三六	一一、九〇〇・〇〇	一二〇、一〇〇・〇〇	一一、九〇〇・〇〇	一一、九〇〇・〇〇
三七	一一、八〇〇・〇〇	一一九、二〇〇・〇〇	一一、八〇〇・〇〇	一一、八〇〇・〇〇
三八	一一、七〇〇・〇〇	一一八、三〇〇・〇〇	一一、七〇〇・〇〇	一一、七〇〇・〇〇
三九	一一、六〇〇・〇〇	一一七、四〇〇・〇〇	一一、六〇〇・〇〇	一一、六〇〇・〇〇
四〇	一一、五〇〇・〇〇	一一六、五〇〇・〇〇	一一、五〇〇・〇〇	一一、五〇〇・〇〇
四一	一一、四〇〇・〇〇	一一五、六〇〇・〇〇	一一、四〇〇・〇〇	一一、四〇〇・〇〇
四二	一一、三〇〇・〇〇	一一四、七〇〇・〇〇	一一、三〇〇・〇〇	一一、三〇〇・〇〇
四三	一一、二〇〇・〇〇	一一三、八〇〇・〇〇	一一、二〇〇・〇〇	一一、二〇〇・〇〇
四四	一一、一〇〇・〇〇	一一二、九〇〇・〇〇	一一、一〇〇・〇〇	一一、一〇〇・〇〇
四五	一一、〇〇〇・〇〇	一一二、〇〇〇・〇〇	一一、〇〇〇・〇〇	一一、〇〇〇・〇〇
四六	一〇、九〇〇・〇〇	一一一、一〇〇・〇〇	一〇、九〇〇・〇〇	一一、一〇〇・〇〇
四七	一〇、八〇〇・〇〇	一一〇、二〇〇・〇〇	一〇、八〇〇・〇〇	一一〇、二〇〇・〇〇
四八	一〇、七〇〇・〇〇	一〇九、三〇〇・〇〇	一〇、七〇〇・〇〇	一〇九、三〇〇・〇〇
四九	一〇、六〇〇・〇〇	一〇八、四〇〇・〇〇	一〇、六〇〇・〇〇	一〇八、四〇〇・〇〇
五〇	一〇、五〇〇・〇〇	一〇七、五〇〇・〇〇	一〇、五〇〇・〇〇	一〇七、五〇〇・〇〇
五一	一〇、四〇〇・〇〇	一〇六、六〇〇・〇〇	一〇、四〇〇・〇〇	一〇六、六〇〇・〇〇
五二	一〇、三〇〇・〇〇	一〇五、七〇〇・〇〇	一〇、三〇〇・〇〇	一〇五、七〇〇・〇〇
五三	一〇、二〇〇・〇〇	一〇四、八〇〇・〇〇	一〇、二〇〇・〇〇	一〇四、八〇〇・〇〇
五四	一〇、一〇〇・〇〇	一〇三、九〇〇・〇〇	一〇、一〇〇・〇〇	一〇三、九〇〇・〇〇
五五	一〇、〇〇〇・〇〇	一〇三、〇〇〇・〇〇	一〇、〇〇〇・〇〇	一〇三、〇〇〇・〇〇
五六	九、九〇〇・〇〇	一〇二、一〇〇・〇〇	九、九〇〇・〇〇	一〇二、一〇〇・〇〇
五七	九、八〇〇・〇〇	一〇一、二〇〇・〇〇	九、八〇〇・〇〇	一〇一、二〇〇・〇〇
五八	九、七〇〇・〇〇	一〇〇、三〇〇・〇〇	九、七〇〇・〇〇	一〇〇、三〇〇・〇〇
五九	九、六〇〇・〇〇	九九、四〇〇・〇〇	九、六〇〇・〇〇	九九、四〇〇・〇〇
六〇	九、五〇〇・〇〇	九八、五〇〇・〇〇	九、五〇〇・〇〇	九八、五〇〇・〇〇
六一	九、四〇〇・〇〇	九七、六〇〇・〇〇	九、四〇〇・〇〇	九七、六〇〇・〇〇
六二	九、三〇〇・〇〇	九六、七〇〇・〇〇	九、三〇〇・〇〇	九六、七〇〇・〇〇
六三	九、二〇〇・〇〇	九五、八〇〇・〇〇	九、二〇〇・〇〇	九五、八〇〇・〇〇
六四	九、一〇〇・〇〇	九四、九〇〇・〇〇	九、一〇〇・〇〇	九四、九〇〇・〇〇
六五	九、〇〇〇・〇〇	九四、〇〇〇・〇〇	九、〇〇〇・〇〇	九四、〇〇〇・〇〇
六六	八、九〇〇・〇〇	九三、一〇〇・〇〇	八、九〇〇・〇〇	九三、一〇〇・〇〇
六七	八、八〇〇・〇〇	九二、二〇〇・〇〇	八、八〇〇・〇〇	九二、二〇〇・〇〇
六八	八、七〇〇・〇〇	九一、三〇〇・〇〇	八、七〇〇・〇〇	九一、三〇〇・〇〇
六九	八、六〇〇・〇〇	九〇、四〇〇・〇〇	八、六〇〇・〇〇	九〇、四〇〇・〇〇
七〇	八、五〇〇・〇〇	八九、五〇〇・〇〇	八、五〇〇・〇〇	八九、五〇〇・〇〇
七一	八、四〇〇・〇〇	八八、六〇〇・〇〇	八、四〇〇・〇〇	八八、六〇〇・〇〇
七二	八、三〇〇・〇〇	八七、七〇〇・〇〇	八、三〇〇・〇〇	八七、七〇〇・〇〇
七三	八、二〇〇・〇〇	八六、八〇〇・〇〇	八、二〇〇・〇〇	八六、八〇〇・〇〇
七四	八、一〇〇・〇〇	八五、九〇〇・〇〇	八、一〇〇・〇〇	八五、九〇〇・〇〇
七五	八、〇〇〇・〇〇	八五、〇〇〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇	八五、〇〇〇・〇〇
七六	七、九〇〇・〇〇	八四、一〇〇・〇〇	七、九〇〇・〇〇	八四、一〇〇・〇〇
七七	七、八〇〇・〇〇	八三、二〇〇・〇〇	七、八〇〇・〇〇	八三、二〇〇・〇〇
七八	七、七〇〇・〇〇	八二、三〇〇・〇〇	七、七〇〇・〇〇	八二、三〇〇・〇〇
七九	七、六〇〇・〇〇	八一、四〇〇・〇〇	七、六〇〇・〇〇	八一、四〇〇・〇〇
八〇	七、五〇〇・〇〇	八〇、五〇〇・〇〇	七、五〇〇・〇〇	八〇、五〇〇・〇〇
八一	七、四〇〇・〇〇	七九、六〇〇・〇〇	七、四〇〇・〇〇	七九、六〇〇・〇〇
八二	七、三〇〇・〇〇	七八、七〇〇・〇〇	七、三〇〇・〇〇	七八、七〇〇・〇〇
八三	七、二〇〇・〇〇	七七、八〇〇・〇〇	七、二〇〇・〇〇	七七、八〇〇・〇〇
八四	七、一〇〇・〇〇	七六、九〇〇・〇〇	七、一〇〇・〇〇	七六、九〇〇・〇〇
八五	七、〇〇〇・〇〇	七六、〇〇〇・〇〇	七、〇〇〇・〇〇	七六、〇〇〇・〇〇
八六	六、九〇〇・〇〇	七五、一〇〇・〇〇	六、九〇〇・〇〇	七五、一〇〇・〇〇
八七	六、八〇〇・〇〇	七四、二〇〇・〇〇	六、八〇〇・〇〇	七四、二〇〇・〇〇
八八	六、七〇〇・〇〇	七三、三〇〇・〇〇	六、七〇〇・〇〇	七三、三〇〇・〇〇
八九	六、六〇〇・〇〇	七二、四〇〇・〇〇	六、六〇〇・〇〇	七二、四〇〇・〇〇
九〇	六、五〇〇・〇〇	七一、五〇〇・〇〇	六、五〇〇・〇〇	七一、五〇〇・〇〇
九一	六、四〇〇・〇〇	七〇、六〇〇・〇〇	六、四〇〇・〇〇	七〇、六〇〇・〇〇
九二	六、三〇〇・〇〇	六九、七〇〇・〇〇	六、三〇〇・〇〇	六九、七〇〇・〇〇
九三	六、二〇〇・〇〇	六八、八〇〇・〇〇	六、二〇〇・〇〇	六八、八〇〇・〇〇
九四	六、一〇〇・〇〇	六七、九〇〇・〇〇	六、一〇〇・〇〇	六七、九〇〇・〇〇
九五	六、〇〇〇・〇〇	六七、〇〇〇・〇〇	六、〇〇〇・〇〇	六七、〇〇〇・〇〇
九六	五、九〇〇・〇〇	六六、一〇〇・〇〇	五、九〇〇・〇〇	六六、一〇〇・〇〇
九七	五、八〇〇・〇〇	六五、二〇〇・〇〇	五、八〇〇・〇〇	六五、二〇〇・〇〇
九八	五、七〇〇・〇〇	六四、三〇〇・〇〇	五、七〇〇・〇〇	六四、三〇〇・〇〇
九九	五、六〇〇・〇〇	六三、四〇〇・〇〇	五、六〇〇・〇〇	六三、四〇〇・〇〇
一〇〇	五、五〇〇・〇〇	六二、五〇〇・〇〇	五、五〇〇・〇〇	六二、五〇〇・〇〇
一〇一	五、四〇〇・〇〇	六一、六〇〇・〇〇	五、四〇〇・〇〇	六一、六〇〇・〇〇
一〇二	五、三〇〇・〇〇	六〇、七〇〇・〇〇	五、三〇〇・〇〇	六〇、七〇〇・〇〇
一〇三	五、二〇〇・〇〇	五九、八〇〇・〇〇	五、二〇〇・〇〇	五九、八〇〇・〇〇
一〇四	五、一〇〇・〇〇	五八、九〇〇・〇〇	五、一〇〇・〇〇	五八、九〇〇・〇〇
一〇五	五、〇〇〇・〇〇	五八、〇〇〇・〇〇	五、〇〇〇・〇〇	五八、〇〇〇・〇〇
一〇六	四、九〇〇・〇〇	五七、一〇〇・〇〇	四、九〇〇・〇〇	五七、一〇〇・〇〇
一〇七	四、八〇〇・〇〇	五六、二〇〇・〇〇	四、八〇〇・〇〇	五六、二〇〇・〇〇
一〇八	四、七〇〇・〇〇	五五、三〇〇・〇〇	四、七〇〇・〇〇	五五、三〇〇・〇〇
一〇九	四、六〇〇・〇〇	五四、四〇〇・〇〇	四、六〇〇・〇〇	五四、四〇〇・〇〇
一一〇	四、五〇〇・〇〇	五三、五〇〇・〇〇	四、五〇〇・〇〇	五三、五〇〇・〇〇
一一一	四、四〇〇・〇〇	五二、六〇〇・〇〇	四、四〇〇・〇〇	五二、六〇〇・〇〇
一一二	四、三〇〇・〇〇	五一、七〇〇・〇〇	四、三〇〇・〇〇	五一、七〇〇・〇〇
一一三	四、二〇〇・〇〇	五〇、八〇〇・〇〇	四、二〇〇・〇〇	五〇、八〇〇・〇〇
一一四	四、一〇〇・〇〇	四九、九〇〇・〇〇	四、一〇〇・〇〇	四九、九〇〇・〇〇
一一五	四、〇〇〇・〇〇	四九、〇〇〇・〇〇	四、〇〇〇・〇〇	四九、〇〇〇・〇〇
一一六	三、九〇〇・〇〇	四八、一〇〇・〇〇	三、九〇〇・〇〇	四八、一〇〇・〇〇
一一七	三、八〇〇・〇〇	四七、二〇〇・〇〇	三、八〇〇・〇〇	四七、二〇〇・〇〇
一一八	三、七〇〇・〇〇	四六、三〇〇・〇〇	三、七〇〇・〇〇	四六、三〇〇・〇〇
一一九	三、六〇〇・〇〇	四五、四〇〇・〇〇	三、六〇〇・〇〇	四五、四〇〇・〇〇
一二〇	三、五〇〇・〇〇	四四、五〇〇・〇〇	三、五〇〇・〇〇	四四、五〇〇・〇〇
一二一	三、四〇〇・〇〇	四三、六〇〇・〇〇	三、四〇〇・〇〇	四三、六〇〇・〇〇
一二二	三、三〇〇・〇〇	四二、七〇〇・〇〇	三、三〇〇・〇〇	四二、七〇〇・〇〇
一二三	三、二〇〇・〇〇	四一、八〇〇・〇〇	三、二〇〇・〇〇	四一、八〇〇・〇〇
一二四	三、一〇〇・〇〇	四〇、九〇〇・〇〇	三、一〇〇・〇〇	四〇、九〇〇・〇〇
一二五	三、〇〇〇・〇〇	四〇、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	四〇、〇〇〇・〇〇
一二六	二、九〇〇・〇〇	三九、一〇〇・〇〇	二、九〇〇・〇〇	三九、一〇〇・〇〇
一二七	二、八〇〇・〇〇	三八、二〇〇・〇〇	二、八〇〇・〇〇	三八、二〇〇・〇〇
一二八	二、七〇〇・〇〇	三七、三〇〇・〇〇	二、七〇〇・〇〇	三七、三〇〇・〇〇
一二九	二、六〇〇・〇〇	三六、四〇〇・〇〇	二、六〇〇・〇〇	三六、四〇〇・〇〇
一三〇	二、五〇〇・〇〇	三五、五〇〇・〇〇	二、五〇〇・〇〇	三五、五〇〇・〇〇
一三一	二、四〇〇・〇〇	三四、六〇〇・〇〇	二、四〇〇・〇〇	三四、六〇〇・〇〇
一三二	二、三〇〇・〇〇	三三、七〇〇・〇〇	二、三〇〇・〇〇	三三、七〇〇・〇〇
一三三	二、二〇〇・〇〇	三二、八〇〇・〇〇	二、二〇〇・〇〇	三二、八〇〇・〇〇
一三四	二、一〇〇・〇〇	三一、九〇〇・〇〇	二、一〇〇・〇〇	三一、九〇〇・〇〇
一三五	二、〇〇〇・〇〇	三一、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	三一、〇〇〇・〇〇
一三六	一、九〇〇・〇〇	三〇、一〇〇・〇〇	一、九〇〇・〇〇	三〇、一〇〇・〇〇
一三七	一、八〇〇・〇〇	二九、二〇〇・〇〇	一、八〇〇・〇〇	二九、二〇〇・〇〇
一三八	一、七〇〇・〇〇	二八、三〇〇・〇〇	一、七〇〇・〇〇	二八、三〇〇・〇〇
一三九	一、六〇〇・〇〇	二七、四〇〇・〇〇	一、六〇〇・〇〇	二七、四〇〇・〇〇
一四〇	一、五〇〇・〇〇	二六、五〇〇・〇〇	一、五〇〇・〇〇	二六、五〇〇・〇〇
一四一	一、四〇〇・〇〇	二五、六〇〇・〇〇	一、四〇〇・〇〇	二五、六〇〇・〇〇
一四二	一、三〇〇・〇〇	二四、七〇〇・〇〇	一、三〇〇・〇〇	二四、七〇〇・〇〇
一四三	一、二〇〇・〇〇	二三、八〇〇・〇〇	一、二〇〇・〇〇	二三、八〇〇・〇〇
一四四	一、一〇〇・〇〇	二二、九〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	二二、九〇〇・〇〇
一四五	一、〇〇〇・〇〇	二二、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	二二、〇〇〇・〇〇
一四六	九〇〇・〇〇	二一、一〇〇・〇〇	九〇〇・〇〇	二一、一〇〇・〇〇
一四七	八〇〇・〇〇	二〇、二〇〇・〇〇	八〇〇・〇〇	二〇、二〇〇・〇〇
一四八	七〇〇・〇〇	一九、三〇〇・〇〇	七〇〇・〇〇	一九、三〇〇・〇〇
一四九	六〇〇・〇〇	一八、四〇〇・〇〇	六〇〇・〇〇	一八、四〇〇・〇〇
一五〇	五〇〇・〇〇	一七、五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	一七、五〇〇・〇〇
一五一	四〇〇・〇〇	一六、六〇〇・〇〇	四〇〇・〇〇	一六、六〇〇・〇〇
一五二	三〇〇・〇〇	一五、七〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	一五、七〇〇・〇〇
一五三	二〇〇・〇〇	一四、八〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	一四、八〇〇・〇〇
一五四	一〇〇・〇〇	一三、九〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一三、九〇〇・〇〇
一五五	〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇
合計	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇

年度	國債				支拂額	
	英貨		邦貨		英貨	邦貨
	貨幣額	換算額	貨幣額	換算額		
明治八期	四〇〇、〇〇〇鎊	一、〇五〇、四〇〇円	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇片	一六八、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇五〇、四〇〇円	一六八、〇〇〇、〇〇〇円
一〇	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一一	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一二	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一三	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一四	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一五	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一六	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
一七	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇
合計	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一六八、〇〇〇、〇〇〇

年度	支拂額		支拂額の償還相殺額（＊）	支拂未濟額
	英貨	邦貨		
明治八期	四〇〇、〇〇〇鎊	一、〇五〇、四〇〇円	一、〇五〇、四〇〇円	一円
一〇	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇
一一	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	二、七四〇、〇〇〇・〇〇
一二	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	四、一一〇、〇〇〇・〇〇
一三	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	五、四八〇、〇〇〇・〇〇
一四	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	六、八五〇、〇〇〇・〇〇
一五	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	八、二二〇、〇〇〇・〇〇
一六	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	九、五九〇、〇〇〇・〇〇
一七	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	一〇、九六〇、〇〇〇・〇〇
合計	三五〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇	一、三七〇、〇〇〇・〇〇	一

（備考）一、明治十六年度迄の支拂額は取纏銀行より報告したる額なるも、十七年度以降は決算順序改正のため年度内に決算せざりし分を以て、同年度には支拂額は生ぜず。但し十七年度は決算額にして、即ち東洋銀行へ交付したる額なるも、十九年度即ち十九年七月以後は實際の支拂年度所屬とせるを以て、表中十九年度には償還額なし。

二、金支拂の期月は毎年七月なりと雖も本邦も前年度の支出として經理せり。然るに前二三月にあるを以て、十九年度即ち二十年七月以後は實際の支拂年度所屬の償還金は何れも前年度の支出として經理せり。

次に此の間に支拂はれたる利子額を表示すれば左の如し。

年度	英貨		邦貨	
	貨幣額	換算額	貨幣額	換算額
明治				
一四	一四、九六〇・〇〇片	一三八、九六〇・〇〇円	一四、〇五〇・〇〇円	一四、〇五〇・〇〇円
一五	一四、〇〇〇・〇〇	一三八、九〇〇・〇〇	一四、〇〇〇・〇〇	一四、〇〇〇・〇〇
一六	一三、九〇〇・〇〇	一三七、七五〇・〇〇	一三、九〇〇・〇〇	一三、九〇〇・〇〇
一七	一三、八〇〇・〇〇	一三七、〇〇〇・〇〇	一三、八〇〇・〇〇	一三、八〇〇・〇〇
一八	一三、七〇〇・〇〇	一三六、二五〇・〇〇	一三、七〇〇・〇〇	一三、七〇〇・〇〇
一九	一三、六〇〇・〇〇	一三五、四〇〇・〇〇	一三、六〇〇・〇〇	一三、六〇〇・〇〇
二〇	一三、五〇〇・〇〇	一三四、五〇〇・〇〇	一三、五〇〇・〇〇	一三、五〇〇・〇〇
二一	一三、四〇〇・〇〇	一三三、六〇〇・〇〇	一三、四〇〇・〇〇	一三、四〇〇・〇〇
二二	一三、三〇〇・〇〇	一三二、七〇〇・〇〇	一三、三〇〇・〇〇	一三、三〇〇・〇〇
二三	一三、二〇〇・〇〇	一三一、八〇〇・〇〇	一三、二〇〇・〇〇	一三、二〇〇・〇〇
二四	一三、一〇〇・〇〇	一三〇、九〇〇・〇〇	一三、一〇〇・〇〇	一三、一〇〇・〇〇
二五	一三、〇〇〇・〇〇	一三〇、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇
二六	一二、九〇〇・〇〇	一二九、一〇〇・〇〇	一二、九〇〇・〇〇	一二、九〇〇・〇〇
二七	一二、八〇〇・〇〇	一二八、二〇〇・〇〇	一二、八〇〇・〇〇	一二、八〇〇・〇〇
二八	一二、七〇〇・〇〇	一二七、三〇〇・〇〇	一二、七〇〇・〇〇	一二、七〇〇・〇〇
二九	一二、六〇〇・〇〇	一二六、四〇〇・〇〇	一二、六〇〇・〇〇	一二、六〇〇・〇〇
三〇	一二、五〇〇・〇〇	一二五、五〇〇・〇〇	一二、五〇〇・〇〇	一二、五〇〇・〇〇
三一	一二、四〇〇・〇〇	一二四、六〇〇・〇〇	一二、四〇〇・〇〇	一二、四〇〇・〇〇
三二	一二、三〇〇・〇〇	一二三、七〇〇・〇〇	一二、三〇〇・〇〇	一二、三〇〇・〇〇
三三	一二、二〇〇・〇〇	一二二、八〇〇・〇〇	一二、二〇〇・〇〇	一二、二〇〇・〇〇
三四	一二、一〇〇・〇〇	一二一、九〇〇・〇〇	一二、一〇〇・〇〇	一二、一〇〇・〇〇
三五	一二、〇〇〇・〇〇	一二一、〇〇〇・〇〇	一二、〇〇〇・〇〇	一二、〇〇〇・〇〇
三六	一一、九〇〇・〇〇	一二〇、一〇〇・〇〇	一一、九〇〇・〇〇	一一、九〇〇・〇〇
三七	一一、八〇〇・〇〇	一一九、二〇〇・〇〇	一一、八〇

明治	二一	九五、八三三・一〇・〇〇	磅	六二九、八五一・一〇六	円	明治	二七
	二二	八七、二一三・〇〇・〇〇	志片	五六七、七三一・〇七一			二八
	二三	七八、八七六・一〇・〇〇		四七九、六三三・九八三			二九
	二四	七〇、四八六・一〇・〇〇		四四三、八八七・八一三			三〇
	二五	五九、八二二・〇〇・〇〇		四二〇、〇七七・一五九			三一
	二六	四八、〇九七・〇〇・〇〇		三七四、八二九・六三七		合　計	

（備　考）年々の利子支拂額が一率に遞減せざるは過年度分の支拂及爲替相場の變動ありしに由る。

尙ほ本公債の發行銀行にして、爾來元利金の支拂事務を取扱ひ來りし東洋銀行は、明治十二年の交より銀價下落の爲め巨額の損失を釀し、業績不穩の風評ありしかば、政府は預け金二十萬磅の內半額を引出して、九分利付外國公債の元利金支拂取扱店なるシュレーダー商會に移したる事ありしが、其の後に於ても同行の營業は益〻振はず、明治十七年五月二日に至り遂に鎖店するに至れり。東洋銀行鎖店後は本公債の元利金支拂事務を一時第二の元利金支拂取扱店たる倫敦合本銀行をして取扱はしめたるも、翌十八年一月拂以降は橫濱正金銀行に命任して之を取扱はしむることと爲し、卽ち同行倫敦支店は三十年七月本公債滿期償還に至る迄之が任に當れり。

第四款　第一回四分利付英貨公債

第一項　起　債

明治六年三月に於ける七分利付外國公債募集以後は絕えて外國債募集の事なく、外國市場との關

係も纔かに明治三十年五月軍事公債四千三百萬圓を倫敦市場に裏書賣出したるに止まりて、以て明治三十二年に至れり。時に會〻內國に於ては鐵道公債事業公債及北海道鐵道公債の三者が、前年度卽ち明治三十一年度に於て豫定額七千九百二十九萬二千二十八圓の募集ある筈なりしに、明治二十九年及三十年に於ける農產物の凶作等に因り、益〻內地金融逼迫し、國債の募集に應ずる餘力なかりしのみならず、民間事業の資金すら動〻もすれば之を外國に求めんとするの狀況なりしを以て、政府は已むを得ず該豫定額の內幾分は事業と共に之を翌年度以降に繰延べ、其の殘額は一時償金特別會計の資金を繰替へ、翌三十二年度に於て公債募集を果し、以て之を返償すべきこととして、一時事業費の支辨を爲し來りたり。玆に於て翌三十二年度に入りては最早公債募集を猶豫し得ざりしのみならず、同年度に於ては右三公債の相當年割額二千九十六萬六千八百五十一圓の募集を爲すべき豫定ありしに因り、結局兩年度分合計一億二十五萬八千八百七十九圓は必然同年度內に起債を實行せざるを得ざるに至れり。然るに內地金融の逼迫は依然として囘復の兆なかりしのみならず、益〻其の度を加ふるの傾向ありて、到底內國債募集の望みなかりしを以て、玆に政府の意見は外國債發行に傾きたり。卽ち政府は當時の財政の狀況に照し、精査考量したる結果、通商條約の改正に伴ふ海關稅率の變更に因り、明治三十二年度以降に於て每年度凡そ千萬圓の收入增加を見込み、此の正貨に依りて該元利金支拂に充當せば、大約一億四五千萬圓の外國債を負擔し得べく、此の金額中旣に英國倫敦に於て元利金の支拂を爲すべく約定したる軍事公債金額四千三百萬圓を控除し、其の殘額一億圓內外を限度として新に外國債を募集するも、之が償還に支障なき事を確め、又募集地に關しては世界經濟の中心地たる英國倫敦を以て適當なりと認め、竟に同地に於て英貨一千萬磅の公債を募集することに決定せ

り。仍て大藏大臣は英國駐在特命全權公使加藤高明に委任し（加藤公使賜暇歸朝後は臨時代理公使松井慶四郎に委任す）、證券の發行價格は之を大藏大臣に電報して其の決定を仰ぎ、利率は一箇年百分の四以下據置年限を十箇年以內、償還期限は據置年限經過後四十五箇年以內の範圍に於て定め、且つ償還方法を政府の便宜に從ひ隨意と爲し、元利金の支拂を倫敦に於て行ふ事と爲すを要するの外、必要なる事項は便宜之を處理せしめ、又政府の意嚮及び國內に於ける財政經濟事情を同公使に傳達し、且つ其の事務を幇助せしめんが爲め、大藏書記官兼大藏省參事官早川千吉郎を彼地に派遣したり。而して其の募集に當りてはバース銀行、香港上海銀行、印度濠洲支那チャータード銀行及橫濱正金銀行の四行をしてシンヂケートを組織して之を引受發行せしめ、バンミュア・ゴルドン商會を發行仲買人と定め、又日本銀行に對しては英國駐紮本邦公使の指揮に從ひ、募集に關する事務を取扱ふべき旨を令達したり。斯くて六月一日に至り本邦代表者松井慶四郎とシンヂケートの間に發行條件確定し、契約書の調印成れり。主なる條件は卽ち左の如し。

一、發行總額　一千萬磅（九千七百六十三萬圓）
一、利　率　年四分
一、發行價格　百磅に付九十磅
一、政府手取額　同上に付八十六磅
一、利子支拂　每年六月、十二月の兩度に橫濱正金銀行倫敦支店に於て支拂ふ。
一、證　券　五十磅券　二萬枚
　　百磅券　八萬枚

之より先同年四月二十日政府は法律第百一號を以て『明治二十五年法律第四號鐵道敷設法、明治二十九年法律第五十九號事業公債條例、明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道敷設法及明治三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法ニ據ル公債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニハ外國貨幣ヲ以テ證書ノ金額ヲ記載シ、其ノ證書ノ種類、元金ノ据置年限、募集、償還、利子ノ計算及仕拂ニ關スル方法其ノ他必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得』と公布したりしが、今本公債に關して倫敦に於て契約確定の報に接するに及び、大藏大臣は右の規定に基き、同年五月三十一日省令第二十二號を以て本公債の募集に關する手續方法等を左の如く公布したり。

大藏省令第二十二號（明治三十二年五月三十一日）

英國倫敦ニ於テ募集スル公債ニ關シ手續方法等左ノ通相定メ明治三十二年五月三十一日ヨリ施行ス

第一條　帝國四分利付英貨公債壹千萬磅ノ募集ハ橫濱正金銀行、「バース」銀行、香港上海銀行及「チャータード」銀行ノ組織スル「シンヂケート」ヲシテ之ヲ引受ケシム

第二條　此ノ公債證券ハ無記名利札付トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ五拾磅、壹百磅及五百磅ノ三種トス

第三條　此ノ公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四トス

第四條　此ノ公債ノ元金ハ明治三十二年一月一日ヨリ起算シ十箇年据置キタル後四十五箇年間ニ抽籤法ニ依リ便宜之ヲ償還スヘシ

第五條　此ノ公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ仕拂フヘシ

第六條　元金ノ拂込ハ明治三十二年六月ヨリ十月マテ六回トシ本年分ノ利子ハ十二月ニ於テ半箇年分ヲ仕拂フヘシ

尋いで六月二日發行銀行は左の如き目論見書を發表して即日より應募申込を受付け締切日を同月六日となせり。

PROSPECTUS OF IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4 % STERLING LOAN OF JUNE 1899 IN LONDON.
(FIRST SERIES)

The Lists will be Opened on Tuesday, 6th June, and Closed on the same day for London and the following morning for the Country.

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4 % STERLING LOAN OF 1899, FOR £10,000,000.

Issued under the following Acts, which have been passed by the Diet and have received the Imperial sanction, namely:—

Railway Construction Law of 1892.

Public Undertakings Law of 1896.

Hokkaido Railway Construction Law of 1896.

Law relating to the Placing of a Public Loan in a Foreign Country of 1899.

The Loan is for 55 years, from 1st January, 1899, but is redeemable at £100 per cent. after 1st January, 1909, by drawings from time to time at the option of the Government of Japan on their giving six months' notice.

Bonds to bearer will be issued for £50, £100 and £500 each, with half-yearly Coupons attached for interest at the rate of 4 % per annum, payable on 31st December and 30th June.

The first half-yearly Coupon of £2 per £100 will be payable on 31st December, 1899.

The Coupons and Drawn Bonds will be payable in London at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, 120, Bishopsgate Street Within, London, E. C.

SUBSCRIPTION PRICE £90 PER CENT.

The Yokohama Specie Bank, Limited, 120, Bishopsgate Street Within, London;
Parr's Bank, Limited, Bartholomew Lane, London, and Branches;
The Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 31, Lombard Street, London, and
The Chartered Bank of India, Australia and China, Hatton Court, Threadneedle Street, London,

Are authorised by the Imperial Japanese Government to invite subscriptions for the above Loan. Applications have been already received for £2,000,000, which will be allotted in full, and the balance of £8,000,000 is now offered, payable as follows:—

£ 5	per cent. on Application.
15	per cent. on Allotment.
15	per cent. on 17th July, 1899.
15	per cent. on 17th August, 1899.
20	per cent. on 18th September, 1899.
20	per cent. on 18th October, 1899.
£90	

Payment in full can be made under discount at the rate of 2 per cent. per annum, on the dates

when any of the respective instalments fall due.

The proceeds of the Loan are to be applied towards the completion of the various remunerative public works cited in the foregoing Acts, for which the expenditure is estimated to be as follows:—

£ 8,900,000 for Railway Construction and Improvement.
900,000 for Establishment of Steel Works.
1,000,000 for Extension of the Telephone Service.

The currency of Japan is on a gold basis.

The following are the official figures of the ordinary revenue and expenditure as furnished by the Government to the Diet, taking the *yen* 2/-:—

	Revenue.	Expenditure.	Surplus.
1894–1895	£ 8,974,000	£ 6,042,000	£ 2,932,000
1895–1896	9,544,000	6,714,000	2,830,000
1896–1897	10,490,000	10,071,000	419,000
1897–1898	12,353,000	11,576,000	777,000
Surplus actually realised in 4 years			£ 6,958,000
The estimates for the two following years are:—			
1898–1899	12,143,000	11,392,000	751,000
1899–1900	17,855,000	14,096,000	3,759,000
Making a total actual and estimated surplus for the 6 years of . .			£ 11,468,000

The large growth in revenue estimated for the year 1899–1900, arises mainly from increases in Land tax, Excise duty on *Sake* and Customs duties. In 1897–98 the Land tax and the Excise duty on *Sake* produced together £ 6,888,000. It is estimated that at the increased rates they will bring in £ 9,497,000. At the increased rates which came into operation this year the Land tax is equal to about 2s. 3d. per acre and the *Sake* duty to about 7½d. per gallon. A large margin for further increase therefore exists as regards these two taxes, and in other respects also the taxation of the country is exceptionally light.

Apart from the Ordinary Budgets, provision has been made for the Extraordinary expenditure necessary to complete the public undertakings above named, and for the completion of the programme of national defence. The last-named is estimated to amount to £ 28,997,000, in respect of which £ 19,608,000 has been appropriated from the Chinese War Indemnity, and it is proposed to provide the balance of £ 9,389,000 partly by internal loans and partly by appropriation of surplus revenue within the next six years.

The continuance of an annual surplus of revenue over expenditure, is regarded as certain by the Japanese Government.

The following are the figures of the population, the foreign trade and the railway mileage of Japan:—

Year	Population.	Annual value of Foreign Trade.	Miles of Railway open.		
1893 . .	41,388,000	£ 17,797,000	2,136	in March,	1894.
1896 . .	42,700,000	28,951,000	3,033	„	1897.
1897 . .	45,940,000*	38,243,000	3,691	„	1898.
1898 . .	46,400,000*	44,265,000	4,200	„	1899.

* These include Formosa.

The State owns 1,009 miles of the above 4,200 miles of railway. On 31st March last the National Debt stood as follows:—

Funded Debt	£ 39,125,000
Debt to the Bank of Japan	2,200,000
Paper money (for the redemption of which by 31st March 1900, provision	

has been made) 511,000

Total £41,836,000

The amount of debt, therefore, is 18s. 0d. per head of population, but against this the State owns assets (Railways, Telegraphs, Telephones, &c.), valued at £30,000,000 sterling, and Lands valued at about £82,000,000 (exclusive of timber). These are Lands belonging to the State distinct from agricultural and other lands belonging to private proprietors from which the State derives the Land tax, and distinct also from lands which are an appanage of the Crown.

Certified translations of the Acts and Regulations governing the issue of this Loan may be seen by intending investors at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, 120, Bishopsgate Street Within, London, Messrs. Dawes and Sons, Solicitors, 9. Angel Court, Throgmorton Street, E. C., and Mr. Alfred Bright, Solicitor, 14, Sherborne Lane, E. C.

Scrip Certificates to bearer will be delivered by the issuing Banks as soon as possible in exchange for the Allotment Letters duly endorsed, accompanied by the Bankers' receipts.

The Bonds will be delivered by the issuing Banks in exchange for the Scrip Certificates as soon as practicable after payment of the last instalment.

Application must be made on the enclosed form, accompanied by the deposit of £5 per cent.

If no allotment be made the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be applied towards payment of the amount due on allotment.

Failure to pay any of the instalments at due dates will render all previous payments liable to forfeiture.

A London Stock Exchange settlement and quotation will be applied for in due course.

Prospectuses and forms of application may be obtained from the issuing Banks, and from Messrs.

Panmure Gordon, Hill and Co., Hutton Court, E. C.

2nd June, 1899

第一回四分利付英貨公債倫敦募集目論見書譯文

應募申込簿ハ六月六日火曜日ニ之ヲ開キ倫敦ニ於テハ同日ニ地方ニ於テハ翌朝ニ締切ルヘシ

千八百九十九年日本帝國政府四分利付壹千萬磅英貨公債

本公債ハ帝國議會ノ協贊ヲ得天皇陛下ノ御裁可ヲ經タル左ノ法律ニ據リ之ヲ發行ス

千八百九十二年　鐵道敷設法

千八百九十六年　事業公債條例

千八百九十六年　北海道鐵道敷設法

千八百九十九年　國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法律

本公債ノ償還期限ハ千八百九十九年一月一日ヨリ起算シ五十五箇年間トス但シ日本政府ハ六箇月前ノ豫告ヲ以テ千九百九十年一月一日以後ニ於テハ隨時抽籤法ニ依リ額面百磅ニ對シ百磅ノ割合ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得

本公債ハ無記名式ニシテ五拾磅、百磅、五百磅ノ三種トス而シテ各證券ニハ年四分ノ割合ヲ以テ毎年十二月三十一日及六月三十日ニ支拂フヘキ半箇年分ノ利札ヲ附ス

第一回ノ半箇年分利札ハ百磅ニ付貳磅ニシテ千八百九十九年十二月三十一日ニ之ヲ支拂フ

利札竝ニ當籤證券ハ在倫敦イーシーピシヨツプスゲート、百二十番横濱正金銀行支店ニ於テ之ヲ支拂フモノトス

第三章外國債　第一節日露戰役前の外國債

應募價格ハ九十「パーセント」

倫敦「イー・シー・ビショップスゲート」街百二十番　橫濱正金銀行

倫敦「バーソロミユー・レーン」　「パース」銀行及各支店

倫敦「ロムバード」街三十一番　香上銀行

倫敦「スレツドニードル」街「ハツトン・コート」　「チヤータード」銀行

ハ日本帝國政府ヨリ前記公債ヲ募集スルノ權能ヲ附與セラレタリ

前記公債募集總額ノ中已ニ貳百萬磅ハ申込アリテ全部割當テラレタルニ付今玆ニ殘額八百萬磅ヲ募集ス其ノ拂込左ノ如シ

應募申込ノ際	百磅ニ付	五磅
公債割當ノ際	同上	拾五磅
千八百九十九年七月十七日	同上	拾五磅
同　年八月十七日	同上	拾五磅
同　年九月十八日	同上	貳拾磅
同　年十月十八日	同上	貳拾磅
合　計	同上	九拾磅

各拂込期日ニ於テ全額拂込ヲ爲ス時ハ年二分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

公債募集金ハ前記諸法律ニ規定シタル各種有利公共事業ヲ完成スル爲充當スルモノニシテ各事業費ノ見積計算左ノ如シ

八百九拾萬磅　鐵道敷設竝ニ其ノ改良

九拾萬磅　製鋼所設立費

壹百萬磅　電話事業擴張費

日本ノ貨幣制度ハ金本位トス

日本政府ヨリ帝國議會ニ提出シタル計數ニ依レハ日本政府經常歲入歲出ハ左ノ如シ但シ壹圓ヲ貳志トシテ計算ス

年次	歲入	歲出	剩餘
一八九四―九五	八、九七四、〇〇〇磅	六、〇四二、〇〇〇磅	二、九三二、〇〇〇磅
一八九五―九六	九、五四四、〇〇〇	六、七一四、〇〇〇	二、八三〇、〇〇〇
一八九六―九七	一〇、四九〇、〇〇〇	一〇、〇七一、〇〇〇	四一九、〇〇〇
一八九七―九八	一二、三五三、〇〇〇	一一、五七六、〇〇〇	七七七、〇〇〇
四箇年間ノ實際剩餘額			六、九五八、〇〇〇

爾後二箇年間ノ豫算ハ左ノ如シ

一八九八―九九	一二、一四三、〇〇〇磅	一一、三九二、〇〇〇磅	七五一、〇〇〇磅
一八九九―一九〇〇	一七、八五五、〇〇〇	一四、〇九六、〇〇〇	三、七五九、〇〇〇
以上六箇年間合計實際及豫算剩餘額			一一、四六八、〇〇〇

一八九九―一九〇〇年度ニ於ケル歲入ノ增加ハ主トシテ地租、酒稅及關稅ノ增加ニ基ク卽チ一八九七―九八年度ニハ地租及酒稅ノ合計額ハ六、八八八、〇〇〇磅ナリシモ增稅ノ結果一八九九―一九〇〇年度ニハ九、四九七、〇〇〇磅ニ上ルヘキ豫算ナリ本年ヨリ實施スヘキ增稅率ニ依レ

ハ地租ハ一「エーカー」ニ付約貳志參片ニシテ酒稅ハ一「ガロン」ニ付約七片半ニ當ル故ニ此等二種ノ稅ニ付テハ尙將來之ヲ增加スヘキ餘地充分存スルノミナラス他ノ諸稅ニ關シテモ國民ノ負擔極メテ輕シ經常豫算ノ外尙前記公共事業竝ニ國防ノ計畫ヲ完成スルニ付臨時支出ノ設備アリ國防計畫ニ付テハ其ノ全額ハ二八、九九七、〇〇〇磅ニシテ其ノ中一九、六〇八、〇〇〇磅ハ淸國償金中ヨリ之ヲ支辨シ殘餘ノ九、三八九、〇〇〇磅ハ一部ハ內國債及一部ハ今後六箇年間ニ生スヘキ歲計剩餘ヲ以テ之ニ充ツルノ見込ナリトス

歲出ニ對シ歲入ノ引續キ剩餘ヲ生スヘキコトハ日本政府ニ於テ確實ニ之ヲ認ム

日本ノ人口外國貿易鐵道線路ノ延長ハ左ノ如シ

年	人口	外國貿易年額	鐵道線路
一八九三	四一、三八八、〇〇〇人	一七、七九七、〇〇〇磅	二、一三六哩（一八九四年三月調）
一八九六	四二、七〇〇、〇〇〇	二八、九五一、〇〇〇	三、〇三三（一八九七年三月調）
一八九七	＊四五、九四〇、〇〇〇	三八、二四三、〇〇〇	三、六九一（一八九八年三月調）
一八九八	＊四六、四〇〇、〇〇〇	四四、二六五、〇〇〇	四、二〇〇（一八九九年三月調）

＊臺灣ヲ含ム

前記鐵道線路四、二〇〇哩ノ中一、〇〇九哩ハ國有ニ屬ス

本年三月三十一日ニ於ケル國債ハ左ノ如シ

公債	三九、一二五、〇〇〇磅
日本銀行ヨリ借入金	二、二〇〇、〇〇〇
政府紙幣（此ハ一九〇〇年三月三十一日償却ノ筈）	五一一、〇〇〇
計	四一、八三六、〇〇〇

故ニ國債額ハ國民一人ニ付拾八志ニ當リ之ニ對スル國有財產（鐵道電信電話等）ノ價格ハ三〇、〇〇〇、〇〇〇磅ニシテ官有地ノ價格ハ八二、〇〇〇、〇〇〇磅（立木ヲ除ク）ニ上ル右官有地ハ地租ヲ納ムル私有ノ耕作用其ノ他ノ土地竝ニ帝室御用地トハ別異ノモノニ屬ス

應募者ハ本公債發行ニ關スル法律條例ノ證明附譯文ヲ倫敦「イー・シー・ピショップスゲート・ウキジン」百二十番橫濱正金銀行支店、倫敦「イー・シー・スロッグモルトン」街「エンゼルコート」九番狀師「ダウズ」及倫敦「イー・シー・セルボーンレーン」十四番狀師「アルフレッド・プライト」ニ就テ閱覽スルコトヲ得

發行銀行ハ適法ニ裏書アル割當通知書竝ニ銀行ノ領收書ト引換ニ出來得ル限リ速ニ無記名式假證券ヲ交付スヘシ

本證券ハ最終ノ拂込完了後出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ發行銀行ニ於テ之ヲ交付スヘシ」

應募申込ハ百磅ニ付五磅ヲ添ヘ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

若シ割當ナキトキハ保證金全部ヲ返還スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ割當金額ノ拂込ニ充ツヘシ

各拂込期限ニ至リ拂込ヲ爲ササルトキハ旣納ノ拂込金ハ總テ沒收セラルルモノトス

倫敦株式取引所ニ於ケル受渡及公定相場ニ登載ノ件ハ適當ナル時機ニ於テ之ヲ請求スヘシ

目論見書及應募申込書式ハ發行銀行竝ニ倫敦「イー・シー・ハットンコート」「バンミユーア・ゴルドン」商會ヨリ受取ラルヘシ

千八百九十九年六月二日

而して一般公衆の應募申込は意外に不成績にして僅に九十八萬磅に過ぎざりしを以て、其の殘額は全部シンヂケートに於て（內額面二百四十九萬九千五十磅は帝國政府償金特別會計）之を引受けたり。

右募集金額は大藏大臣の命ずる所に從ひ、日本銀行倫敦代理店（橫濱正金銀行支店）に於てシンヂケートより拂込を受け、同行は之を政府寄託金として直ちに英蘭銀行に預け入れたり。

本公債額面總額一千萬磅、此の邦貨換算額九千七百六十三萬圓は起債の目的に從ひ鐵道事業、北海道鐵道の三公債に左の如く配分せられたるが、其の實收金八百六十萬磅（邦貨換算額八千三百九十六萬餘圓）は其の割合を以て右三種の事業費に充當せられたり。

鐵道公債	一七、五七七、七五〇圓	
事業公債	七八、〇五二、二五〇	
北海道鐵道公債	二、〇〇〇、〇〇〇	
計	九七、六三〇、〇〇〇	

第二項　償還及支拂

本公債の元金は明治三十二年（西曆千八百九十九年）より五十五箇年卽ち昭和二十八年（西曆千九百五十三年）十二月末日迄に額面金額を以て償還せらるべく、但し据置期限十箇年を經過せる明治四十二年一月一日以後は、政府の都合に依り何時にても六箇月前の新聞廣告を以て抽籤の方法によりて償還し得るものとす。而して實際に於ては据置期限經過後と雖も明治年間に於ては一回の抽籤償還も行はれざりしが、大正年間に入りて初めて國債證券買入銷却法に依りて十數回に亙り合計六十四萬三千磅（邦貨換算額六百二十七萬七千六百九圓）の買入銷却ありたり。斯くして昭和元年度末現在未償還額は九百九十三萬五千七百磅（邦貨換算額九千百三十五萬二千三百九十一圓）となれり。

次に本公債の利率は年四分にして、橫濱正金銀行倫敦支店に於て毎年六月三十日及十二月三十一日の兩回に各半箇年分を支拂ふものとす。明治三十二年度以降の年々の利子支拂額を示せば左の如し。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
明治三二	一、九五〇、一七八、七七六圓	明治四二	四、四四六、七六三、三七三圓	大正八	三、八八六、三七六、九三六圓
三三	三、九〇五、〇〇四、七四〇	四三	三、八一三、一五四、四三六	九	三、九二四、八七二、四四五
三四	三、九〇五、〇八二、八四四	四四	？	一〇	三、八九三、一五二、四五八
三五	三、八九七、〇六七、四二一	大正元	？	一一	三、九一三、五五七、一二八
三六	三、九〇三、二二七、八七四	二	三、六八二、三二〇、四七三	一二	三、七〇〇、二二五、八一五
三七	三、九〇三、〇四二、三七七	三	三、六六九、〇二三、二六七	一三	三、五四六、〇四八、五一九
三八	三、九〇〇、五七二、三三八	四	三、七五三、一九四、六七一	一四	三、五八〇、四六三、〇九四
三九	三、八八八、三〇〇、二四七	五	三、七〇三、七〇八、五八二	昭和元	三、四五〇、八八八、五五八
四〇	三、八九八、六六八、五五三	六			三、五〇五、六七八、五二四
四一	三、九一〇、〇六一、九七四	七			三、五三五、二三一、一一五

（備　考）大正十、十一兩年度分は震災の爲め調査資料燒失せしを以て不明。

第二節　第一回六分利付英貨公債

第一款　起　債

明治三十六年の末滿韓の風雲愈〻急を告げ、日露の間形勢漸く切迫せんとするや、政府は速かに非常軍資を充實するの必要を認め、十二月二十四日大藏大臣は案を具して閣議を請ひ、之が決定を得たり。卽ち曩に英國政府より漏したる內意もあり、又英國資本家サー・マーカス・サミュエルの內々の申出もありたれば、駐英國公使林董に訓令を發して公債募集の準備を爲さしめ、此の準備行爲にして好結果を得るに於ては直ちに之が實行に著手せんとするものにして、右閣議案の主眼とせし所は、旣發行公債整理を名とし、已むを得ざれば同盟國たる英國の保證を得て、臨時軍事費計畫に屬する公債募集額の一部として、英貨公債二千萬磅を募集せんとするにありしものなり。

右閣議の決定を見るや、翌二十五日小村外務大臣は林公使に打電して、本公債發行に關する政府の希望條件を告げ、尙ほ前記サミュエルを介して英國政府の意嚮を探知せしむべく命じたり。政府の希望したる條件は左の如し。

一、總　額　英貨二千萬磅
一、利　率　年四分
一、發行價格　英國政府の保證あらば額面額とす
一、發行手數料　百分の二

一、元金償還　十箇年据置、爾後四十五年以內に隨時償還す

本公債に就ては英國外相ランスダウン侯大に斡旋し、又同地資本家にも英國政府の保證あらば頗る有利なる條件を以て之に應ぜんとの意嚮を示したる者ありしも、遂に英國政府の同意を得るに至らず、翌年一月に至り帝國政府も之を斷念するの外なかりき。然れども政府は尙ほ近き將來に於て外債募集の避くべからざるを覺悟し、密かに之に備ふる所ありたり。

次いで明治三十七年二月十日征露の大詔渙發せられ、愈〻交戰の狀態に入るや、軍費の財源に就ては公債、增稅の兩說交々行はれしが、政府は兩者を竝び採つて之に充てんとし、殊に其の大部分を公債に仰がんとせり。而して公債發行に關しては之を內國に募ると共に、又外國に於て爲すべきは戰時財政上避くべからざる所なれども、戰時に於ける外債募集は最も難事に屬し、其の時機及方法條件等に就ては特に細心の注意を要するものあり。卽ち大藏大臣は先づ之が準備として、明治三十七年二月十七日左の件々を以て閣議を請ひ、其の決定を得たり。

一、倫敦市場に於て英貨公債二千萬磅以內を發行すること
一、發行不可能なるときは我旣發行公債を賣却すること
一、右の交涉に當らしむるため日本銀行副總裁高橋是清に相當の權限を委任して海外に派遣すること

右閣議の決定に基き、同月二十二日日本銀行に對し公債一千萬磅の募集、又は旣發行帝國五分利公債證書一億圓賣却の爲め、同行副總裁高橋是清を倫敦に派遣すること、竝に募集又は賣却

に關する往復事務等は總て同行に於て取扱ふべきことを命令し、同時に高橋是清に左の如き委任狀及び命令書を交付せり。

『　委　任　狀

日本銀行副總裁　高　橋　是　清

今般日本帝國政府ニ於テ公債壹千萬磅ヲ倫敦ニ於テ募集又ハ賣却スルノ計畫ナルニ付、至急倫敦ニ出張シ、駐英日本帝國公使監督ノ下ニ右公債募集、又ハ賣却ニ關スル資本家等ノ商議ヲ擔當スベシ。依テ左ノ權限ヲ委任ス。

一、倫敦ニ於テ壹千萬磅ノ公債ヲ募集スルコト。

二、日本帝國政府ヲ代表シテ「シンヂケート」其他公債募集ヲ引受クベキモノト談判ヲ爲シ、又ハ契約ヲ締結スルコト。

三、公債募集ノ目論見書ヲ承認スルコト。

四、新ニ公債ヲ發行スル場合ニハ證券ノ券面金額、種類及樣式ヲ定メ、之ヲ製造スルコト。但公債證券ニハ壹枚毎ニ駐英日本帝國公使ノ調印ヲ受クベシ。

五、新ニ公債ヲ發行セズシテ既ニ發行セル日本帝國五分利公債證書ヲ裏書ノ方法ニ依リ賣却スルヲ便トスルトキハ、從前裏書ノ例ニ據リ額面壹億圓以內ヲ賣却スルコト。

六、右ノ外公債ノ募集又ハ賣却ニ關シテ必要ナル事項ヲ便宜處辨スルコト。

明治三十七年二月二十二日

大藏大臣　」

『　公債募集及賣却方ニ付命令書

今般公債壹千萬磅募集又ハ公債賣却ノ爲メ英國倫敦ヘ出張ニ付左ノ件々心得ベシ。

一、募集スベキ公債ハ壹千萬磅トス。但時宜ニ依リ二回ニ（五百萬磅ヅツ）分チ募集スルコト。

二、公債ノ利子ハ壹ケ年五分以下トス。

三、發行價格ハ市場ノ狀況ニ依リ見込ヲ定メテ大藏大臣ノ認可ヲ受クベキコト。

四、公債利子ハ一年ヲ二期ニ分チ、既發行公債ノ例ニ依リ在倫敦橫濱正金銀行支店ニ於テ支拂フコトニ定ムルコト。

五、公債元金ハ募集ノ年ヨリ十ケ年据置キ、十一ケ年目ヨリ四十五ケ年以內ニ隨意償還スルコトニ定ムルコト。

六、本公債募集ノ目的ハ臨時事件費ノ支出ニ因リテ生ズル生產資金ノ缺乏ヲ補塡スルニ在ルヲ說明スベキコト。

又本公債ノ元利仕拂ノ財源ハ帝國政府鐵道收入又ハ關稅收入ヲ以テ充ツルコトヲ說明スルコト。

七、募集金ハ一時ニ日本ニ輸送スルヲ要セザルコト。

八、募集金ノ內若干金額ハ多少ノ期間適當ナル銀行ニ預金ト爲スコトヲ諾約スルモ差支ナシ。

但其金額ハ豫メ認可ヲ受クベシ。

九、公債募集ノ商議ハ倫敦市場ノ人氣ヲ見計ヒナルベク速ニ開始スベキコト。

十、既發行ノ帝國五分利付公債證書ヲ裏書ノ方法ニ依リ賣却セントスルトキハ、大藏省預金ノ運

用方法ノ一トシテ之ヲ取扱フベキコト。

十一、前項ニ依リ公債ヲ賣却セントスルトキハ、其賣出價格ノ見込ヲ定メテ大藏大臣ノ認可ヲ受クベキコト。

十二、右賣却ハ市場ノ模樣ニ依リ二回又ハ數回ニ分割賣却スルモ妨ゲナシ。但ナルベク短期間ニ多額ノ賣却ヲ終了スルコトヲ旨トスベシ。

十三、右賣却スル公債證書ニハ其賣却ヲ取扱フ期ニ屬スル利札付屬セシモノト心得ベシ。例ヘバ五月ニ賣却約束ヲナストスレバ卽九月渡ノ利札ノ附屬セシモノナリ。

十四、右公債ヲ賣却セントスルトキハ電報ヲ以テ公債證書ノ申請ヲ爲スベシ。然ルトキハ大藏省ハ直ニ現品ヲ郵送スベシ。

十五、右公債證書ハ裏面ニ元利共金壹圓ハ英貨貳志零片半ノ割ヲ以テ、英貨ヲ以テ英國ニ於テ拂渡スベキ旨ヲ記入セシモノトス。但其ノ形式ハ先例ニ據ルベキコト。

十六、代價拂込ハ數月ニ割合、拂込マシムルモ妨ナシ。

十七、公債證書ヲ引受クル「シンヂケート」又ハ其他ノ引受人ヘ交付スル手數料ハ百分ノ四以內、又印稅ハ實費ヲ交付スルコトヲ得ベシ。

十八、公債募集又ハ公債賣却ノ手續等ハ前例ニ準ジテ適當ニ定ムベキコト。

十九、交涉ノ要件及經過ハ其時々大藏大臣ニ電報スベキコト。

二十、委任狀及命令書ニ指定シタル方法及條件ニテ商議纏リ兼ヌルトキハ、別ニ方法及條件ヲ具シ大藏大臣ノ指揮ヲ受クベキコト。

右相達ス。

明治三十七年二月二十二日

大藏大臣

尙ほ大藏大臣は英國資本家等の質問、要求條件等を豫測し、且つ最大限度の讓步條件を考慮して、別に此等に關する祕密命令を手交して、臨機應變の處置に出でしめんとせり。

政府は又同日附を以て英國駐在帝國公使林董に對し、公債募集又は賣却に關して高橋是淸を援け又公債發行の場合には帝國政府を代表して證券に調印すべき旨を命令せり。

斯くて高橋是淸は明治三十七年二月二十四日本國を出發し、四月一日倫敦に到著、直ちに公債募集に著手せんとし、從來我國と關係を結びしパース銀行、香港上海銀行、バンミユア・ゴルドン商會等と交涉を開始したり。而して當時英國の金融市場は南阿戰爭の餘憊未だ全くは癒えず、恢復の曙光は見えたりと雖も金利は尙ほ低からず、飜て日本が果して勝利を得るや否やは人々の大いに疑問とする所にして、假に一時の勝利を得るも露國が續々軍隊を東亞に送り戰爭を繼續するに於ては、終局の勝利は露國の手に歸すべく、又數步を讓り今回の戰爭は日本の勝利を以て落著すべしとするも、露國は一敗に屈すべきに非ざれば更に軍備の擴張に努力すべきを以て、日本も亦之に對抗して軍備擴張に巨額の經費を投ぜざるべからざるべしとの觀念が、一般英國資本家を支配しつつあるの際なりしを以て、此の際巨額の公債募集は到底成功の見込なかるべしとの見解有力なりき。されば公債募集の爲め高橋是淸が歐洲に向へりとの報道一度傳へらるるや、時恰も我艦隊が仁川沖に於て露艦ヴアリアグ、コレーツを擊破せし直後なりしにも拘らず、露國の四分利公債が巴里に於て一¼方騰貴せしに

反し、我四分利付英貨公債は倫敦に於て却て二・1/4方下落するの奇現象を呈せざるを得ざりき。蓋し露國に比して我正貨準備の劣勢なること其の一因なりしと雖、頓て外債の募集あらんとの氣構への市場の人氣を支配したるに因るものと云ふべし。

斯かる情勢なりしかば、募集經過に關する高橋の報告は最初甚だ樂觀を許さず、政府も已むを得ざれば有力なる資本家と協定して私債を起し、一時の急を救はんと決意したりしが、高橋は別に此の際同地に於て(一)大藏省證券の發行(二)擔保附新公債の發行(三)日本銀行所有の公債を賣却して國內資金の需要に應ずるの三策を獻じ來りしを以て、政府は直に右の內第一案を容れて其の折衝に期待せり。

然るに一般の豫想を裏切りて帝國の捷報相踵いで到り、又金融市況も漸次緩慢を告げ、加ふるに四月中旬に入りて英佛協約の發表せらるるに及び市場は最早警戒の要を認めず、英蘭銀行は四月十四日割引歩合を三分五厘に引下げ、同月二十一日更に之を三分と爲すに至れり。戰爭の結果に就ても歐洲一般の豫想に反して、旅順仁川の一擧先づ世人に意外の感を與へしのみならず、我海軍の奇勝相踵いで報ぜられ、遂に露國旗艦竝に司令官の沈沒に因りて制海權の全く帝國に歸したる結果、露國兵の日本侵入全然不可能なること明かとなりたれば、帝國公債は漸く騰貴の兆あり、露國公債は之に反して下落の趨勢を示すに至れり。今露艦沈沒前後の公債市價を表示すれば左の如し(締切最高相場)。

名稱	四月十二日	四月十五日	兩日の差額	四月二十日	十二日との差
コンソル公債	八八・5/16	八八・1/16	(−) ○・1/4	八八・3/16	(−) ○・1/8
帝國軍事公債	七八・—	八〇・1/2	(+) 一・1/2	八三・—	(+) 五・—
同五分利公債	七五・3/4	七七・1/2	(+) 一・3/4	七九・—	(+) 三・1/4
同四分利付英貨公債	六三・3/4	六五・1/2	(+) 一・3/4	六七・—	(+) 三・1/4
露國四分利公債	九五・—	九三・1/4	(−) 一・3/4	九二・1/2	(−) 二・1/2

斯くて曩に高橋が第二案として提出せし抵當附公債は、情勢好轉と共に英國銀行團（パース銀行香港上海銀行橫濱正金銀行及パンミュア・ゴルドン商會）との間に意見纏まりしかば、高橋は第一案の大藏省證券發行よりも公債發行に依るを可なりと認め、四月二十七日其の結果を報告したり。條件左の如し。

一、發行總額を一千萬磅とし、先づ其の半額を募集す。

一、利率は年六分とす。

一、償還期限は七箇年、但し三箇年据置後は六箇月前の豫告を以て何時にても償還することを得。

一、發行價格は百に付九十三とし、政府手取金を八十八とす。

一、海關稅收入を以て元利償還を擔保す。

一、滿期利札及償還當籤證書は貳志零片半に付壹圓の割合を以て關稅支拂に充つることを得。

一、一箇年に要する公債元利支拂金の十二分の一を、毎月倫敦なる公債所持人の代表銀行へ拂込むこと。

仍て政府は大藏省證券發行の希望を棄て、新に公債を募集することに一決したるが、尙ほ其の發行條件の改善、特に發行價格の引上を希望し、特派員をして更に外國資本家と折衝せしめたれども、政府手取高を上せて九十と爲したると、關稅收入擔保の要求は毫も我が行政權に對して干涉するの意志なきことを確めし外、其の條件を改善すること能はざりき。

發行價格の高低、發行手數料の多少、利率の輕重等は國庫の損益に關すること頗る大なりと雖も、此

の際甚だ重きを置く能はず、又第一回發行額を五百萬磅に止めしは滿足と云ふを得ずと雖も、尚ほ一時我が正貨準備を補充するに足るべし。唯戰時公債の必須要件として資本家が要求せし擔保の件は、曩に高橋の出發に當り已むを得ざる場合の條件として內訓せし所なれ共、尚ほ大に熟慮を要するものあり。其の性質は姑く問はずとするも、擔保付を以て外國債を募集するは獨り我國の體面を損するの虞れあるのみならず、他日に於ける外債募集に累を及ぼすこと大なるべきを以て、若し軍國の財政尚ほ切迫を告げざるに於ては固より斷じて之を排斥せざるべからざる所なり。然るに日本銀行正貨準備は當時已に八千萬圓以下に減少し、尚ほ將來巨額の正貨流出を見るべく、而して一方兌換銀行券の發行額は約二億圓にして、更に漸增の傾向あり、戰時財政の將來を豫測するに頗る寒心せざるを得ざりき。飜て資本家の要求する擔保の條件は、前記の如く國家破產に瀕するの時、單に他の債權者に優先せんと欲するに止まるを以て、其の拘束甚だ大ならざるのみならず、我國に於て其の效力を發現すべき虞れは秋毫も之れなかるべきを以て、政府は大局に鑑み、斷然此の條件を以て外債發行を決心し、高橋をして更に折衝を進めしめたり。

會〻鴨綠江戰捷の公報ありしを以て、政府は之を以て更に條件改善に資せんと試みしも尚ほ功を收むること能はざりしが、五月四日に至り駐英公使及高橋特派員より快報到れり。卽ち米國クーン・ロエブ商會をして殘額五百萬磅を引受けしめ、一時に一千萬磅を發行することを得、且つ發行價格を上せて九十三磅半と爲すの可能を報じ來りしこと之なり。仍て政府は同月六日高橋に電報して米國に於ける公債募集に關する權限を委任し、同時に駐米國高平公使に此の旨を電達せり。斯くて五月七日に至り彼我の意見全く一致し、兩者の間に假契約を締結するを得たり。條件は前記の如く良好なりとは稱し難しと雖、又以て戰時の急に應じ財政の基礎を鞏固にするに足るべく、且つ此の機會に於て英米兩國の資本家と關係を結ぶを得たるは大なる成功にして、將來の爲め極めて有利なるべきを以て、大藏大臣は直に假契約を以て確定契約と爲すの手續を了せしめたり。尋いで五月二十日に至り覺書を以て多少條件を補充變更する所ありたり（契約書は從來發表せざる方針なるを以て之を省略す。以下每回の發行に就ても亦同じ）。

倫敦に於て本公債發行の契約成るや、大藏大臣は直ちに之に關する勅令案を具し閣議に提出して其の決定を得、五月十日勅令第百三十八號（明治三十七年五月十日）を以て之を公布せり。其の全文左の如し。

勅令第百三十八號

第一條　明治三十七年法律第一號ニ依リ英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ英貨公債千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ六トス

第三條　本公債ノ元金ハ明治四十四年四月五日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十年四月五日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條　本公債ノ利子ハ毎年四月五日及十月五日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條　本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ百磅及二百磅ノ二種トス」英貨ト米貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙トス

第六條　本公債ノ滿期利札及償還當籤證券ハ二志零片半ヲ一圓ノ割合ニテ關稅收納ノ爲差支ナク受取ラルヘシ

第七條　本公債元利金ノ償還ハ關稅收入ヲ以テ優先ニ擔保セラルルモノトス

第八條　本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十三磅十志トス

第九條　本公債ノ元金ハ明治三十七年五月ヨリ八月マテ毎月一回宛四回ニ拂込ムヘシ

前項公債募集ニ對シテハ本年十月五日ニ於テ前半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　募　集

本公債壹千萬磅は倫敦及紐育に於て各半額宛募集せらるることとなり，發行銀行團は倫敦にては五月十一日，紐育にては同十日左記の目論見書を發表し，同十二日より應募申込の受付を開始せり。

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6 %
STERLING LOAN OF MAY 1904 IN LONDON.

(FIRST SERIES.)

The List of applications will be closed on or before 14th May, 1904.

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6 %
STERLING LOAN FOR £10,000,000

Which is now offered for Subscription in London and New York.

Created under the Authority of Law No. 1, dated 29th March, 1904, and of an Imperial Ordinance of His Majesty the Emperor, numbered 138 and promulgated 10th May, 1904.
Secured by a First Charge on the Customs Receipts of the Empire.

SUBSCRIPTION PRICE 93¾ PER CENT.

Repayable 5th April, 1911, with option to the Imperial Japanese Government to redeem at any time after the 5th April, 1907, on giving six months' notice.

In Bonds to Bearer of £100 and £200, with half-yearly coupons attached payable 5th April and 5th October, both in London in Sterling, and New York in United States Gold Dollars at the fixed rate of exchange of $4.87 per Pound Sterling.

Under the authority of the Imperial Japanese Government one half of this Loan, viz.: £5,000,000 has been taken from the London issuing Banks by Messrs. Kuhn, Loeb & Co., and will be issued in New York by them and by the National City Bank, and the National Bank of Commerce, on the terms of this Prospectus.

Coupons and Bonds payable in London at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, 120 Bishopsgate Street Within, E. C., and in New York at the Agency of the Yokohama Specie Bank, Limited, 63/65, Wall Street.

A Coupon payable 5th October, 1904, for interest on instalments, will be attached to the Scrip.

Parr's Bank Limited, the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and The Yokohama Specie Bank, Limited, are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above Loan and are prepared to receive subscriptions for £5,000,000 sterling, payable as follows:—

£ 5 0s.	per cent. on Application.
£15 0s.	per cent. on Allotment.
£25 0s.	per cent. on 13th June, 1904.
£25 0s.	per cent. on 11th July, 1904, and
£23 10s.	per cent. on 15th August, 1904.
£93 10s.	

Payment in full may be made on allotment under discount at the rate of two per cent. per annum.

The Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par, all or any of the Bonds at any time after the 5th April, 1907, on giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, London, and the New York Agency of the same Bank, in the usual manner.

The Bonds will be secured both as to Principal and Interest by a First Charge upon the Imperial Japanese Customs Receipts and the Imperial Japanese Government will pay each month one-twelfth part of the sum required annually for the interest payable on this issue to the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and to the Yokohama Specie Bank, Limited, as representatives of the bondholders, in Yokohama or in London at the option of the Imperial Japanese Government.

Coupons and drawn Bonds of this issue will be receivable for their full face value in payment of Customs duties at all the Custom Houses of the Empire of Japan at the fixed exchange of 2/0½ per *yen*.

The average annual yield of the Customs Receipts of the Empire of Japan, as shown by the Financial and Economical Annual of Japan No. 3, issued by the Department of Finance:—

For the 5 years 1898–9 to 1902–3 was	£1,484,612
The yield for the year 1902–3 was	£1,740,071

Since the close of the last financial year the Tariff of Customs duties has been increased on certain articles.

Scrip Certificates to bearer will be delivered by the issuing Banks as soon as possible, in exchange for the Allotment Letters duly endorsed, accompanied by the Bankers' receipts.

A Coupon for payment of the interest on instalments from their respective dates of payment to the 5th October, 1904, will be attached to the Scrip.

The Bonds will be delivered by the issuing Banks in exchange for the Scrip Certificates as soon as practicable after payment of the last instalment.

Application must be made on the enclosed form accompanied by the deposit of £5 per cent.

If no allotment be made the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards payment of the amount due on allotment.

Failure to pay any of the instalments at due dates will render all previous payments liable to forfeiture.

A Certified translation of Law No. 1 of 29th March, 1904, and of the Imperial Ordinance, creating and authorizing the issue of the above Bonds may be seen at the Offices of any of the issuing Banks and at the Offices of Messrs. Alfred Bright and Son, Solicitors, 15 George Street, Mansion House, London,

E. C., and of Messrs. Stephenson, Harwood & Co., Solicitors, 31 Lombard Street, E. C.

A London Stock Exchange settlement and quotation will be applied for in due course.

Prospectuses and forms of application may be obtained from the issuing Banks, viz.: Parr's Bank Limited, 4 Bartholomew Lane, London, E. C., and Branches; the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 31 Lombard Street, London, E. C.; the Yokohama Specie Bank, Limited, 120 Bishopsgate Street Within, London, E. C.; and from Messrs. Panmure Gordon & Co., Hatton Court, Threadneedle Street, London, E. C.

11th May, 1904.

第一回六分利付英貨公債倫敦募集目論見書譯文

應募申込簿ハ千九百四年五月十四日以前ニ之ヲ締切ルヘシ

壹千萬磅ノ日本帝國政府六分利付英貨公債

右公債ハ今回倫敦及紐育ニ於テ之ヲ募集ス

本公債ハ千九百四年三月二十九日法律第一號及同年五月十日公布勅令第百三十八號ニ依リテ起債ス

本公債ハ帝國ノ關稅收入ヲ以テ優先ニ擔保セラルルモノトス

應募價格ハ九十三½「パーセント」

本公債ハ千九百十一年四月五日ヲ以テ之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百七年四月五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得

證券ハ無記名式ニシテ百磅及二百磅ノ二種トシ倫敦ニ於テハ英貨ヲ以テ、合衆國紐育ニ於テハ英貨一磅ニ付四弗八十七仙ノ確定換算率ニ依リ合衆國本位貨幣ヲ以テ毎年四月五日及十月五日ニ支拂フヘキ利札ヲ附ス

本公債ノ一半即チ五百萬磅ハ日本帝國政府ノ承認ヲ得テ「クーン・ロエブ」商會ニ於テ倫敦發行銀行ヨリ引受ケタルニ付同商會「ナショナル・シチー」銀行及「ナショナル・バンク・オヴ・コムマース」ハ本目論見書ノ條項ニ依リ紐育ニ於テ之ヲ發行ス

元利金ハ倫敦ニ於テハ「ビショップスゲート・ストリート・ウキジン」百二十番橫濱正金銀行支店、紐育ニ於テハ「ウォール」街橫濱正金銀行出張所ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

拂込金ノ利子ニ對シ千九百四年十月五日拂利札ヲ假證券ニ附ス

「パース」銀行、香港上海銀行及橫濱正金銀行ハ日本帝國政府ヨリ本公債發行ノ權能ヲ賦與セラレタルニ付英貨五百萬磅ヲ募集ス其ノ拂込ハ左ノ如シ

應募申込ノ際	百磅ニ付	五磅
公債割當ノ際	同　上	拾五磅
千九百四年六月十三日	同　上	貳拾五磅
同　年七月十一日	同　上	貳拾五磅
同　年八月十五日	同　上	貳拾參磅拾志
合　計	同　上	九拾參磅拾志

公債割當ノ際全額拂込ヲナストキハ年二分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ日本帝國政府ハ千九百七年四月五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ額面金額ニテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ

償還スル權利ヲ留保ス一部償還ヲナス場合ハ橫濱正金銀行倫敦支店及同行紐育出張所ニ於テ通常ノ方法ニ依ル抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

本公債ノ元利金ハ日本帝國關稅收入ヲ以テ優先ニ擔保セラル日本帝國政府ハ本公債ノ利子トシテ毎年所要額ノ十二分ノ一ヲ毎月日本帝國政府ノ便宜ニ依リ橫濱又ハ倫敦ニ於テ公債所有者ノ代表者タル香港上海銀行及橫濱正金銀行ニ支拂フヘシ

本公債ノ利札及當籤證券ハ其ノ全額面ニ對シ壹圓ニ付貳志零片二分ノ一ノ確定換算率ヲ以テ日本帝國各稅關ニ於テ關稅納付ニ受領セラルヘシ

日本帝國關稅收入平均額ハ大藏省發行財政經濟年報第三號ニ依レハ左ノ如シ

自千八百九十八年度　至千九百二年度　五箇年　一、四八四、六一二磅

千九百二年度　一、七四〇、〇七一磅

昨年度末ヨリ關稅々率ノ增加セシモノ數種アリ

無記名假證券ハ發行銀行ニ於テ銀行領收書及適當ニ裏書アル割當通知書ト引換ニ出來得ル限リ速ニ之ヲ交付スヘシ

各拂込期日ヨリ千九百四年十月五日迄拂込金ニ對スル利子ヲ支拂フヘキ利札壹枚ヲ假證券ニ附ス

本證券ハ最終拂込金拂込後出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ發行銀行ニ於テ之ヲ交付ス

應募申込ハ百磅ニ付五磅ノ保證金ヲ添ヘ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

全然割當ナキトキハ保證金全部ヲ返還スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ割當金額ノ拂込金ニ之ヲ充當スヘシ

拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ既納ノ拂込金ハ總テ沒收セラルルモノトス

本公債ノ起債及承認ニ關スル千九百四年三月二十九日法律第一號及勅令ノ證明譯文ハ發行銀行及倫敦「マンシヨン・ハウス・ジヨージ」街十五番牀師「アルフレッド・プライト」商會、倫敦「ロムバード」街三十一番同「ステフエンソン・ハーウツド」商會ニ於テ閱覽スルコトヲ得

倫敦株式取引所ニ於ケル受渡及公定相場ニ登載ノ件ハ適當ナル時機ニ於テ之ヲ請求スヘシ

目論見書及申込書式ハ發行銀行卽チ倫敦「バーソロミユー・レーン」四番「バース」銀行及其ノ支店、同「ロムバード」街三十一番香港上海銀行、同「ビショップスゲート・ストリート・ウキジン」百二十番橫濱正金銀行及同「スレッドニードル」街「ハツトン・コート」「バンミユーア・ゴルドン」商會ヨリ受取ラルヘシ

千九百四年五月十一日

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6% STERLING LOAN OF MAY 1904 IN NEW YORK.

(FIRST SERIES.)

£10,000,000

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6% STERLING LOAN

DUE APRIL 5, 1911.

With option to the Imperial Japanese Government to redeem all or any part after April 5, 1907, upon giving six months' notice.

Secured by a first charge on the customs receipts of the Empire.

Created under the authority of Law No. 1, dated March 29, 1904, and of an Imperial Ordinance of His Majesty the Emperor, No. 138, Promulgated May 10, 1904.

Coupon Bearer Bonds in the Denomination of £100 and £200.

Semi-annual interest payable April 5th and October 5th, at the Office of the Yokohama Specie Bank, Ltd., in London, and at its Agency, in New York.

Principal and interest payable both in London in Sterling and in New York in United States Gold Dollars at the fixed rate of exchange of $4.87 per Pound Sterling.

Parr's Bank, Ltd., the Hongkong and Shanghai Banking Corporation and the Yokohama Specie Bank, Ltd., are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above £10,000,000 Bonds. Of this amount £5,000,000 is being offered for public subscription in London by the above-mentioned Banks and £5,000,000 has been taken under the authority of the Imperial Japanese Government from the London issuing banks by Messrs. Kuhn, Loeb & Co.

The London issuing banks make the following statements in their prospectus which has been approved by Korekiyo Takahashi, Esq., Vice-Governor of the Bank of Japan, the Imperial Japanese Government's duly authorized Special Commissioner in London:

"The Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par all or any of the bonds at any time, after April 5th, 1907, on giving six months' notice. Partial redemption to be effected by drawings at the office of the Yokohama specie Bank, Ltd., London, and the New York Agency of the same bank, in the usual manner. The bonds will be secured both as to principal and interest by a first charge upon the Imperial Japanese customs receipts, and the Imperial Japanese Government will pay each month one-twelfth part of the sum required annually for the interest payable on this issue to the Hongkong and Shanghai Banking Corporation and to the Yokohama Specie Bank. Ltd., as representatives of the bondholders in Yokohama, or in London at the option of the Imperial Japanese Government. Coupons and drawn bonds of this issue will be receivable for their full face value in payment of customs duties at all the custom houses of the Empire of Japan at the fixed exchange of two shillings one-half penny per *yen*.

"The average annual yield of the custom receipts of the Empire of Japan, as shown by the financial and economical Annual of Japan, number three, issued by the Department of Finance, was £1,484,612 for the five years 1898–9 to 1902–3. The yield for the year 1902–3 was £1,740,071. Since the close of the last financial year the tariff of customs duties has been increased on certain articles."

Referring to the above, the undersigned are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above loan and hereby offer for public subscription £5,000,000 of the above bonds at the price of £93½ per cent. and accrued interest.

The subscription list will be opened at 10 A. M. on May 12, 1904, and will be closed on or before May 17, 1904. The undersigned reserve to themselves the right to close subscription list at any time without notice and to reject any subscriptions and allot smaller amounts than applied for.

All subscriptions, which should be made on the enclosed form, are to be accompanied by a deposit of $25 in New York funds per £100 Bond.

If no allotment be made, the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards the amount due on May 25, 1904. If any further balance remains, such balance will be returned. Failure to pay any instalments

at due dates, will render all previous payments liable to forfeiture.

The rate of exchange fixed by the undersigned for transmission to London and at which payment will have to be made by subscribers is $4.87 per pound Sterling. Payment for bonds allotted is to be made in New York funds as follows:——

On application, ...	$ 25,00	per £100 bond,
On May 25, 1904, ...	25,00	per £100 bond,
On June 30, 1904, ...	413,18	per £100 bond,
Total, ...	$463,18	per £100 bond,

which is the equivalent of £93⅓ per cent. and accrued interest. Temporary certificates to bearer will be delivered by the undersigned in exchange for allotment letters, duly endorsed, upon payment of final instalment. A coupon for payment of the semi-annual interest due on October 5th, 1904, will be attached to the temporary certificates.

Payment in full may be made on May 25, 1904, under discount at the rate of two per cent. per annum.

The bonds will be delivered by the undersigned in exchange for the temporary certificates as soon as practicable.

Kuhn, Loeb & Co.,
William and Pine Streets.
National City Bank,
52 Wall Street.
National Bank of Commerce in N. Y.
31 Nassau Street.

New York, May 10, 1904.

第六編　國債（二）　四〇

副總裁高橋是清氏ノ承認ヲ得テ、クーン・ロエブ商會ニ於テ本日本帝國政府ノ爲メニ發行ノ倫敦發行銀行ハ、其ノ内五百萬磅ハ前記銀行ニ於テ倫敦特派委員タルヤコブ・H・シフ氏ノ如ク記セリ

第三章　外國債

第一節　倫敦發行銀行ハ、ニューヨーク、上海銀行、香港上海銀行、横濱正金銀行ヲ以テ組織セラレタル合衆國本位貨幣ヲ以テ、合衆國ニ於ケル英貨公債ニ關シ倫敦ニ於ケル日本帝國政府ノ代理トシテ行動スルノ權ヲ有ス

第二節　倫敦發行銀行ハ、千九百四年五月四日ト、千九百十一年五月四日トノ間ニ於テ、英貨公債壹千萬磅ノ内金五百萬磅ヲ限リ、倫敦ニ於テ募集スルノ權ヲ有ス

第一回六分利付英貨公債

第二回六分利付英貨公債

公債ノ利子ハ、四月五日及十月五日ニ倫敦ニ於テ、英貨ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ

公債ハ、千九百四年三月二十九日法律第一號及同年五月十日公布勅令第百三十八號ニ依リ帝國ノ關稅收入ヲ以テ優先的ニ擔保セラルルモノトス

公債ハ、千九百七年四月五日以後六箇月前ニ豫告ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得

但シ日本帝國政府ハ、千九百十一年四月五日ト、千九百四十一年四月五日トノ間ニ於テ、英貨公債壹千萬磅ヲ募集スル目的ヲ以テ、第一回六分利付英貨公債ノ募集ニ關スル論見書ノ譯文

公債ハ、無記名利札附ノ、又ハ一部ヲ以テ全部又ハ一部ヲ償還スヘシ

公債ハ、千九百七年四月五日以後六箇月前ニ豫告ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得

公債

日本帝國政府ハ千九百七年四月五日以後ハ何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ本公債ノ全部又ハ一部ヲ額面價格ニテ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ヲ爲ス場合ハ橫濱正金銀行倫敦支店及同行紐育出張所ニ於テ慣例ニ依リ抽籤ヲ以テ行フヘシ

本公債ノ元利ハ日本帝國關稅收入ヲ以テ優先ニ保證セラル日本帝國政府ハ本公債ノ利子トシテ毎年所要額ノ十二分ノ一ヲ毎月日本帝國政府ノ便宜ニ依リ橫濱又ハ倫敦ニ於テ公債所有者ノ代表者タル香港上海銀行及橫濱正金銀行ニ支拂フ可シ

本公債ノ利札及當籤證券ハ其ノ全額面ニ對シ壹圓ニ付貳志零片二分ノ一ノ確定換算率ヲ以テ日本帝國各稅關ニ於テ關稅納付ニ受領セラルヘシ

日本帝國關稅收入年平均額ハ大藏省發行財政經濟年報第三號ニ依レハ左ノ如シ

自千八百九十八年度至千九百二年度 五箇年	一、四八四、六一二磅
千九百二年度	一、七四〇、〇七一磅

昨年度末ヨリ關稅稅率ノ增加セシモノ數種アリ

上記ノ條項ニ依リ下名等ハ日本帝國政府ヨリ本公債發行ノ權能ヲ賦與セラレタルニ付茲ニ本公債五百萬磅ヲ百磅ニ付九拾參磅半及含有利子ヲ以テ一般ニ之ヲ募集ス

應募申込簿ハ千九百四年五月十二日午前十時ニ之ヲ開キ千九百四年五月十七日又ハ其ノ以前之ヲ締切ルヘシ

下名等ハ何等ノ通知ナクシテ何時ニテモ申込簿ヲ締切リ又ハ應募ヲ拒絕シ若ハ申込金額ヨリ少キ金額ヲ割當ツルノ權利ヲ有ス

總テ應募ハ公債百磅ニ付貳拾五弗ノ保證金ヲ添ヘ別紙申込書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

割當ナキトキハ保證金全部ヲ返還スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ千九百四年五月二十五日ノ拂込金ニ之ヲ充當シ尙殘額アルトキハ之ヲ返還ス

拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ旣納ノ拂込金ハ總テ之ヲ沒收スルモノトス

下名等カ倫敦ニ交付スル爲ニ定メタル換算率ハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙トシ應募者モ亦此換算率ニ依リ拂込ヲ爲スコトヲ要ス

割當確定シタル公債ノ拂込ハ紐育ニ於テ左ノ如クナルヘシ

應募申込ノ際	百磅ニ付	二五・〇〇弗
千九百四年五月二十五日	同　上	二五・〇〇
同　年六月三十日	同　上	四一三・一八
合　計	同　上	四六三・一八

右ハ百磅ニ付九拾參磅半ト之ニ對スル利子ヲ加ヘタルモノニ相當スルモノトス

無記名假證券ハ最終拂込金拂込ノ際適當ニ裏書アル割當通知書ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ

假證券ニハ千九百四年十月五日滿期半箇年分利子ノ支拂ノ爲ニ利札壹枚ヲ附スヘシ

千九百四年五月二十五日ニ全額拂込ヲ爲ストキハ年二分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

本證券ハ出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ

「ウキリアム・エンド・バイン」街

紐育、千九百四年五月十日

目論見書發表前後より英國市場は一層好轉し、次いで陸戰の捷報續々到るに及び、歐洲列國も遂に帝國の實力を認むると共に、露國の不用意全く暴露し、戰爭は結局帝國の勝利に終るべしとの確信を抱くもの漸く多く、タイムスを初め英國の言論擧て日本軍の精銳を賞揚し、遂に露國が大敗を免れざるを豫言するに至り、歐洲の人心翕然として我に向ひ、引いて帝國公債の價格は左の如く著しく騰貴を示すに至れり。

名稱	四月三十日	五月五日	四月三十日との差	五月十日	四月三十日との差
コンソル公債	八九 1/2	八九 5/8	(+) 0 1/8	八九 3/4	(+) 0 1/4
帝國軍事公債	八二 1/4	八四 —	(+) 1 3/4	八五 —	(+) 2 3/4
同五分利公債	七八 3/4	七九 3/4	(+) 1 —	八一 1/4	(+) 2 1/2
同四分利付英貨公債	六六 3/4	六八 3/4	(+) 2 —	七〇 1/2	(+) 3 3/4
露國四分利公債	九二 1/4	九〇 1/2	(−) 1 3/4	八九 1/2	(−) 2 3/4

當時露國の敗報と共に大陸金融市場に大動搖を來し、結局倫敦市場より資金を吸收すること大なるべしと豫期せられたるにも拘らず、事實は之に反して大陸市場は意外に冷靜なる態度を持續せり。

「クーン・ロエブ」商會
「ウオール」街五十二番
「ナショナル・シチー」銀行
「ナツソー」街三十一番
紐育「ナショナル・バンク・オブ・コムマース」

蓋し大陸諸國政府は露國の戰敗を可成過少に傳へて市場の動搖を防がんとせしことは其の理由の一にして、露國有價證券の所有者が地方に散在する小資產家なるが爲め、露國の信用が社會の上層に於て失墜したるにも拘らず、依然彼の强大を信ずる因襲的觀念に支配せられたることは其の理由の二なりき。加ふるに之より先き風評に上りたる露國の新公債募集も、露國政府と佛國資本家との間に意見の相違せる點あるやにて、五月十一日我公債募集の發表に至るまで未だ其の發表を見ず、爲に此の關係より生ずべき倫敦市場への資金の需要も未だ起らざりしを以て、金融市場は我に採りて益〻有利なりき。斯かる時機に發表せられたる帝國公債が異常の好人氣を以て迎へられたるは寧ろ當然にして、發表當日高橋特派員が倫敦株式取引所に赴くや、非常の歡迎を受けたるが如きは同取引所に於ては頗る異例とする所にして、又以て市場の人氣如何を知るに足るべく、されば倫敦に於ては四月十四日の締切を卽日締切しに拘らず、申込口數三萬二十二、申込高壹億五千百九十七萬五千五百磅の巨額に達し、卽ち募集額の三十倍を超ゆるに至れり。

倫敦に於ける公債募集が斯くの如き成功を收めたる原因は上來述べたる所なるが、此の外フィナンシャル・タイムスの論ずるが如く、左記の諸事情も亦與りて力ありしは疑ふべからざる所なり。

一、新公債の發行價格甚だ低廉なるのみならず、特別なる擔保たる關稅收入は利子の三倍に當ること

二、發行額過大ならず、日本の戰勝は英國の同盟國なりとの觀念と相俟て熾なる同情を喚起したること

三、發表前市場プレミアムが旣に三磅二分の一に達したるの事實は、引受後轉賣して利益を占め

んとするものを多く生ぜしめたること

日本が英國の同盟國なるの故を以て公債發行に便を得むとは既に世評の一致せし所にして、例へば三月十二日紐育夕刊新聞は「日本の募債に就て」論じて曰く、

『日本は當紐育にて起債する能はずとせば倫敦にて募債せざるべからざるが、倫敦にて果して其目的を達するを得べきか、目下倫敦の市場は恰も我市場の如く窮境にあるなり。尤倫敦は紐育とは募債の件に對して三箇の點に於て其趣を異にせるものあり。卽ち(一)英國の一般市場は過去一世紀間外國公債への投資（剰安なるものなるときは殊に）に慣れ居るなり(二)日本公債は既に過去數年間倫敦にて同所の株式取引所の取引に上され居るなり(三)日本は英國の同盟國なり』と。

事實を冷靜に見、算勘を明に採れば、同盟國なる事情のみにては必しも堅實なる投資家の意を動かすに足らざれども、人の感情は佛國小資産家をして盛に同盟國露西亞の公債を歡迎せしめたるが如く、恐らく英國の投資家をしても同様の現象を起さしむるならんと一般に觀測せられ、又事實上然りしが如し。

次に米國に於ける應募狀況に就きては其の詳細を知るに便せずと雖も、同國に於ける引受銀行たるクーン・ロエブ商會の代表者ヤコブ・シッフは元來獨逸系の猶太人にして、其の同胞が久しく露國に於て虐待せらるるを終生の憾みとし、露國と戰ふ者には何者にも援助を吝まざるの氣慨を以て之を引受け、加之米國人の日本に對する傳統的同情が此の外債を機として發現し、評論界の所說又頗る同情に富み、中には條件の過良を指摘する者ありき。されば殆んど同時に募集せられ、時の相場に依れば利廻七分と稱せられしモルガンの合衆國鋼鐵會社の五分利社債に赴かずして、本公債に投ずる者頗る多かりしは、之を證して餘りありと云ふべし。固より倫敦の盛況に比すべからずと雖、五月十二日申込の受理を開始し、十七日の締切豫定日を繰上げて十三日締切りしに拘らず、應募額は募集額の約五倍に達し、十七日に於ては早くも市場に於て二十萬磅の取引行はれ、一ポイントのプレミアムを生じたり。兩地とも斯くの如く盛況裡に募集を了したるに依り、倫敦に於ては五月十七日、紐育に於ては同十八日に其の割當を決定せり。

第三款　收　支

本公債募集金は應募者より發行銀行に拂込み、發行銀行の倫敦代理店（橫濱正金銀行倫敦支店）へ拂込むべきものにして、紐育に於ける募集金は之を倫敦に回送せしめたり。應募者より發行銀行への拂込期日及百磅に對する拂込分額は左表の如し。

募集地	拂込期日	拂込額
倫敦	明治三十七年五月三日	五磅・〇〇志
	同　年同月十七日	一五・〇〇
	同　年六月十三日	二五・〇〇
	同　年七月十一日	二五・〇〇
	同　年八月十五日	二三・一〇
	合　計	九三・一〇
	明治三十七年五月十二日或は十三日	二五・〇〇弗

紐育	明治三十七年五月廿五日	二五・〇〇	帝
	同　年六月三十日	四一三・一八	倫
	合　計	四六三・一八	

政府は右募集金を明治三十七年五月より同年八月に至る四回に亙り發行銀行より之を受領せり。

受領期日	受領金額 英貨	邦貨換算額
明治三七、五、三一	一、六五〇、〇〇〇 鎊	一五、九一九、五九七・九九〇 円
六、二七	二、五〇〇、〇〇〇	二四、一二〇、六〇三・〇一五
七、二五	二、五〇〇、〇〇〇	二四、一二〇、六〇三・〇一五
八、二九	二、三五〇、〇〇〇	二二、六七三、三六六・八三四
合　計	九、〇〇〇、〇〇〇	八六、八三四、一七〇・八五四

（備　考）現送換算相場一圓に付き二志〇片八分の七。

右の金額は明治三十七年八月までに全部臨時軍事費特別會計歳入に納付の手續を了せり。但し八月收入額の內三十萬磅（邦貨換算額二百八十九萬四千四百七十二圓三十六錢二厘）は十月拂利子として引去り政府寄託金へ受入の手續を爲さず、之に對する分は邦貨にて納入を了したり。

右十月拂利子を控除したる收入額中五十萬磅を以て銀塊を購入し、殘餘八百二十萬磅を日本銀行に賣却し、同行は之を以て兌換券正貨準備を補塡せり。右賣却金の內七千八百萬圓は日本銀行より

明治三十七年十月に於て支拂ふべき利子	英貨	現送相場に依る換算額
銀塊購入	三〇〇、〇〇〇 鎊	二、八九四、四七二 円
日本銀行へ賣却高	五〇〇、〇〇〇	四、八二四、一二〇
合　計	八、二〇〇、〇〇〇	七九、一一五、五七八
	九、〇〇〇、〇〇〇	八六、八三四、一七〇

（備　考）日本銀行へ賣却せし實收金七千八百九十八萬圓

一時借入金返償　七千八百萬圓

軍事費に充當額　九十八萬四千七百八十六圓

次に日本銀行の借入金返償期日及金額は左表の如し。

受入月日	募集金受入高	賣却月日	賣却高	返償月日	借入金返償高
六月九日	△ 一、六五〇、〇〇〇、〇〇〇 鎊 一五、九一九、五九七・九九〇 円	六月十七日	△ 一、一五〇、〇〇〇、〇〇〇 鎊 一一、一三二、四三五・六九三 円	六月十七日	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円
同三十日	△ 二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇 二四、一二〇、六〇三・〇一五	同三十日	△ 二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇 二四、一二〇、六〇三・〇一五	同三十日	二四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
七月二十六日	△ 二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇 二四、一二〇、六〇三・〇一五	×△	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇 二四、一二〇、六〇三・〇一五	七月二十六日	二四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
八月三十一日	△ 二、〇五〇、〇〇〇、〇〇〇 一九、七九八、八四四・四七二	×△	二、〇五〇、〇〇〇、〇〇〇 一九、六八〇、〇〇〇、〇〇〇	八月三十一日	一九、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合　計	△ 八、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 三五、三四一、七八五・八九五 四三、六八〇、〇〇〇、〇〇〇	×	△ 八、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 三五、三四一、七八五・八九五 四三、六八〇、〇〇〇、〇〇〇		七六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

の一時借入金の返償に充當し、殘餘は臨時軍事費の支辨に充てたり。尙ほ詳細は次表を參照すべし。

（備　考）一、△印　英貨。
二、×印　假賣（其の後の資料缺如せるため假賣のまま掲ぐ）。

第四款　起債費

本公債起債費としては證券製造費・印紙稅・證券運送費等を掲ぐべく、證券は紐育に註文し、製造費は一枚に付三十四仙七六卽ち六十九錢七厘三毛餘に當り、印紙稅は英國發行分卽五百萬磅に對して總額面の二分の一パーセントを要したり。今主要なる起債費用を表示すれば左の如し。

費目	英米貨	邦貨換算額
證券製造費	二五、五五〇弗	五一、一五三・三〇〇円
印紙稅	二五、〇〇〇磅	二四四、〇七五・〇〇〇
證書運送費	五〇磅	四八八・一五〇
證書見本製造費	二五弗	五〇・一五〇
計	二五、五七五弗 二五、〇五〇磅	二九五、八六六・六〇〇

本表の外政府は通信費として五萬圓雜費（日本銀行へ支給すべき手數料等）として十萬圓を計上したるも、精算としては第二回六分利付、第一回四分半利付、第二回四分半利付英貨公債の分と合算して左の如く交付せり。

（一）　一二〇、〇〇〇・〇〇〇円　第一回、第二回六分利付英貨公債募集取扱費
（二）　一六、五五〇・〇〇〇　第一回、第二回四分半利付英貨公債募集慰勞金

（三）　六、九一五・五二五　明治三十七、八年度電報料
（募集取扱費は日本銀行に交付したるものにして、主として募集委員の旅費及電報料に充てられたり）。

尙ほ外國債の募集に當りては發行銀行に對して每回發行手數料を支拂ふものなるが、右は應募者の拂込金額中より直接之を控除して政府に納付するものなるを以て、歲計上支出に屬せず、從て普通起債費として計上せざるものなり（第一章第四節第四款參照）。

第五款　事務取扱

第一回六分利付英貨公債の募集成るや、政府は本公債の事務取扱に關して明治三十七年五月三十日左の如く日本銀行に令達して、同行倫敦代理店及紐育代理店をして之に當らしめたり。尙ほ該規定以外の一般的取扱事項に關しては明治三十二年三月二十九日附及同三十三年七月三日附事務取扱命任書に據るべきものとす（本命任書に就ては第一章第三節第二款參照）。

六分利付英貨公債事務取扱命任書

第一條　明治三十七年五月英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ募集シタル六分利付英貨公債ハ之ニ關スル法律、命令、目論見書及契約等ノ條項ヲ遵守シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第二條　前條公債ニ關スル事務ハ其行倫敦代理店及其行紐育代理店ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第三條　六分利付英貨公債（以下單ニ英貨公債ト稱ス）元金償還方ハ該公債據置年限經過後政府ノ都合ニ依リ償還期日ヲ豫定シ其期日ニ先タチ其償還金額ヲ其行ヘ通達スヘキニ付倫敦代理店及紐育代理店ハ償還期日ヨリ六箇月前ニ其旨ヲ其地三種以上ノ重ナル新聞紙ヲ以テ三日間

公告スヘシ

第四條　英貨公債ノ抽籤ハ償還期日ニ先タツ二箇月前ニ倫敦代理店又ハ紐育代理店ニ於テ帝國政府大藏省代表者、公證人及代理店役員立會ノ上之ヲ執行スヘシ

但英貨公債所有者ニシテ抽籤ニ臨席ヲ望ムモノアルトキハ時宜ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

前項抽籤方法手續等ハ倫敦又ハ紐育ノ慣例ニ依リ取扱フヘシ

第五條　英貨公債抽籤期日ハ倫敦代理店ニ於テ之ヲ定メ其期日ニ先タツ十五日前ニ其地三種以上ノ重ナル新聞紙ヲ以テ二日間之ヲ公告スヘシ

第六條　第四條ノ抽籤執行濟ノ上ハ當籤證書ノ金高種類、記號、番號及仕拂期日ヲ本大臣ニ報告シ且當籤證書ノ記番號ヲ元金支拂ノ期日ヨリ一ケ月前ニ於テ其地三種以上ノ重ナル新聞紙ヲ以テ二日間之ヲ公告スヘシ

第七條　英貨公債利子ハ支拂期日ニ至リ倫敦代理店及紐育代理店ニ於テ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第八條　英貨公債利子ノ支拂ハ支拂期日ヨリ十五日前ニ倫敦及紐育ニ於テ三種以上ノ重ナル新聞紙ヲ以テ二日間之ヲ公告スヘシ

第九條　英貨公債元金支拂基金ハ其支拂期ニ先タチ又利子支拂基金ハ毎月月割ヲ以テ其行ヘ交付スヘシ

前項ノ利子支拂基金ハ橫濱正金銀行及香上銀行ヘ之ヲ交付スヘキ時期ニ於テ等分ニ之ヲ交付スヘシ

第十條　前條元利支拂基金ハ倫敦ニ於ケル支拂ニ對シテハ英貨壹磅ニ付金九圓七拾六錢參厘又ハ紐育代理店ニ於ケル支拂ニ對シテハ英貨壹磅ニ付九圓七拾六錢參厘ノ換算相場ヲ以テ交付スヘシ

倫敦ニ於ケル國庫寄託金ヲ以テ紐育ニ於ケル元利支拂基金ニ振替交付スル場合ニハ英貨壹磅ニ付米貨四弗七仙ノ換算相場ヲ以テ交付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ實際爲替取組上不足ヲ生スルトキハ更ニ請求シ過剩ヲ生スルトキハ返納スヘシ

第十一條　本命任書ニ規定シタルモノノ外倫敦代理店及紐育代理店ニ於ケル六分利付英貨公債ニ關スル事務ハ明治三十三年七月三日附命任書第一章通則第二章四分利付英貨公債取扱方ノ例ニ準シ及明治三十二年三月二十九日附命任書ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

尙ほ命任書第九條以下は同年七月十五日を以て左の如く改正せられたり。

第九條　英貨公債仕拂基金ハ其仕拂期ニ先タチ其行ニ交付スヘキニ付仕拂期日ヨリ十四日前ニ倫敦及紐育ニ到著スル樣回送スヘシ

第十條　英貨公債利子仕拂基金ハ仕拂期ニ先タチ毎月利息年額ノ十二分ノ一ヲ其行ニ交付スヘキニ付其行ハ政府ノ指揮ニ從ヒ橫濱又ハ倫敦ニ於テ香上銀行及橫濱正金銀行ヘ等分ニ預入ヲ爲スヘシ但毎半季ノ第六月ノ月賦利息金ハ此限ニ在ラス

第十一條　政府ハ其ノ都合ニ依リ前條ノ規定ニ依ラス倫敦ニ於テ毎年四月六日及十月六日ニ於テ次半季分ノ利子仕拂基金ヲ其行ニ前渡スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其行ハ直チニ之ヲ倫敦株式銀行ノ隨時公告スル預金利子ヨリ二分ノ一

「パーセント」丈多キ利子歩合ヲ以テ香上銀行、バース銀行及横濱正金銀行ニ等分ニ預入レ其預入ノ利子ハ之ヲ政府ニ引渡スヘシ

第十二條　第十條ニ規定セル横濱ニ於ケル預金ハ仕拂期日前ニ倫敦及紐育ニ到達スル樣之ヲ引出シテ同塗スヘシ

第十條ニ規定セル倫敦ニ於ケル預金及前條ノ預金ハ其一半ハ倫敦ニ於ケル利子支拂ノ爲仕拂期日ヨリ十日前ニ他ノ一半ハ紐育ニ於ケル利子仕拂ノ爲仕拂期日ヨリ二十一日前ニ之ヲ引出シテ仕拂ヲ爲スヘシ

第六款　償還及支拂

（一）元　金

本公債の元金償還に就ては募集當初に於ては未だ確固たる方針の定まりたるにあらず、發行勅令に於ては第三條を以て明治四十四年四月五日に於て額面金額を以て償還すべく、但し政府の都合によりては明治四十年四月五日以後は、何時にても六箇月前の新聞廣告を以て其の全部又は一部を償還し得と規定するに止まりたり。

然るに本公債は第二回六分利付英貨公債並に第四回、第五回國庫債券と共に最も高利なるものに屬し、而も關稅擔保の如き我に不利なる條件を以て成立したるものなれば、平和に復したる日に於ては國家の面目上よりも一國財政經濟上より見るも、一日も早く之を償還せざるべからず。茲に於て政府は明治三十八年十一月四分利付英貨公債五千萬磅の募集を計畫し、內半額二千五百萬磅を發行して內國に於ける前記兩國庫債券を償還したるが、殘半額二千五百萬磅は本公債並に第二回六分利付英貨公債の據置年限經過後に募集して、之が償還財源に充てんと欲し、卽ち明治三十九年八月三十一日再び高橋是清を特派財政委員に任命して歐米に派遣し、以て外國資本家と交涉せしめたり。然れども當時市況一變し最初豫定せし四分利付を以てしては商議容易に纏る見込なかりしかば、政府は已むを得ず五分利付を以て二千三百萬磅を募集し、以て第一、第二回六分利付英貨公債二千二百萬磅を償還することとせり（本章第七節五分利付英貨公債の部參照）。

之より先本公債中額面六百磅、此の邦貨換算額五千八百五十七圓八十錢は、明治四十年二月中燒損證券に對する代り證券交付に代ふる便宜處分として、據置年限に關係なき國債證券買入銷却法に依り買入銷却したりしが、此の殘額は據置年限の滿期を俟ち、四十年三月七日大藏省告示第三十九號を以て、同年九月十日に於て元利悉皆償還すべきにより、證券所持人は支拂前、倫敦に於ては橫濱正金銀行支店へ、紐育に於ては同行出張所へ證券を提出すべき旨を公示したり。

斯くて第一回六分利付英貨公債殘額九百九十九萬九千四百磅、此の邦貨換算額九千七百六十二萬四千百四十二圓二十錢は豫定の如く悉皆償還を了したるが、此の內額面二百八十七萬七千五百磅、此の邦貨換算額二千八百九萬三千三十二圓は明治四十年四月募集の五分利付英貨公債應募金に代用拂込まれしものなり。

尙ほ前記償還額中元金の支拂未濟なるものありて、此等は逐次支拂を實行し來れるが、大正十二年度に至り漸く之を完了せり。今年々の支拂額を表示すれば左の如し（左記は第一回、第二回六分利付英貨公債を合算したるものなり）。

年度	支拂額	支拂未濟額
明治四〇	二一四、三九二、二二八・九二一円	三七九、一二六・五七九円
四一	三三七、一五五・四四三	四一、九七一・一三七
四二	二一、四七八・六〇〇	二〇、四九二・五三七
四三	三、九〇五・二〇〇	一六、六七五・二〇四
四四	九七六・三〇〇	一五、六九八・九〇四
大正四四	五、八五七・八〇〇	九、八四一・一〇四
五	九七六・三〇〇	八、八六四・八〇四
九	三、九〇五・二〇〇	四、九五九・六〇四
一二	四、九五九・六〇四	—

（備　考）明治四十二年度と同四十三年度と符合せざるは後年度に訂正せしに因る。

（二）利　子

本公債の利率は年六分にして、毎年四月五日及十月五日に各〻其の月末迄の前六箇月分を支拂ふものとす。今明治三十七年度以降本公債に對して支拂ひたる利子の年度別額を掲ぐれば左表の如し（第二回六分利付英貨公債の利子を含む）。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
明治三七	二、九二八、九〇〇・〇〇〇円	明治四〇	一〇、二八九、七八一・二一四円	明治四三	五一一・四一八円
三八	一二、八七〇、二八九・五三六	四一	一一、五二六・一九六	四四	八三・九二一
三九	一二、八六五、四二七・五六二	四二	一、三一九・二六五	大正元	三二七・八七四

大正五	一一三、二一〇	大正九	二一八、五二八	大正一二	五八、五七八

（備　考）一、明治四十一年度以降、卽ち元金全部償還後の利子支拂は其の後提出せられたる未拂利札に對して逐次支拂を實行せしものとす。

二、大正十、十一兩年度は資料燒失の爲め支拂の有無明かならず。

第三節　第二回六分利付英貨公債

第一款　起　債

明治三十七年五月六分利付英貨公債一千萬磅を募集し、同年八月を以て募集金の受領を了りたることは前節に述べたるが如し。該募集金は發行銀行より拂込みを受くるに隨ひ日本銀行に賣渡し之を以て一時借入金を返償し、以て兌換券の正貨準備に充てしめたるに依り、臨時事件費の對外支拂竝に臨時事件に伴ふ外國爲替の變動等の爲め、明治三十七年一月以降實に約九千萬圓の正貨流出を見たるにも拘らず、當時尙ほ一億一千萬圓の正貨準備を維持することを得たり。然れども之を時局の大勢に稽ふるに、事件の前途頗る遼遠なるのみならず、局面愈〻擴大すべき勢なるを以て、今後に於ける政府の外國拂は臨時經常を併せて莫大の額に達すべく豫期せざるべからず。是に於て大藏大臣は年度內更に外國債一億圓乃至二億圓を發行し、以て財政の基礎を鞏固ならしめんと欲し、早くも六月の初め內意を高橋特派委員に傳へたり。然るに高橋の報ずる所は、本年十月前に於ては好機來の見込なきを以て、暫く時期を待ち、英國市場の景氣恢復すべき十月頃を以て之を機となし、更に米國竝

に佛國市場を勸設して共通發行に依るを可とすべしと云ふに在りたり。而して之が爲には常任財政代理人の派遣を希望し、自らは一應の歸朝を願ひしも、政府は之を容れず、尙ほ倫敦に留まりて資本家と折衝すべきを命じたり。此の際政府の希望したる所は既發行五分利公債の裏書賣出にありたり。蓋し裏書賣出の法に依れば、新規發行に於けるが如く新に償還年限・利子割合・抵當等に關する條件折衝の要なく、又內地の公債を外國に移動するのみにして、新に國債を增加するものにあらずと稱するの便あればなり。然るに高橋は之を却け、裏書賣出に於ては戰時相場不安定の際なれば發行價格決定に至大の困難あること、五分利公債は紐育市場の公定相場表に揭上せられ居らざるを以て、第二流證券の列を脫し得ざること、裏書賣出は換算上端數を生ずる不便あること、裏書賣出と雖も外國人にとりては新に國債を增加すると異ならざる觀念を與ふること等の理由に依り、寧ろ新規に無抵當五分利付英貨公債を發行するに若かずと提議せり。

此の間屢〻政府と高橋との間に應答ありしも結局政府も之に贊し、九月に入りて發行條件として總額一億圓（後二億圓に增加）、無抵當五分利付、政府手取九十以上、五十箇年以內償還等の條件を以て商議を續けしむることとなせり。當時戰局は我に有利にして、外國市場も亦正に金融緩慢の季節に入り、時機漸く熟したれども、公衆は今や日本の勝利を過大に見込居りしため、旅順港陷落の意外に遷延し、露國軍の遼陽より無難退却したる等を觀て失望相踵ぎ、平和到來期の頗る遲延すべきを思案する等の事情に因り、我公債市價は新公債募集の風評、大陸筋の賣崩等と相俟つて漸次下落の趨勢を示すに至れり。斯くの如き周圍の情勢は前回發行の場合よりも有利なりと稱するを得ず、政府の希望條件は到底實現に難く、依然抵當付六分利の外なかるべき旨、九月二十日高橋より入電ありたり。

政府は容易に前記の希望條件を棄てざりしかども、事情如何とも爲し難きに由り、遂に特派委員の提案を容れ、十月一日正式に同人に命じて交涉を開始せしめ、尋で同月五日大藏大臣は內外債募集に關する閣議を求めて之が決定を得、同月十四日高橋是清に改めて英貨公債二千萬磅以內を募集するの權限を委任し、別に同月六日駐英國公使林董に訓令して之を援助せしめたり。

斯くて高橋と英國資本家との間に折衝進行し、同年十月十九日に至り兩者の意見略〻一致するを得たりしかば、高橋は三日間の猶豫を求めて直ちに之を本國政府に電報せり。其の條件の大要次の如し。

一、發行總額を一千二百萬磅とし、英米各半額宛募集す。
一、利率は一箇年六分とす。
一、償還期限は七箇年とす。但し千九百七年四月五日以後は六箇月前の豫告を以て何時にても償還することを得。
一、發行價格は百に付九十一とす。
一、政府手取金は百に付八十七半とす。
一、海關稅を第二擔保とし、第一回六分利付英貨公債償還後は之を第一擔保とす。

右の條件は政府當初の希望とは大いに懸隔あれども、政府も事情動かし難きを認め、同月二十五日右の條件に承諾を與へたり。

當時に於ける英國金融市場の情況を觀察するに、十月上旬迄數年來例を見ざる閑散を呈せしに拘らず、中旬に至り內外資金の需要增加し漸く繁忙の傾向を示したり。下旬に入りて倫敦市債の募集

あり、加ふるに英蘭銀行の庫中に閉塞せらるべき租稅の徵收あるに及び、繁忙の兆は愈〻事實となりて現はれたるが、時に會〻北海に於ける露國艦隊の暴行事件ありて英露間外交上の風雲急を告げ、市場は嚴に警戒を要するに至り、此の形勢は十一月上旬々々初迄繼續したり。此の間に於ける倫敦市場の帝國公債市價の變遷を見るに、十月上旬に於ては前月末に比して二磅方の低落を示せしが、右は本旬に於ける金利騰貴の影響にも因ると雖も、就中主として十月五日全國手形交換所聯合懇親會席上に於ける大隈伯爵の演說が投機者の恐慌疑惑を買ひたるに因るものと云ふべし。大隈伯爵の演說は戰爭は二年位繼續すべしと爲し、戰時に於ける日露兩國の財政を比較し、將來我國が四億乃至五億圓の國債を募集するの要あり、其の內一億五千萬乃至二億圓は外國に於て募集すべしと稱して、樂觀に傾く一般國民、公債募集に關係多き銀行業者竝びに政府當局を鼓舞激勵したるものにして、必ずしも悲觀的材料にあらざりしも、新外債發行の風評と相俟つて已に氣運の向へるを察知したる投機者は之に依りて大に動搖を感じたるものなり。

中旬に至りては株式市況一般に好轉し、帝國公債も旬初露國軍の南進の報に因りて一時低落を見たるのみにて、其の後沙河の捷報相次で到るに及び日々騰貴を示せり。然るに旬末に入りては露軍大捷の風說頻りに流布せられたる爲め再び低落を來し、下旬に至りても、金融繁忙、北海事件に基く一般市場の萎靡のため帝國公債の市價又恢復すること能はざりき。今十月初頭より十一月十二日、第二回六分利付英貨公債應募申込の前々日に至る間の倫敦市場に於ける帝國諸公債竝に英國整理公債の市價を表示すれば左の如し（締切最高相場）。

月　日	四分利付英貨公債	新裏書付五分利公債	六分利付英貨公債	英國整理公債
十月一日	七三・½	八五・½	九七・¼	八八・9/16
〃　八日	七二・—	八四・—	九五・¼	八八・½
〃　十五日	七四・½	八五・—	九五・½	八八・¼
〃　二十二日	七三・½	八四・½	九五・—	八八・⅝
〃　二十九日	七四・¾	八五・¼	九四・¾	八八・3/16
十一月五日	七四・¾	八五・¼	九五・—	八八・⅝
〃　十二日	七五・—	八五・¼	九五・½	八八・½

斯くの如く本公債募集發表前に於ける金融市況振はず、我公債市價も亦十一月初頭僅に騰貴の兆を見たるのみにて、概して漸落の傾向を示し、五月募集の六分利付英貨公債市價も、倫敦に於ては最高價格九十五磅餘、最低價格は將に其の發行價格を割らんとするの有樣にして、紐育に於ては其の市況こそ幾分好景氣を呈したれども、我公債市價は倫敦に比して常に二磅內外の開きあり、其の最低價格は疾くに發行價格以下に降れり。されば利に敏き金融家は我國よりも寧ろ露國の財力を信じ、ウヲール街の風說は頗る我に好からざりき。市況斯くの如き際なれば市價よりも常に一二磅高を以て發行して、以てプレミアムを利せんとする發行者が、曩に發行價格を九十一とせしは亦已むを得ざる所なりしが、彼等は今や更に市場の情況變動を名として、前記の條件を撤回して、發行價格九十、政府手取を八十六半とし、若し市場の形勢により九十以上にて發行するを得ば、其の超過額を政府の手取に加へんことを提議せり。此の條件は政府の初志とは愈〻懸絕する所となりしと雖も、北海事件に基く英露交涉の結果も豫想し難く、荏苒經過するに於ては是非とも年內に發行せんとする政府の希望

を實現し難き惧れもありたれば、高橋は右の條件を已むを得ざるに出でたるものと認め、而して前記九十以上發行の場合云々の條件の空文に終らむことを避くる爲め、右超過額を政府と發行者間に折半するの案を提出して之を承認せしめたり。斯くて十一月八日朝に至り漸く發行價格を九十磅半に上すことを得たりしを以て、同日夕刻契約書の調印を了し、追て契約補則を以て利子支拂の件を、追契約書を以て擔保條件を規定せり。

斯くの如く十一月八日を以て本公債發行の契約は成立したれども、明治三十七年法律第一號第二條に依る公債發行の制限額二億八千萬圓は、內國に於ける國庫債券、外國に於ける六分利付英貨公債として屢次發行せられて既に滿限となりたるを以て、今本公債を募集するに當りては別に緊急勅令發布の要あり。仍て大藏大臣は右に關する緊急勅令案を具して閣議に提出し、其の決定を得て十一月十日勅令第二百二十八號を以て、政府は臨時事件費支辨の爲公債一億二千萬圓を募集することを得る旨を公布し、且つ同日勅令第二百二十九號を以て左の如く發行規定を公布したり。

勅令第二百二十九號（明治三十七年十一月十日）

第一條　明治三十七年勅令第二百二十八號ニ依リ英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ英貨公債千二百萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ六トス

第三條　本公債ノ元金ハ明治四十四年十月五日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十年四月五日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ横濱正金銀行倫敦支店及横濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條　本公債ノ利子ハ毎年四月五日及十月五日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條　本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ百磅及二百磅ノ二種トス

英貨ト米貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙トス

第六條　本公債ノ滿期利札及償還當籤證券ハ二志零片半ヲ一圓ノ割合ニテ關稅收納ノ爲差支ナク受取ラルヘシ

第七條　本公債元利金ノ償還ハ關稅收入ヲ以テ擔保ス但シ其ノ順位ハ明治三十七年五月發行六分利付英貨公債ノ次トス

明治三十七年五月發行六分利付英貨公債償還ノ後ハ本公債ハ關稅收入ヲ以テ優先ニ擔保セラルヘシ

第八條　本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅十志トス

第九條　本公債ノ元金ハ明治三十七年十一月ヨリ明治三十八年二月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十八年四月五日ニ於テ前半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第一一款　募集

本公債一千二百萬磅は前回と同じく倫敦及紐育に於て各半額づつ募集せらるることとなり兩地とも十一月十四日に目論見書を發表し卽日より應募申込を受理せり。兩地に於ける募集目論見書及其の全譯文左の如し。

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6 % STERLING LOAN OF NOVEMBER 1904 IN LONDON.

(SECOND SERIES.)

The list of applications will be closed on or before 17th November, 1904.

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6 % STERLING LOAN

(SECOND SERIES.)

FOR £ 12,000,000

Which is now offered for Subscription in London and New York.

Created under the Authority of Imperial Ordinances, Nos. 228 and 229, of His Majesty the Emperor, both promulgated 10th November, 1904.

Secured by Charge on the Customs Receipts of the Empire as stated below.

SUBSCRIPTION PRICE 90¾ PER CENT.

Repayable at par 5th October, 1911, with option to the Imperial Japanese Government to redeem at any time after the 5th April, 1907, on giving six month's notice.

In Bonds to Bearer of £ 100 and £ 200, with half-yearly coupons attached payable 5th April and 5th October, in London in Sterling, and in New York in United States Gold Dollars at the fixed rate of exchange of $ 4.87 per Pound Sterling.

Under the authority of the Imperial Japanese Government one half of this Loan, viz.: £ 6,000,000 has been taken from the London issuing Banks by Messrs. Kuhn, Loeb & Co., and will be issued in New York by them and by the National City Bank, and the National Bank of Commerce, on the terms of this Prospectus.

Coupons and Bonds payable in London at the office of The Yokohama Specie Bank, Limited, 120 Bishopsgate Street Within, E. C., and in New York at the Agency of The Yokohama Specie Bank, Limited, 63/65 Wall Street.

A coupon payable 5th April, 1905, for interest on instalments, will be attached to the Scrip.

Parr's Bank Limited, The Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and The Yokohama Specie Bank, Limited, are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above Loan and are prepared to receive subscriptions for £ 6,000,000 Sterling, payable as follows:—

£ 5	0s.	per cent. on Application.
£ 20	0s.	per cent. on Allotment.
£ 25	0s.	per cent. on 19th December, 1904.
£ 25	0s.	per cent. on 19th January, 1905, and
£ 15	10s.	per cent. on 16th February, 1905.
£ 90	10s.	

Payment in full may be made on allotment under discount at the rate of two-and-one-half per cent.

per annum.

This Loan is repayable at par on 5th October, 1911, but the Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par, all or any of the Bonds at any time after the 5th Apil, 1907, on giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings at the office of The Yokohama Specie Bank, Limited, London, and the New York Agency of the same Bank, in the usual manner.

The Bonds will be secured both as to Principal and Interest by a Charge (limited to the £12,000,000 and the interest thereon) upon the Imperial Japanese Customs Receipts, and subject only to the charge in favour of the existing loan of £10,000,000 sterling. The Imperial Japanese Government will pay each month one-twelfth part of the sum required annually for the interest payable on this issue to The Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and to the Yokohama Specie Bank, Limited, as representatives of the bondholders, in Yokohama or in London at the option of the Imperial Japanese Government.

Coupons and drawn Bonds of this issue will be receivable for their full face value in payment of Customs duties at all the Custom Houses of the Empire of Japan at the fixed exchange of 2/0½ per *yen*.

The average annual yield of the Customs Receipts of the Empire of Japan, as officially stated--

For the 5 years 1899-1900 to 1903-4 was *yen* 15,891,458=£1,622,253.

The yield for the year 1903-4 was *yen* 17,378,302=£1,774,035.

(The exchange is taken @ 2s. 0½d. per *yen*.)

A revised and increased tariff came into operation on 1st ultimo, and this, it is expected, will largely augment these receipts.

Scrip Certificates to bearer will be delivered by the issuing Banks as soon as possible in exchange for the Allotment Letters, accompanied by the Bankers' receipts.

A Coupon for payment of the interest on instalment at the rate of 6 per cent. per annum from their respective dates of payment to the 5th April, 1905, will be attached to the Scrip.

The Bonds will be delivered by the issuing Banks in exchange for the Scrip Certificates as soon as practicable after payment of the last instalment.

Application must be made on the enclosed form accompanied by the deposit of £5 per cent.

If no allotment be made the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards payment of the amount due on allotment.

Failure to pay any of the instalments at due dates will render all previous payments liable to forfeiture.

A Certified translation of the Imperial Ordinances, creating and authorizing the issue of the above Bonds, may be seen at the Offices of any of the issuing Banks and at the Offices of Messrs. Alfred Bright and Son, Solicitors, 15, George Street, Mansion House, London, E. C., and of Messrs. Stephenson, Harwood & Co., Solicitors, 31, Lombard Street, E. C.

A London Stock Exchange settlement and quotation will be applied for in due course.

Prospectuses and forms of application may be obtained from the issuing Banks, viz.: Parr's Bank Limited, 4 Bartholomew Lane, London, E. C. and Branches; The Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 31 Lombard Street, London, E. C.; The Yokohama Specie Bank, Limited, 120 Bishopsgate Street Within, London, E. C.; and from Messrs. Panmure Gordon & Co., Hatton Court, Threadneedle Street, London E. C.

14th November, 1904.

第二回六分利付英貨公債倫敦募集目論見書譯文

第三章　外國債　第三節　第二回六分利付英貨公債　九七

應募申込簿ハ千九百四年十一月十七日以前ニ締切ルヘシ

壹千貳百萬磅ノ日本帝國政府第二回六分利付英貨公債

右公債ハ今回倫敦及紐育ニ於テ之ヲ募集ス

本公債ハ千九百四年公布勅令第二百二十八號及第二百二十九號ニ準據シテ起債シ帝國ノ關稅收入ヲ以テ擔保セラル

應募價格ハ九十½「パーセント」

本公債ハ千九百十一年十月五日之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百七年四月五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得

證券ハ無記名式ニシテ百磅及二百磅ノ二種トシ倫敦ニ於テハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙ノ確定換算率ニ依リ北米合衆國本位貨幣ヲ以テ毎年四月五日及十月五日支拂ノ利札ヲ附ス

本公債ノ一半卽チ六百萬磅ハ日本帝國政府ノ承認ニ依リ「クーン・ロエブ」商會ニ於テ倫敦發行銀行ヨリ之ヲ引受ケタルニ付同商會及「ナシヨナル・シチー」銀行「ナシヨナル・バンク・オヴ・コムマース」ハ本目論見書ノ條項ニ據リ紐育ニ於テ之ヲ發行ス

元利金ハ倫敦ニ於テハ「ピシ、ヨツプスゲート・ストリート・ウヰジン」百二十番橫濱正金銀行支店、紐育ニ於テハ「ウオール」街橫濱正金銀行出張所ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

拂込金ノ利子ニ對シ千九百五年四月五日拂利札ヲ假證券ニ附ス

「パース」銀行、香上銀行及橫濱正金銀行ハ日本帝國政府ヨリ本公債ノ發行ヲ承認セラレタルニ付

英貨六百萬磅ヲ募集ス

其ノ拂込ハ左ノ如シ

應募申込ノ際		百磅ニ付　五　磅
公債割當ノ際	同　上	貳拾磅
千九百四年十二月十九日	同　上	貳拾五磅
千九百五年一月十九日	同　上	貳拾五磅
同　年二月十六日	同　上	拾五磅拾志
合　計	同　上	九拾磅拾志

公債割當ノ際全額拂込ヲ爲ストキハ年二分五厘ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

本公債ハ千九百十一年十月五日額面金額ヲ以テ之ヲ償還スヘシ但シ日本帝國政府ハ千九百七年四月五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ額面金額ニテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ノ場合ニ於テハ橫濱正金銀行倫敦支店及同行紐育出張所ニ於テ普通ノ方法ニ依リ抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

本公債ノ元利金ハ壹千貳百萬磅及其利子ヲ限度トシ壹千萬磅ノ現存公債ニ次テ日本帝國ノ關稅收入ヲ以テ擔保セラル日本帝國政府ハ本公債ノ利子トシテ毎年所要額ノ十二分ノ一ヲ毎月日本帝國政府ノ便宜ニ依リ橫濱又ハ倫敦ニ於テ公債所有者ノ代表者タル香上銀行及橫濱正金銀行ニ支拂フヘシ

本公債ノ利札及當籤證券ハ關稅ノ納付トシテ其ノ全額面ニ對シ壹圓ニ付貳志零片二分ノ一ノ

確定換算率ヲ以テ日本帝國各稅關ニ於テ領收セラルヘシ

政府ノ報告ニ依レハ日本帝國ノ關稅收入平均年額ハ左ノ如シ

自千八百九十九年度至千九百三年度五箇年　一五、八九一、四五八圓　卽チ一、六二二、二五三磅

千九百三年度　一七、三七八、三〇二圓　卽チ一、七七四、〇三五磅

換算率ハ壹圓ニ付貳志零片二分ノ一トス

改正關稅增率ハ前月一日ヨリ實施セラレタルヲ以テ之カ爲大ニ其收入ヲ增加スヘキ見込アリ」

無記名式假證券ハ發行銀行ニ於テ銀行ノ受領書竝ニ割當通知書ト引換ニ出來得ル限リ速ニ之ヲ交付スヘシ

假證券ニハ各拂込期日ヨリ千九百五年四月五日迄六分ノ利率ヲ以テ拂込金ニ對スル利子ヲ支拂フヘキ利札一枚ヲ附ス

本證券ハ最終拂込金拂込後出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ發行銀行ニ於テ之ヲ交付スヘシ」

應募申込ハ百磅ニ付五磅ノ保證金ヲ添ヘ別紙書式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

割當ナキトキハ保證金全部ヲ返還スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ割當ノ際ノ拂込金ニ之ヲ充當スヘシ

拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ既納ノ拂込金ハ總テ沒收セラルルモノトス

本公債ヲ承認シ且確約スル勅令ノ證明譯文ハ各發行銀行及倫敦「マンシヨン・ハウス・ジヨージ」街十五番狀師「アルフレッド・ブライト」商會、倫敦「ロムバート」街三十一番同「ステフエン・ハーウツド」商會ニ於テ閱覽スルコトヲ得

倫敦株式取引所ニ於ケル受渡及公定相場ニ登載ノ件ハ適當ナル時機ニ於テ之ヲ請求スヘシ

目論見書及申込書式入用ノ向ハ發行銀行卽チ倫敦「バーソロミユー・レーン」四番「バース」銀行及其ノ支店、同「ロムバード」街三十一番香上銀行、同「ビショップスゲート・ストリート・ウキジン」百二十番橫濱正金銀行及同「スレッドニードル」街「ハットン・コート」「バンミユーア・ゴルドン」商會ヨリ受取ラルヘシ

千九百四年十一月十四日

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6 % STERLING LOAN OF NOVEMBER 1904 IN NEW YORK.
(SECOND SERIES.)

£12,000,000

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 6 % STERLING LOAN.
SECOND SERIES, DUE OCTOBER 5, 1911.

With option to the Imperial Japanese Government to redeem all or any part after April 5, 1907, upon giving six months' notice.

Secured by a charge on the Customs Receipts of the Empire, as stated below.

Created under the authority of Imperial Ordinances Nos. 228 and 229 of His Majesty the Emperor, promulgated November 10, 1904.

Coupon Bearer Bonds in the Denomination of £100 and £200.

Semi-Annual interest payable April 5th and October 5th at the Office of the Yokohama Specie Bank, Limited, in London, and at its Agency in New York.

Principal and interest payable both in London in sterling and in New York in United States Gold Dollars at the fixed rate of exchange $4.87 per Pound Sterling.

Parr's Bank, Limited, the Hongkong and Shanghai Banking Corporation and the Yokohama Specie Bank, Limited, are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above £12,000,000 bonds. Of this amount £6,000,000 is being offered for public subscription in London by the above mentioned banks and £6,000,000 has been taken under the authority of the Imperial Japanese Government from the London issuing banks by Messrs. Kuhn, Loeb & Co.

The London issuing banks make the following statements to their prospectus which has been approved by Korekiyo Takahashi Esq., Vice-Governor of the Bank of Japan, the Imperial Japanese Government's duly authorized Special Commissioner in London:

"This loan is repayable at par, October 5, 1911, but the Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par all or any of the bonds at any time, after April 5th, 1907, on giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, London, and the New York Agency of the same bank, in the usual manner. The bonds will be secured both as to principal and interest by a charge, limited to the £12,000,000 and the interest thereon, upon the Japanese Government's customs receipts, subject only to the charge in favour of the existing loan of £10,000,000 sterling. The Imperial Japanese Government will pay each month one-twelfth part of the sum required annually for the interest payable on this issue to the Hongkong and Shanghai Banking Corporation and to the Yokohama Specie Bank, Limited, as representatives of the bondholders, in Yokohama or in London at the option of the Imperial Japanese Government. Coupons

and drawn bonds of this issue will be receivable for their full face value in payment of customs duties at all the custom houses of the Empire of Japan at the fixed exchange of two shilling one-half penny per *yen*.

"The average annual yield of the customs receipts of the Empire of Japan, as officially stated, for the five years 1899–1900 to 1903–4 was 15,891,458 *yen*=£1,622,253. The yield for the year 1903–4 was 17,378,302 *yen*=£1,774,035; the exchange is taken at two shillings one-half penny per *yen*. A revised and increased tariff came into operation on the first of October, 1904, and this, it is expected, will largely augment these receipts."

Referring to the above, the undersigned are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above loan and hereby offer for Public subscription £6,000,000 of the above bonds at the price of 88 per cent. and accrued interest, New York Stock Exchange usage, which is the approximate parity of the London issue price.

The subscription list will be opened at 10 A. M. on November 14, 1904, and will be closed on or before November 22, 1904. The undersigned reserve to themselves the right to close the subscription list at any time without notice and to reject any subscriptions and allot smaller amounts than applied for.

All subscriptions which should be made on the enclosed form, are to be accompanied by a deposit of $25 in New York funds per £100 bond.

If no allotment be made, the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards the amount due on December 5, 1904. If any further balance remains, such balance will be returned. Failure to pay any instalment at due dates, will render all previous payments liable to forfeiture.

The rate of exchange fixed by the Imperial Japanese Government at which principal and interest of the bonds are payable in New York is $4.87 per pound sterling, at which rate the New York issue price

of 88 per cent. and accrued interest, figuring $5 per pound sterling according to the usage of the New York Stock Exchange, is the approximate equivalent of the London issue price of £90½ per cent. Payment for bonds allotted is to be made in New York funds as follows:——

On application,	$ 25.00 per £100	bond,
On December 5, 1904,	25.00 per 100	bond,
On January, 5, 1905,	397.31 per 100	bond,
Total	$447.31 per 100	bond.

Temporary certificates to bearer will be delivered by the undersigned in e change for allotment letters duly endorsed, upon payment of final instalment. A coupon for payment of the semi-annual interest due on April 5, 1905, will be attached to temporary certificates.

Payment in full may be made on December 5, 1904 under discount at the rate of two per cent. per annum.

The bonds will be delivered by the undersigned in exchange for the temporary certificates as soon as practicable.

Subscriptions will also be received by the Nevade National Bank of San Francisco, San Francisco, Cal.

Kuhn, Loeb & Co.,
William and Pine Streets.
National City Bank,
52 Wall Street.
National Bank of Commerce in N. Y.
31 Nassau Street.

New York, November 14, 1904.

第二回六分利付英貨公債紐育募集目論見書譯文

第三章　外國債
第三節　第二回六分利付英貨公債
一〇五

副總裁高橋是清氏ノ承認ヲ經タル日本帝國政府ノ額面金額ニテ倫敦特派委員左ノ如キ記載ヲモノトス

倫敦發行銀行ハ日本帝國政府ノ在倫敦代理人タリ

本公債ハ千九百十一年十月五日ヲ以テ倫敦ニ於テ發行セラルヘキ額面金額壹千磅ヲ單位トシ之ニ對スル利札ヲ附シ日本帝國政府ハ其ノ任意ニ於テ本公債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得ル權利ヲ有ス

本公債ハ千九百十一年十月五日ヨリ六箇月毎ニ其ノ日ニ於テ壹千磅ニ付四弗八拾七仙ノ割合ヲ以テ倫敦ニ於テ又ハ千九百四年十一月五日ヨリ六箇月毎ニ其ノ日ニ於テ壹千磅ニ付四弗八拾七仙ノ割合ヲ以テ紐育ニ於テ日本帝國政府ノ爲メニ倫敦發行銀行ヨリ支拂フヘキ利金ハ倫敦ニ於テハ英貨壹千磅ニ付四弗八拾七仙ノ割合ヲ以テ又紐育ニ於テハ金貨ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ

本公債ハ千九百四年十月五日ヨリ起算シ二十五箇年ヲ經過シタル後ハ日本帝國政府ニ於テ何時ニテモ額面金額ニ對シ百分ニ付英貨壹千弗ノ割合ヲ以テ倫敦又ハ紐育ニ於テ償還スルコトヲ得

九百七年四月五日以後ハ何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ本公債ノ全部又ハ一部ヲ額面金額ニテ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ニ依リテ行フモノトス本公債元利金ハ壹千貳百萬磅及其ノ利子ヲ限度トシ壹千萬磅ノ現存公債ニ次テ日本帝國ノ關稅收入ヲ以テ擔保セラル日本帝國ノ關稅收入ヲ以テ擔保セラル日本帝國政府ハ本公債ノ利子トシテ每年所要額ノ十二分ノ一ヲ每月日本帝國政府ノ便宜ニ依リ橫濱又ハ倫敦ニ於テ公債所有者ノ代表者タル香上銀行及橫濱正金銀行ニ支拂フヘシ本公債ノ利札及當簽證券ハ關稅ノ納付トシテ其ノ全額面ニ對シ壹圓ニ付貳志零片半ノ確定換算率ヲ以テ日本帝國各稅關ニ於テ領收セラルヘシ

政府ノ報告ニ依レハ千八百九十九年――千九百年度乃至千九百三年――千九百四年度ノ五箇年間ノ日本帝國關稅收入平均額ハ千五百八拾九萬千四百五拾八圓卽チ百六拾貳萬貳千貳百五拾參磅ニシテ千九百三年――千九百五年度ノ收入ハ千七百參拾七萬八千參百貳圓卽チ百七拾七萬四千參拾五磅ナリ此換算ハ壹圓ニ付貳志零片二分ノ一ノ割合トス改正關稅增率ハ千九百四年十月一日ヨリ實施セラレシヲ以テ之カ爲メ大ニ其ノ收入ヲ增加スヘキ見込アリ

上記ノ條項ニ依リ下名等ハ日本帝國政府ヨリ本公債ノ發行ヲ承認セラレタルニ付玆ニ紐育株式取引所ノ慣例ニ依リ八十八「パーセント」ト之ニ對スル利子ヲ加ヘタルモノ卽チ略ゞ倫敦發行價格ニ相當スル價格ヲ以テ廣ク右公債六百萬磅ヲ募集ス

應募申込簿ハ千九百四年十一月四日午前十時ニ之ヲ開キ千九百四年十一月二十二日若ハ其ノ以前ニ締切ルヘシ下名等ハ何等ノ通知ナクシテ何時ニテモ申込簿ヲ締切リ又ハ應募ヲ拒絕シ及申込額ヨリモ少額ヲ割當ツルノ權利ヲ有ス

應募申込ハ百磅券ニ付貳拾五弗ノ保證金ヲ添ヘ紐育ニ於テ現金ヲ以テ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

割當ナキトキハ保證金全額ヲ返還ス而シテ若シ申込金額ノ一部分ノミ割當ラレタルトキハ保證金ノ殘額ハ千九百四年十二月五日ノ拂込額ニ充當シ尙殘額アルトキハ之ヲ返還スヘシ

分割拂込期日ニ拂込ヲ怠ルトキハ既納ノ拂込金ハ總テ之ヲ沒收スルモノトス

日本帝國政府ニ依リ定メラレタル紐育ニ於ケル公債元利支拂金ノ換算率ハ壹磅ニ付四弗八拾七仙トス而シテ紐育發行價格八十八「パーセント」ト之ニ對スル利子ヲ加ヘ紐育株式取引所ノ慣例ニ從ヒ壹磅ニ付五弗ノ割合ヲ以テ計算シタルモノハ倫敦ニ於ケル發行價格卽チ九拾磅半ト略ゞ同一ナルモノトス

割當確定シタル公債ハ紐育ニアリテハ左ノ如ク拂込ムヘシ

應募申込ノ際	百磅ニ付	貳拾五弗
千九百四年十二月五日	同　上	貳拾五弗
千九百五年一月五日	同　上	參百九拾七弗參拾壹仙
合　計	同　上	四百四拾七弗參拾壹仙

無記名假證券ハ最終割拂金拂込ノ際適法ニ裏書セラレタル割當通知書ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ假證券ニハ千九百五年四月五日滿期半箇年分利子支拂ノ爲ニ利札一枚ヲ附スヘシ

千九百四年十二月五日ニ於テ全額拂込ヲ爲ストキハ年二分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ
本證券ハ出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ下名等ヨリ交付セラルヘシ
應募申込ハ「カリフオニア」州「サンフランシスコ」ニ於テモ受理セラルヘシ

「ウキリアム・エンドバイン」街
「クーン・ロエブ」商會
「ウオール」街五十二番
「ナショナル・シチー」銀行
「ナッソー」街三十一番
紐育「ナショナル・バンク・オヴ・コムマース」

紐育、千九百四年十一月十四日

先に述べたるが如く、倫敦の金融市場は本公債發表前に於ては頗る不利を稱せられしが、發表直前なる十一月初旬々末には稍〻鎭靜を呈せり。蓋し金融市況の繁忙なりしに拘らず資金需要の對策略〻成り、一時市場を壓迫したる北海事件も平和解決の見込立ち、中旬に入りては豫期せられたる英蘭銀行の利子引上も行はれず、加之株式取引所の勘定最終日なる十一日も平穩に經過し、他方久しく市場動搖の原因をなせし佛國筋の手形賣放も一時中絶して、巴里及伯林向の爲替相場も順調に復し、正貨の需要もなかりしを以て、市況は更に鎭靜を持續せり。されば曩には漸落の步調をとりし帝國公債の市價も十一月初旬末には幾分見直し、前回の六分利付英貨公債は發表直前の十二日には九十五磅

二分の一、十四日には九十五磅四分の三を示したり。

紐育市場に於ては十一月は例年金融緊縮の時期にして、秋收資金の各地方に向つて放出せらるること高頗る多く、爲めに銀行の手許保有金は減少し、金利は之に伴うて上騰するを常としたるが、本年は之に反して金融頗る平穩を呈し、銀行は例年になき豐富なる手許金を有したり。斯くの如き市況に於て募集せられたる本公債は、其の他の好條件と相俟つて前回に劣らざる好人氣を以て迎へられ、倫敦に於ては十一月十四日應募受付を開始し、翌十五日正午に之を締切りたるに、申込口數二萬九千九百三十八口、申込額八千五十三萬三千八百磅にして、需要額の十三倍以上に達したり。又紐育に於ては倫敦と同じく十一月十四日に受付を開始し、當日より多數の申込ありたるも、小口申込者竝に地方應募者の便宜を圖りて、同月十八日を以て之を締切りたるに、之れ亦需要額の約四倍に達するの應募を得たり。

前回の六分利付英貨公債發行後僅かに半年を經過せる今日、斯くの如き成功を以て募集を了したるは、上述の如く會〻金融市場の好轉が幸ひしたること最も大なりしと云ふべしと雖も、市場の惡空氣を前提として最下限の讓步を以て發行條件を成立せしめたること、其の要因なりと云ふべし。而して評論界の一致せし見解は、(一)我政府當局の財政經濟事情は毫も戰爭の爲に阻害せらるる所なく、卽ち帝國の對外信用の聊も衰へざりしこと(二)第二次の擔保たりと雖も關稅收入は千六百萬圓に上り、第一回第二回六分利付英貨公債の利子千三百萬圓の擔保としては完全に其の能力を發揮し得ること(三)發行價格に依る利廻は年六分六厘なれども額面償還に依りて生ずべき差額の年割額は約一分二厘五毛にして、之を加算する時は約八分に近き

好利率なりしこと等を指摘するに在りたり。

されば目論見書發表前已に取引所に於ては一分半前後の增打を唱へられ、申込の割當後はプレミアムを利する轉賣盛んに行はれたれども、分配に漏れたる者の買人氣亦强かりしを以て、相場は堅固に維持せられたり。今發表直後の倫敦相場を示せば左の如し。

月　日	增打	月　日	增打
十一月十五日	一・3/8	十一月 廿三日	一・1/4
同　十六日	一・1/4	同　廿四日	一・1/8
同　廿一日	一・3/8	同　廿八日	一・1/4

前回の六分利公債は新公債發表に際し多少の低落を見たるが、新公債の好景氣と共に十九日には發表前の價格に復し、其の後殆んど動搖を見ざりき。今發表直後に於ける帝國諸公債及び英國整理公債の相場を掲ぐれば左の如し（締切最高相場）。

月　日	四分利付英貨公債	裏書付新五分利公債	六分利付英貨公債	英國整理公債
十一月十四日	七四・1/2	八五・一	九五・1/4	八八・5/16
十五日	七四・一	八四・1/4	九五・1/4	八八・5/8
十六日	七三・5/8	八四・1/4	九五・一	八八・1/4
十七日	七四・一	八四・1/4	九五・1/4	八八・1/8
十八日	七四・一	八四・1/4	九五・一	八八・5/16
十九日	七五・一	八四・1/4	九五・1/4	八八・1/4

尙ほ第二回英貨公債募集のこと大要終了したりしを以て、政府は高橋特派員の歸朝を聽し、公債に關する事務は總て之を在倫敦帝國總領事荒川巳次に取扱はしむることとしたり。

第三款　收　支

本公債拂込金の取扱方（元利金の支拂に就ても亦同じ）に就ては明治三十七年十一月十九日、大藏大臣より日本銀行に對して、前回の六分利付英貨公債の取扱方に準據すべき旨令達したり。而して契約書及目論見書に定むる應募者の拂込期日及び百磅に對する拂込分額は左表の如し。

募集地	拂込期日	拂込額
倫敦	申込の際	五・〇〇磅志
	割當の際 明治三十七年十二月十九日	二〇・〇〇
	同　三十八年一月十九日	二五・〇〇
	同　年二月十六日	二五・〇〇
	計	一五・一〇
		九〇・一〇
紐育	申込の際	二五・〇〇弗仙
	明治三十七年十二月十五日	二五・〇〇
	同　三十八年一月五日	三九七・三一
	計	四四七・三一

又發行銀行より政府が受領せし期日及受領額は左表の如し。

募集地	政府受領期日	英貨	邦貨換算額
倫敦	明治三十七年十二月一日	一、二七五、〇〇〇、〇〇〇磅	一二、三〇一、五〇七、五三八円
同	三十八年一月二日	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇志	一四、四七二、三六一、八〇九
同	年二月二日	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇	一四、四七二、三六一、八〇九
同	年三月二日	九三〇、〇〇〇、〇〇	八、九七二、八六四、三二一
計		五、二〇五、〇〇〇、〇〇	五〇、二一九、〇九五、四七七
紐育	明治三十七年十二月五日	一、四三七、八四五、三〇佛	二、八五〇、〇四〇、二三八
同	年同月十九日	一、四三七、八四五、三〇	二、八五〇、〇四〇、二三八
同	三十八年一月十九日	二二、四七二、六五九、四〇	四四、五四四、四一九、〇二九
計		二五、三四八、三五〇、〇〇	五〇、二四四、四九九、五〇五
合計			一〇〇、四六三、五九四、九八二

（備　考）一、明治三十八年三月に於ける收入英貨九十三萬磅の內三十六萬磅（此の邦貨換算額三百四十七萬三千三百六十六圓八十三錢四厘）は同年四月拂利子として引去り、寄託金へ受入の手續を爲さざりしも、之に對する分は邦貨にて納入せり。

二、換算相場は一圓につき英貨二志〇片八分の七、米貨五十仙二十分の九。

右實收金は其の都度日本銀行に賣却して之を以て借入金を返償し、同行は之に依りて兌換券の正貨準備を充塡せり。卽ち同年十二月より翌三十八年三月迄に日本銀行へ賣却竝に借入金を返濟せし金額左表の如し。

受入				借入金返償			
年月日	英貨又は米貨邦貨換算額			日本銀行へ賣却高（＊印は假賣の分）			
				年月日	英貨又は米貨邦貨換算額		
倫敦の分							
明治三十七年十二月三日	一、二七五、〇〇〇、〇〇〇磅	一二、三〇一、五〇七、五三八円		明治三十七年十二月九日	＊一、二七五、〇〇〇、〇〇〇磅	＊一二、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇円	
同三十八年一月四日	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一四、四七二、三六一、八〇九		同三十八年一月十日	＊一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	＊一四、四七二、三六一、八〇九	
同年二月四日	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一四、四七二、三六一、八〇九		同年二月八日	＊一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	＊一四、四七二、三六一、八〇九	
同年三月六日	五七〇、〇〇〇、〇〇〇	五、四九九、〇九五、四七七		同年三月六日	＊五七〇、〇〇〇、〇〇〇	＊五、四九九、〇九五、四七七	
計	四、八四五、〇〇〇、〇〇〇	四六、七四五、七二八、六四三		計	＊四、八四五、〇〇〇、〇〇〇	＊四六、七四五、七二八、六四三	
紐育の分							
明治三十七年十二月八日	一、四三七、八四五、三〇佛	一三、八五〇、〇四〇、二三八円		明治三十七年十二月九日	＊一、四三七、八四五、三〇佛	＊一三、八五〇、〇四〇、二三八円	
同年十二月廿一日	一、四三七、八四五、三〇	一三、八五〇、〇四〇、二三八		同年十二月廿四日	＊一、四三七、八四五、三〇	＊一三、八五〇、〇四〇、二三八	
同三十八年一月廿三日	二五、三四八、三五〇、〇〇	二四、四七二、六五九、四〇		同三十八年一月廿六日	＊二五、三四八、三五〇、〇〇	＊二四、四七二、六五九、四〇	
計	二五、三四八、三五〇、〇〇	二四、四七二、六五九、四〇		計	＊二五、三四八、三五〇、〇〇	＊二四、四七二、六五九、四〇	
合計	四、八四五、〇〇〇、〇〇〇磅 二五、三四八、三五〇、〇〇佛 九六、九二〇、三八〇、〇〇〇円			合計	＊四、八四五、〇〇〇、〇〇〇磅 二五、三四八、三五〇、〇〇佛 九六、九二〇、三八〇、〇〇〇円		

（備　考）右表中明治三十八年三月の英貨受入額は同年四月拂利子三十六萬磅を控除したるものなり。

第四款　起債費

本公債證券の製造費は一枚に付五十仙卽ち一圓三厘八毛餘に當れり。其の前回發行のものに比して高價なるは紙質を改良し、彫刻印刷共に精巧を凝したるに因る。而して英國發行分證書には前回と同じく額面百磅に付十志の印紙稅を要したり。今此等の費用を合算すれば左の如し。

費目	外國貨	邦貨換算額
證書製造費	四五、〇〇〇弗	九〇、二七〇・〇〇〇圓
印紙稅	三〇、〇〇〇磅	二九二、八九〇・〇〇〇
證書運送費	四〇弗	三九〇・五二〇
計	四五、〇〇〇弗 三〇、〇四〇磅	三八三、五五〇・五二〇

（備　考）本表に揭げたるものの外、第一回及第二回六分利付英貨公債を通じて募集取扱費として日本銀行に交付したる金額十二萬圓、及電報料募集慰勞金若干ありたることは前節に記したり。

第五款　償還及支拂

本公債の元金は明治四十四年十月五日に於て額面金額を以て償還せらるべく、但し四十年四月五日以後に於ては隨時六箇月前の新聞廣告を以て、其の全部又は一部を償還し得るの規定なり。又其の利子は每年四月五日及十月五日に於て、各其の月末迄の前六箇月分を倫敦及紐育兩日本銀行代理店（橫濱正金銀行支店）に於て支拂ふものとす。元利金支拂に關する諸般の手續は總て第一回六分利付英貨公債に於けると相同じ。

本公債元金は全然第一回六分利付英貨公債と同一の理由により、之と共通して明治四十年三月七日大藏省告示第三十九號を以て全部償還を豫告せられたるが、之より先同年二月中燒損證券に對する代り證券交付に代ふる便宜處分として、据置年限に關係なき國債證券買入銷却法に據り券面額九百磅（八千七百八十六圓七十錢）を買入銷却したるを以て、同年九月十日に於て全部償還したる額は千百九十九萬九千百磅（一億千七百十四萬七千二百十三圓三十錢）なりき。而して此の內額面四百四萬二千七百磅（三千九百四十六萬八千八百八十圓）は同年四月募集に係る五分利付英貨公債の應募金として代用拂込まれしものなり。尙ほ各年度別利子支拂額及全部償還後に於ける元利金の支拂額は、前節第一回六分利付英貨公債と共通に之を揭げたるを以て、茲には之を再錄せず。

第四節　第一回四分半利付英貨公債

第一款　起　債

明治三十八年に於ける臨時事件費支辨の爲め募集すべき公債總額五億七千五百萬圓の內、約一億二千萬圓は曩に英米兩國に於て之を募集し、三十八年三月を以て之が領收を終りしことは前節に詳述したる所なり。而して殘額四億五千五百萬圓の募集は、經費支拂上竝に財政經濟上の必要に應ずるが爲め、必ず之を三十八年中に爲さざるべからず。政府は此の方針を以て常に倫敦市場の情勢を窺ひて機を待ちたりしが、三十八年一月に入りて市場の景況日に良好に向ひ、我國の信用益〻加はるの情報に接したり。

茲に於て大藏大臣は閣議の決定を得て、公債二億圓を募集するため、帝國政府財政特派委員として再び日本銀行副總裁高橋是清を倫敦に派遣することとし、同年二月十日之に關する委任狀及命令書を同人に交付し、又右募集に關する事務は從來の如く日本銀行に令達して之を取扱はしむることとなし、尚ほ駐英國公使林董に對しては前回同樣之に關して充分なる助力を與ふべき旨を訓令せり。

斯くて高橋是清は明治三十八年二月十七日、倫敦に向けて本國を出發したるが、是より先き帝國政府が近く公債再募集の意あるを知るや、外國資本家中には、前回の發行銀行或は帝國政府に對して直接間接頻りに之が引受を爲さむことを懇請し來るものあり。今財政特派委員として高橋是清の海外再派遣の報歐米に傳はるに及び、市場の歡迎愈〻加はり、其の提供せる條件の如き前回前々回に比すれば頗る我に有利なるものありたり。例へば一月十一日バンミュア・ゴルドン商會の申込條件は『無抵當利率五分半・据置年限十箇年償還期限三十箇年・發行價格八十五・發行額五百萬磅或は一千萬磅』にして、香港上海銀行のコッホの條件は『無抵當利率五分半・發行價格八十五・發行總額一千萬磅償還期限三十又は四十箇年、但所有主は十箇年据置の後六箇月前の通知を以て額面償還の請求權あるも、此の權利を放棄する時は政府は二十箇年以後に於ては何時にても六箇月前の通知を以て償還することを得』るものなりしが、彼は其の後更に讓歩して『利率年五分、政府は千九百八年末後は六箇月前の通知を以て何時にても償還する事を得』るものとなせり。

斯くの如く英米兩國を初め、大陸の金融家より有利なる條件を以て發行引受を要請する者續出せりと雖も、第一回竝に第二回外債の發行銀行は、開戰直後一般外人が戰局の前途に多大の危惧を抱き本邦公債に對し極めて冷淡なる時に於て、率先之が商議に應じ以て之を成功せしめたるものにして其の功固より沒すべからざるものあり。從て他に好條件を以て應ずる者あるを名として、今遽に之を除外せんよりは、特に不當なる條件を要求せざる限り可成前發行銀行と協商するを順當となすを以て、乃ち高橋は倫敦に到著するや直ちに先づ彼等と交渉を開始したり。然るに金融市場は前述の如く頗る好情勢を示し、他方曩に旅順口の陷落あり、今又奉天の大捷ありて、戰局に對する觀測略〻定まり、加ふるに我上下の堅忍持久克く百般の困難を凌ぎたる爲め、帝國の信用一段と加はり、列國の人心靡然として我に嚮ふの際なりしを以て、高橋の交涉を受けたる前發行銀行は、從前に比し頗る有利なる條件を以て之に應ぜむことを提議せり。卽ち三月二十二日高橋の報じたる所に據れば、其の條件は左の如くなりき。

一、發行總額三千萬磅（二億九千二百八十九萬圓）。
一、利率年四分半。
一、償還年限二十箇年、但五箇年据置後は六箇月前の豫告を以て之を償還することを得。
一、發行價格百に付九十。
一、政府手取百に付八十五半。
一、煙草專賣純收入擔保。
一、發行銀行に交付する利拂基金は期日前に一時に支拂ひ、每月渡を廢止す。

政府は右條件中、發行價格及政府手取高に就ては極力之を高めんと努力せしめたるに、發行價格は之を上すことを得ざるも、手取金を引上げて八十六磅四分の三となしたるの報告に接したりしかば之を以て其の確定を命じ、同時に改めて公債一億圓增募集に關する權限を高橋に委任したるを以て

同人は三月二十四日を以て調印を了せり。

特派財政委員と發行銀行間に右契約の成立するや、大藏大臣は之が發行規程に關する勅令案を提出して閣議の決定を得、明治三十八年三月二十六日勅令第七十八號を以て左の如く公布せり。

勅令第七十八號（明治三十八年三月二十六日）

第一條　明治三十八年法律第十二號ニ依リ英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ英貨公債三千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四半トス

第三條　本公債ノ元金ハ明治五十八年二月十四十三年二月十五日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條　本公債ノ利子ハ毎年二月十五日及八月十五日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條　本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ百磅、二百磅及五百磅ノ三種トス

英貨ト米貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙トス

第六條　本公債元利金ノ償還ハ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラルルモノトス

第七條　本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅トス

第八條　本公債ノ元金ハ明治三十八年三月ヨリ同年七月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十八年八月十五日ニ於テ全半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第二款　募　集

本公債三千萬磅は從前と同じく倫敦及紐育の兩地に於て各半額宛募集せらるることとなり、兩地とも明治三十八年三月二十八日左の如く募集目論見書を發表したり。

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½ %
STERLING LOAN OF MARCH 1905 IN LONDON.
(FIRST SERIES.)

The List of applications will be closed on or before 31st March 1905.

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½ % STERLING LOAN
FOR £30,000,000

Which is now offered for Subscription in London and New York.

Created under the authority of Law No. 12, promulgated 1st January 1905, and of an Imperial Ordinance of His Majesty the Emperor, numbered 78, and promulgated 26th March 1905.

Secured by a first Charge on the Tobacco Monopoly Revenues of the Empire as stated below.

SUBSCRIPTION PRICE 90 PER CENT.

Repayable at par 15th February 1925, with option to the Imperial Japanese Government to redeem on or at any time after 15th February 1910, on giving six months' notice.

In Bonds to bearer of £100, £200 and £500, with half-yearly Coupons attached, payable 15th February and 15th August. Bonds and Coupons payable in London in Sterling, and in New York in United States Gold Dollars, at the fixed rate of exchange of $4.87 per Pound Sterling.

Under the authority of the Imperial Japanese Government one half of this Loan, viz.: £15,000,000: has been taken from the London issuing Banks by Messrs. Kuhn, Loeb & Co., and will be issued in New York by them, and by the National City Bank, and the National Bank of Commerce, on the terms of this Prospectus.

Coupons and Bonds payable in London at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, 120, Bishopsgate Street Within, E. C., and in New York at the Agency of the Yokohama Specie Bank, Limited, $^{63}/_{65}$ Wall Street.

A Coupon payable 15th August 1905, for interest on instalments, will be attached to the Scrip.

Parr's Bank Limited, the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and the Yokohama Specie Bank, Limited, are authorised by the Imperial Japanese Government to issue the above loan and are prepared to receive Subscriptions for £15,000,000 sterling, payable as follows:—

£ 5 per cent. on Application.
£15 per cent. on Allotment.
£20 per cent. on 27th April 1905.
£20 per cent. on 22nd May 1905.
£15 per cent. on 19th June 1905.
£15 per cent. on 19th July 1905.
£90 per cent.

Payment in full may be made on allotment under discount at the rate of two per cent. per annum.

Subscriptions will also be received on behalf of the London issuing Banks by their appointed Agents in Germany, Austria-Hungary, Holland, Belgium and Switzerland.

The loan is repayable at par on 15th February 1925, but the Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par, all or any of the Bonds on or at any time after the 15th February 1910, on giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, London, and the New York Agency of the same Bank, in the usual manner.

The loan is secured both as to Principal and Interest by a first charge upon the annual net revenues of the Imperial Japanese Government Tobacco Monopoly.

The Imperial Japanese Government has the exclusive right to control the cultivation and production of the leaf, and to purchase, import, manufacture and sell tobacco. It thus possesses the entire monopoly of the tobacco trade within the limits of the Japanese Empire. The estimated net revenue for the fiscal year 1905-6 from this source is *yen* 32,011,072, which at exchange of 2s. 0½d. per *yen*, is equal to £3,267,796. 18s. 8d.

Scrip Certificates to bearer will be delivered by the issuing Banks as soon as possible, in exchange for the Allotment Letters, accompanied by the Bankers' receipts.

A Coupon for the payment of interest on instalment at the rate of 4½ per cent. per annum from their respective dates of payment to 15th August 1905, will be attached to the Scrip.

The Bonds will be delivered by the issuing Banks in exchange for the Scrip Certificates as soon as

practicable after payment of the last instalments.

Application must be made on the enclosed form accompanied by the deposit of £5 per cent.

If no allotment be made, the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards payment of the amount due on allotment.

Failure to pay any of the instalments at due dates will render all previous payments liable to forfeiture.

A Certified translation of Law No. 12 and of the Imperial Ordinance No. 78, creating and authorizing the issue of the above Bonds, may be seen at the Offices of any of the issuing Banks and at the Offices of Messrs. Alfred Bright and Son, Solicitors, 15 George Street, Mansion House, London, E. C. and of Messrs. Stephenson, Harwood & Co., Solicitors, 31 Lombard Street, E. C.

A London Stock Exchange settlement and quotation will be applied for in due course.

Prospectuses and forms of application may be obtained from the issuing Banks, viz.: Parr's Bank Limited, 4 Bartholomew Lane, London, E. C., and Branches; the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 31 Lombard Street, London, E. C., the Yokohama Specie Bank, Limited, 120, Bishopsgate Street Within, London, E. C., and from Messrs. Panmure Gordon & Co., Hatton Court, Threadneedle Street, London, E. C.

28th March, 1905.

第一回四分半利付英貨公債倫敦募集目論見書譯文

應募申込簿ハ千九百五年三月三十一日以前ニ之ヲ締切ルヘシ

日本帝國政府四分半利付英貨參千萬磅公債

右公債ハ今回倫敦及紐育ニ於テ之ヲ募集ス

本公債ハ千九百五年一月一日公布法律第十二號及同年三月二十六日公布勅令第七十八號ニ準據シテ起債シ帝國ノ煙草專賣收入ヲ以テ優先ニ擔保セラル

應募價格ハ九十「パーセント」

本公債ハ千九百二十五年二月十五日額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百十年二月十五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ償還スルコト得

證券ハ無記名式ニシテ百磅、貳百磅及五百磅ノ三種トシ每年二月十五日及八月十五日支拂ノ半箇年分利札ヲ附ス元利金ハ倫敦ニ於テハ英貨ヲ以テ、紐育ニ於テハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙ノ確定換算率ニ依リ北米合衆國本位貨幣ヲ以テ支拂フモノトス

本公債ノ一半卽チ壹千五百萬磅ハ日本帝國政府ノ承認ニ依リ「クーン・ロエブ」商會ニ於テ倫敦發行銀行ヨリ之ヲ引受ケタルニ付同商會及「ナショナル・シチー」銀行「ナショナル・バンク・オブ・コムマース」ハ本目論見書ノ條項ニ據リ紐育ニ於テ之ヲ發行ス

元利金ハ倫敦ニ於テハ「ビショップスゲート・ストリート・ウキジン」百二十番横濱正金銀行支店、紐育ニ於テハ「ウオール」街六十三番六十五番横濱正金銀行出張所ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

拂込金ノ利子ニ對シ千九百五年八月十五日拂利札ヲ假證券ニ附ス

「パース」銀行、香上銀行及橫濱正金銀行ハ日本帝國政府ヨリ本公債ノ發行ヲ承認セラレタルニ付壹千五百萬磅ヲ募集ス其ノ拂込左ノ如シ

應募申込ノ際　百磅ニ付　五磅

公債割當ノ際　同　上　拾五磅

千九百五年四月二十七日　百磅ニ付　貳拾磅
五月二十二日　同　上　貳拾磅
六月十九日　同　上　拾五磅
七月十九日　同　上　拾五磅
合　計　同　上　九拾磅

公債割當ノ際全額拂込ヲ爲ストキハ年二分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

應募申込ハ英國發行銀行ノ爲獨逸、墺太利匈牙利、和蘭、白耳義及瑞西ニ於ケル該銀行代理店ニ於テモ受理セラルヘシ

本公債ハ千九百二十五年二月十五日額面金額ヲ以テ之ヲ償還スヘシ但シ日本帝國政府ハ千九百十年二月十五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ額面金額ニテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ヲ爲ス場合ニ於テハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ普通ノ方法ニ據リ抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

本公債ノ元利金ハ日本帝國政府ノ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラル

日本帝國政府ハ煙草ノ耕作及生產ヲ監督シ及煙草ノ買入、輸入、製造及販賣ノ特權ヲ有シ從テ日本帝國內ニ於ケル煙草ノ專賣權ヲ有ス千九百五年ヨリ六年ニ亙ル會計年度ニ於テ此財源ヨリ生スル益金豫算ハ參千貳百壹萬千七拾貳圓ニシテ之ヲ壹圓ニ付貳志零片二分ノ一ノ率ヲ以テ英貨ニ換算スルトキハ參百貳拾六萬七千七百九拾六磅拾八志八片ナリ

無記名假證券ハ發行銀行ニ於テ公債割當通知書竝ニ銀行領收書ト引換ニ出來得ル限リ速ニ之ヲ交付スヘシ假證券ニハ各拂込期日ヨリ千九百五年八月十五日迄四分半ノ利率ヲ以テ拂込金ニ對スル利子ヲ支拂フヘキ利札一枚ヲ附スヘシ

本證券ハ最終拂込金拂込後出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ發行銀行ニ於テ之ヲ交付スヘシ

申込ハ百磅ニ付五磅ノ保證金ヲ添ヘ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

若シ全然割當ナキトキハ保證金全部ハ之ヲ返付スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ割當ノ際ノ拂込金ニ之ヲ充當スヘシ拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ既納ノ拂込金ハ總テ沒收セラルルモノトス

本公債發行ニ關スル法律第十二號及勅令第七十八號ノ證明譯文ハ各發行銀行及倫敦「イー・シー・マンション・ハウス・ジョージ」街十五番狀師「アルフレッド・ブライト」商會、倫敦「ロムバード」街三十一番狀師「ステフエンソン・ハーウッド」商會ノ事務所ニ於テ閱覽スルコトヲ得

倫敦株式取引所ニ於ケル受渡及公定相場ニ登載ノ件ハ適當ナル時機ニ於テ之ヲ請求スヘシ

目論見書及申込書式入用ノ向ハ發行銀行卽チ倫敦「バーソロミユー・レーン」四番「バース」銀行及其ノ支店「ロムバード」街三十一番香上銀行、同「ピショップスゲート・ストリート・ウキジン」百二十番橫濱正金銀行及同「スレッドニードル」街「ハットンコート」「バンミユーア・ゴルドン」商會ヨリ受取ラルヘシ

千九百五年三月二十八日

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½ %
STERLING LOAN OF MARCH 1905 IN NEW YORK.

(FIRST SERIES.)

£ 30,000,000

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½ % STERLING LOAN,

DUE FEBRUARY 15, 1925.

With option to the Imperial Japanese Government to redeem all or any part on or after February 15, 1910, upon giving six months' notice.

Secured by a first charge on the Tobacco Monopoly Revenues of the Empire.

Created under the authority of Law No. 12, promulgated January 1, 1905, and of an Imperial Ordinance of His Majesty the Emperor, numbered 78, and promulgated March 26, 1905.

Coupon Bearer Bonds in the Denominations of £ 100, £ 200 and £ 500.

Semi-annual interest payable February 15th and August 15th, at the office of the Yokohama Specie Bank, Ltd., in London, and at its agency in New York.

Principal and interest payable both in London in Sterling and in New York in United States Gold Dollars at the fixed rate of exchange of $ 4.87 per Pound Sterling.

Parr's Bank, Ltd., The Hongkong and Shanghai Banking Corporation and The Yokohama Specie Bank, Ltd., are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above £ 30,000,000 Bonds. Of this amount £ 15,000,000 is being offered for public subscription in London by the above-mentioned Banks and £ 15,000,000 has been taken under the authority of the Imperial Japanese Government from the London issuing Banks by Messrs. Kuhn, Loeb & Co.

The London issuing Banks make the following statements in their prospectus which has been approved by Korekiyo Takahashi, Esq., Vice-Governor of the Bank of Japan, the duly authorized special financial commissioner of the Imperial Japanese Government:

"This Loan is repayable at par, February 15, 1925, but the Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par all or any of the bonds on or at any time after February 15, 1910, on giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings at the office of The Yokohama Specie Bank, Ltd., London, and the New York Agency of the same Bank, in the usual manner. The loan is secured both as to principal and interest by a first charge upon the annual net revenues of the Imperial Japanese Government Tobacco Monopoly. The Imperial Japanese Government has the exclusive right to control the cultivation and production of the leaf, and to purchase, import, manufacture and sell tobacco. It thus possesses the entire monopoly of the tobacco trade within the limits of the Japanese Empire. The estimated net revenue for the fiscal year 1905-06 from this source is 32,011,072 *yen*, which at the exchange of two shillings and halfpenny per *yen* is equal to £ 3,267,796. 18s /8d."

Referring to the above, the undersigned are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above Loan and hereby offer for public subscription £ 15,000,000 of the above Bonds at the price of $87^5/_8$ per cent. and accrued interest, New York Stock Exchange Usage, which is the approximate parity of the London issue price.

The subscription list will be opened at 10 A. M. on March 29, 1905, and will be closed on or before April 5, 1905. The undersigned reserve to themselves the right to close the subscription list at any time without notice and to reject any subscriptions and allot smaller amounts than applied for.

All subscriptions, which should be made on the enclosed form, are to be accompanied by a deposit of $ 25 in New York Funds per £ 100 Bond.

If no allotment be made, the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards the amount due on April 25, 1905. If any further balance remains, such balance will be returned. Failure to pay any instalments at due dates, will render all previous payments liable to forfeiture.

The rate of exchange fixed by the Imperial Japanese Government at which principal and interest of the bonds are payable in New York is $4.87 per pound sterling, at which rate the New York issue price of 87⅛ per cent. and accrued interest, figuring $5 per pound sterling according to the usage of the New York Stock Exchange, is the approximate equivalent of the London issue price of £90 per cent. Payment for bonds allotted is to be made in New York funds as follows:

On application	$ 25.00 per £100 bond,
On April 25, 1905	25.00 per £100 bond,
On May 25, 1905	394.21 per £100 bond,
Total	$444.21 per £100 bond.

Temporary certificates to bearer will be delivered by the undersigned in exchange for allotment letters duly endorsed, upon payment of final instalment. A coupon for payment of the semi-annual interest due on August 15, 1905, will be attached to the temporary certificates.

Payment in full may be made on April 25, 1905, under discount at the rate of three per cent. per annum.

The bonds will be delivered by the undersigned in exchange for the temporary certificates as soon as practicable.

Subscriptions will also be received by the Bank of Montreal, Montreal, by the Old Colony Trust Company, Boston, by the Fidelity Trust Company, the Girard Trust Company and Messrs. Sailer & Stevenson, Philadelphia, by the Illinois Trust and Savings Bank and the Merchants' Loan and Trust Company, Chicago, by Messrs. Francis Bro. & Co. and Messrs. A. G. Edward & Sons, St. Louis, and by the Nevada National Bank of San Francisco and the Anglo-Californian Bank, Limited, San Francisco.

Kuhn, Loeb & Co.
William and Pine Street.
National City Bank,
52 Wall Street.
National Bank of Commerce in N. Y.
31 Nassau Street.

New York, March 28, 1905.

第三章　外國債
第四節　第一回四分半利付英貨公債

本公債ハ帝國煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラルルモノトス

本公債ハ千九百五年一月一日公布法律第十二號及同年三月二十六日公布勅令第七十八號ニ準據シテ起債スルモノトス

每半箇年分ノ利子ハ二月十五日及八月十五日倫敦橫濱正金銀行支店及紐育橫濱正金銀行出張所ニ於テ無記名利札附トス

本公債證券ハ額面百磅貳百磅及五百磅ノ三種ニシテ無記名ニシテ百磅及五百磅ノ證券ニ對シテハ六箇月前ノ豫告ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

但シ日本帝國政府ハ千九百十年二月十五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ其ノ償還期限ハ千九百二十五年二月十五日トス

日本帝國政府四分半利付英貨公債參千萬磅

第一回四分半利付英貨公債紐育募集目論見書譯文

所ニ於テ之ヲ支拂フヘシ元利金ハ倫敦ニ於テハ英貨ヲ以テ、紐育ニ於テハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙ノ確定換算率ニ依リ北米合衆國本位貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス

「バース」銀行、香上銀行及横濱正金銀行ハ日本帝國政府ヨリ本公債參千萬磅ヲ發行スルノ權能ヲ賦與セラレ内壹千五百萬磅ハ是等銀行ニ依リ倫敦ニ於テ一般公衆ヨリ之ヲ募集シ爾餘ノ壹千五百萬磅ハ日本政府ノ承認ニ依リ「クーン・ロエブ」商會ニ於テ倫敦發行銀行ヨリ之ヲ引受ケタリ」倫敦發行銀行ハ日本帝國政府特派財政委員日本銀行副總裁高橋是清氏ノ承認ヲ經タル其ノ目論見書中ニ左ノ如ク記載セリ

本公債ハ千九百二十五年二月十五日額面金額ヲ以テ償還スルモノトス但シ日本帝國政府ハ千九百十年二月十五日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ額面金額ニテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ヲ爲ス場合ニ於テハ倫敦横濱正金銀行支店及紐育横濱正金銀行出張所ニ於テ通常ノ方法ニ依リ抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

本公債ノ元利金ハ日本帝國政府ノ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラル日本帝國政府ハ煙草ノ耕作及生產ヲ監督シ及煙草ノ買入、輸入、製造及販賣ノ特權ヲ有シ從テ日本帝國内ニ於ケル煙草ノ專賣權ヲ有ス千九百五年ヨリ六年ニ亙ル會計年度ニ於テ此財源ヨリ生スル益金豫算ハ參千貳百壹萬千七拾貳圓ニシテ之ヲ壹圓ニ付貳志零片貳分ノ一ノ率ヲ以テ英貨ニ換算スルトキハ參百貳拾六萬七千七百九拾六磅拾八志八片ナリ

下名等ハ上記ノ條項ニ依リ日本帝國政府ヨリ本公債ノ發行ヲ承認セラレタルニ付茲ニ紐育株式取引所ノ慣例ニ依リ百磅ニ付八拾七磅八分ノ五ト之ニ對スル利子ヲ加ヘタルモノ卽チ倫敦ニ於ケルト略〻同一ノ發行價格ヲ以テ右公債壹千五百萬磅ヲ一般公衆ヨリ募集ス

應募申込簿ハ千九百五年三月二十九日午前十時ニ之ヲ開キ千九百五年四月五日以前ニ之ヲ締切ルヘシ

下名等ハ何等ノ通知ナクシテ何時ニテモ申込簿ヲ締切リ又ハ應募ヲ拒絕シ若ハ申込金額ヨリ少ナキ金額ヲ割當ツルノ權利ヲ有ス總テ應募ハ公債百磅ニ付貳拾五弗ノ保證金ヲ添ヘ紐育ニ於テ現金ヲ以テ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

割當ナキトキハ保證金全部ヲ返付スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ千九百五年四月二十五日ノ拂込金ニ之ヲ充當シ尙殘額アルトキハ之ヲ返付ス拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ既納ノ拂込金ハ總テ之ヲ沒收スルモノトス

日本帝國政府ニ依リ定メラレタル紐育ニ於ケル公債元利金支拂換算率ハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙トス而シテ紐育發行價格タル八七5/8%及之ニ對スル利子ヲ加ヘタルモノハ紐育株式取引所ノ慣例ニ從ヒ英貨壹磅ニ付五弗ノ割合ヲ以テ計算スルニ倫敦ニ於ケル發行價格タル百磅ニ付九拾磅ト略〻同一ナルモノトス

割當ラレタル證券ニ對シテハ左ノ如ク紐育資金中ニ之ヲ支拂フヘシ

應募申込ノ際	百磅證券一枚ニ付	二五弗・〇〇
千九百五年四月二十五日	同	二五・〇〇
同　年五月二十五日	同	三九四・二一
合計	同	四四四・二一

無記名式假證券ハ最終拂込ノ際適當ニ裏書アル割當通知書ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ假證券ニハ千九百五年八月十五日滿期半箇年分利子ノ支拂ノ爲ニ利札一枚ヲ附スヘシ

千九百五年四月二十五日ニ於テ全額拂込ヲ爲ストキハ年三分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

本證券ハ出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ

申込ハ「モントリール」「モントリール・バンク」「ボストン」「オールド・コロニー・トラスト・コムパニー」、「フイラデルフイヤ」「フイデリテイー・トラスト・コムパニー」及「セーラー・アンド・ステイブンソン」商會「シカゴ」「イリノイス・トラスト・アンド・セーヴイングス・バンク」及「マーチヤンツ・ローン・アンド・トラスト・コムパニー」「セントルイ」「フランシス・ブラザース・アンド・コムパニー」及「エー・ジー・エドワード」商會、桑港「ネバダ・ナショナル・バンク」及「アングロカリフオルニアン・バンク」ニ於テモ亦之ヲ受理セラルヘシ

「ウイリアム・アンド・バイン」街

「クーン・ロエブ」商會

「ウオール」街五十二番

「ナショナル・シチー」銀行

「ナツソー」街三十一番

「ナショナル・バンク・オヴ・コムマース」

紐育、千九百五年三月二十八日

今其の應募狀況を見るに、倫敦に於ては三月二十九日午前九時より應募申込の受理を始め、同日午後二時半之を締切りたるに、其の申込額は英國に於けるもの人員五萬六百人、一億五千百萬磅、獨逸、白耳義、瑞西、和蘭及墺太利等大陸諸國に於けるもの千百九十四萬九千磅、合計一億六千二百九十四萬九千磅にして、倫敦分募集額の約十一倍に達したり。又紐育に於ては同日申込受付開始、翌三十日午後三時之を締切りたるに、申込額約五億弗に達して募集額の約七倍を示せり。今回の募集期間は極めて短少なりしにも拘らず、應募景況は右の如く非常の盛大を呈し、殊に英國に於ける申込人員五萬餘口中、四萬三千餘口は悉く二千磅以下の小額申込者にして、紐育に於ても亦此の傾向著しかりき。加之今回は從前と異なり、歐洲大陸諸國より前記の如く多數の應募申込を受けたるは、我國外債史上一新紀元を劃したるものにして、最も注意に價ひすべし。蓋し獨逸資本家の如きは曩に發行者たらんことを懇請し來れる者にして、其の成らざるを知るや直ちに倫敦シンヂケートより下引受をなしたるものなり。

第三款　收　支

本公債募集金は、倫敦に於ては明治三十八年七月まで六回に、應募者より發行銀行に拂込み、發行銀行は之を四月より八月まで五回に政府に納入し、紐育に於ては同じく五月まで三回に應募者より發行銀行に拂込み、發行銀行は之を四月より六月まで三回に政府へ納入するものとす。其の拂込期日及び百磅に對する拂込金額は左表の如し。

募集地	拂込期日	拂込額
申込の際		五磅〇〇

倫敦	割當の際	明治三十八年四月廿七日	一五・〇〇磅
	同　年五月廿二日		二〇・〇〇
	同　年六月十九日		二〇・〇〇
	同　年七月十九日		一五・〇〇
	計		九〇・〇〇
紐育	申込の際	明治三十八年四月廿五日	二五・〇〇弗
	同　年五月廿五日		二五・〇〇
	計		三九四・二一
			四四四・二一

又其の拂込金の政府受領額及期日を表示すれば左の如し。

募集地	政府受領月日		受領金額	
			米貨	邦貨換算額
倫敦	明治三十八年四月十七日	英	二、五一二、五〇〇・〇〇磅	二四、二四一、二〇六・〇三〇円
	同　年五月十一日		三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	二八、九四四、七二三・六一八
	同　年六月五日		三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇	二八、九四四、七二三・六一八
	同　年七月三日		二、二五〇、〇〇〇・〇〇	二一、七〇八、五四二・七一四
	同　年八月二日		二、二五〇、〇〇〇・〇〇	二一、七〇八、五四二・七一四
	計		一三、〇一二、五〇〇・〇〇	一二五、五四七、七三八・六九四
紐育	明治三十八年四月十九日		三、六一四、五八三・三三弗	七、一六四、六八四・五〇〇円
	同　年五月九日		三、六一四、五八三・三三	七、一六四、六八四・五〇〇
	同　年六月八日		五六、一四一、七〇八・三四	一一一、二八一、八七九・七六二
	計		六三、三七〇、八七五・〇〇	一二五、六一一、二四八・七六二
合計				二五一、一五八、九八七・四五六

本公債收入金は逐次之を臨時軍事費特別會計へ繰入れしと雖も、資金の運用竝に支出方向に就ては之を明別することを得ず、唯前二回の如く直ちに之を全部日本銀行へ賣却し、以て借入金を銷却せしものにあらず、卽ち一部は之に充てたること次表を以て知らるる所なれども、其の殘餘は倫敦に留めて、適當に運用したる後、一般海外支出に充當せられたるものとす。

尙ほ本公債收入金を以て日本銀行借入金を銷却せし金額は左表の如し。

	受入月日	金額	賣却月日	金額
英貨	明治三十八年四月十九日	二、五二二、五〇〇・〇〇〇磅 二四、二四一、二〇六・〇三〇円	四月十九日	二四、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇円
	五月十三日	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 二八、九四四、七二三・六一八	五月十三日	二八、八〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	五五、五二二、五〇〇・〇〇〇 五三、四二二、二四四・八九八	*	五五、五二二、五〇〇・〇〇〇 五三、四二二、二四四・八九八
米貨	四月二十二日	三、六一四、五八三・三三弗 七、一六四、六八四・五〇円	四月二十二日	三、六一四、五八三・三三弗 七、一六四、六八四・五〇円
	五月十一日	三、六一四、五八三・三三弗 七、一六四、六八四・五〇円	五月十一日	三、六一四、五八三・三三弗 七、一六四、六八四・五〇円
	計	七、二二九、一六六・六六弗 一四、三二九、三六八・二六円	計	七、二二九、一六六・六六弗 一四、三二九、三六八・二六円

合計	六七、五一五、二九八・六四八円		六七、九四一、二三三・一六〇円	六六、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇円

（備　考）賣出金額が受入金額より大なるは假賣（＊印）あるに由る。

第四款　起債費

本公債の證券製造費は一枚當り三十六錢九厘餘にして、總額五萬八千二百餘圓なりしが、此の外に紐育發行分の證券の運送料・保險料・關稅として計一千九百五十磅を要したり。尙ほ英國發行分一千五百萬磅に對しては二分の一パーセントの印紙稅を課せられたること前例の如し。今之を表示すれば左の如し。

費目	英貨	邦貨換算額
證書製造費	五、九六二・一〇磅志	五八、二一一・八八〇圓
同　運送料等	一、九五〇・〇〇	一九、〇三七・八五〇
印紙稅	七五、〇〇〇・〇〇	七三二、二二五・〇〇〇
計	八二、九一二・一〇	八〇九、四七四・七三〇

（備　考）換算率は一磅に付九圓七十六錢三厘。

本表に掲げたるものの外、第一回、第二回四分半利付英貨公債募集取扱費として日本銀行に交付したる金額十五萬五千五百圓あり。其の他電報料及慰勞金の交付ありしこと第一回六分利付英貨公債の部に記するが如し。

第五款　償還及支拂

本公債に關する事務取扱方は明治三十八年四月五日大藏省達を以て、明治三十七年五月三十日附六分利付英貨公債事務取扱命任書に準ずべき旨、日本銀行に命任したり。

（一）元　金

本公債元金は明治五十八年（大正十四年）二月十五日に於て額面金額を以て償還すべく、但し据置期限五箇年を經過したる明治四十三年二月十五日以後に於ては、政府の都合に依りて何時にても六箇月前の新聞廣告を以て、其の全部又は一部を償還することを得るものとす。而して政府は大正十三年二月震災善後の爲め外國債を募集するに當り、本公債及次節に述ぶる第二回四分半利付英貨公債の借換公債も之と共通して發行することとし、卽ち六分半利付米貨公債一億五千萬弗（三億九十萬圓）、（第三回）六分利付英貨公債二千五百萬磅（二億四千四百七萬五千圓）の應募金の拂込に代用することを許し、次いで同年三月二十九日大藏省告示第六十二號を以て、同年十月一日に於て殘額全部を償還すべき旨を公示せり。是より先き本公債は明治四十年二月以降大正十三年三月迄に買入銷却せられし額千二百十七萬二百磅（一億千八百八十一萬七千六百六十二圓六十錢）あり（斯くの如く多額の銷却ありたるは、第二回四分半利付英貨公債と共に、歐洲戰時中在外正貨の潤澤なりしに際し、聯合國財政援助の一端に供したるものなり）、而して前記兩公債に乘替へられたる額は、米貨公債分四百九十六萬八千五百磅（四千八百五十萬七千四百六十五圓五十錢）、英貨公債分六百二萬千八百磅（五千八百七十九萬八百三十三圓四十錢）、合計千九十九萬三百磅（一億七百二十九

萬八千二百九十八圓九十錢）にして、此の分は同年十月一日に於て、買入銷却の形式を以て之を處分したるを爲め、償還期日に實際に全部償還したる額は六百八十三萬九千五百磅（六千六百七十七萬四千三十八圓五十錢）なりき。但し右の內同年度末迄に支拂を完了せざる額二百十九萬五千四百二十五圓三十三錢八厘ありたり。此の支拂未濟額は爾來年々支拂を實行し來りしが、昭和元年度末に於て尙ほ十四萬四千八百十二圓十三錢八厘を殘せり。

年度	支拂額	年度末殘額
大正一三	一七九、八七八、〇五三・一二二円	二、一九五、四二五・三三八円
一四	二、〇一一、六九六・〇二六（爲替差增 二〇四・三〇〇）	一八三、七二九・三一二
昭和元	七六、三〇五・一六七	一四四、八一二・一三八

（備　考）大正十四年度と昭和元年度の殘額一致せざるは後に訂正せしに由る。

（二）利　子

本公債の利率は年四分半にして、毎年二月十五日及八月十五日に於て、各其の月末迄の前半箇年分を支拂ふものとす。但し第一回利子支拂期たる明治三十八年八月十五日は未だ六箇月を經過せざりしも、發行勅令第八條に依りて全半箇年の利子を支拂ふこととしたり。

元利金支拂場所は倫敦に在りては横濱正金銀行支店、紐育に在りては同行出張所にして、倫敦に於ては英貨を以て、紐育に於ては英貨一磅に付四弗八十七仙の確定換算率に依りて合衆國金弗貨を以て支拂ふものとす。今發行以來昭和元年度迄に支拂ひたる各年度別利子額を示せば左の如し。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
明治三八	一三、〇九四、二〇三・九四二円	大正二	一二、五三〇、三八三・三五七円	大正一〇	？円
三九	一二、〇三〇、一四四・三四六	三	一一、八六九、四二五・八一九	一一	？
四〇	一四、〇八八、二二一・三五〇	四	一一、八八三、九二三・八七四	一二	七、八七三、〇三六・九六一
四一	一三、一七八、五七八・二二九	五	一〇、八三四、〇一二・二二三	一三	二、〇二五、六二六・〇九〇
四二	一三、一七六、六六七・一一一	六	九、七〇二、二九六・〇九七	一四	四八、八三二・五四九
四三	一三、二一〇、七八一・四七五	七	八、九九六、一五二・九五二	昭和元	四、六五六・二四七
四四	一二、九五七、七六八・四五〇	八	一〇、二七七、三六三・六四五		
大正元	一二、八〇一、二五五・三五四	九	八、八六七、四二七・七九六		

（備　考）一、大正十年度及十一年度は調査資料燒失したる爲め不明。
二、大正十四年度以後は支拂未濟利札に對して逐次支拂をなせるものなり。

第五節　第二回四分半利付英貨公債

第一款　起　債

第一回四分半利付英貨公債の募集が英米兩國に於て成功裡に終了するや、高橋は明治三十八年四月倫敦を去つて紐育に赴き暫く同地に滯留せしが、募集事務の完了と共に最早其の地に留まるの必要なきを信じ頻りに歸朝を請へり。然るに政府は更に新公債募集の意を藏し、五月二十七八日日本海の海戰に大捷を博するや、之を好機として英米兩國に於て新に三億圓以上の外債を募集すべき內意を傳へて、高橋の歸朝を一時延期すべきを命じたり。高橋は是に對へて、日本海の大捷は歐米人に

平和來の確信を與へ、帝國公債の人氣を盛ならしめたりと雖、第三回外債募集金の大部分を尚ほ海外に保有する今日、帝國が軍費補充の爲め新に外債を起すは理由に乏しく、又之を戰時諸公債の整理の爲めとせんか、寧ろ完全なる平和克復後に讓るに若かず、殊に新外債募集の報は歐米資本家竝に公衆に取りて全く意表に出づるものにして其の成功の期し難きは論無く、却て帝國財政の信用すべからざる所以を告白するものなりとなして、切に其の中止を希望せり。然るに政府は六月十四日及十六日、相次いで訓電を發し、新外債發行の已む得べからざるを說明して曰く『目下平和の兆見ゆれども其の終極の結果は未だ遽に逆睹するを得ず、而して軍事費の豫算は明治三十八年分七億八千萬圓に對し約三億圓の不足を告ぐ、尚三十九年二月迄の豫算高凡そ二億三千五百萬圓を要する見込にして、合計五億三千五百萬圓に上るべく、內五億圓は之が財源を公債に俟つの外なし。右五億圓中內地に於ける募集餘力は二億圓に過ぎざるを以て、殘三億圓は旣發行公債の賣却か若くは新規發行に依りて絕對に之を外國に仰がざるを得ず。若し戰局にして豫定より速かに戢まり平和回復の早からんには、之を以て撤兵等の費用に充て、尚餘剩を生ずるものあらば之を短期公債の整理に充用すべし』と。

玆に於て高橋も其の已む得べからざるを察して承服したりしが、旣發行公債賣却の件は第一回四分半利付英貨公債の際にも其の議を生じたれども、此の方策は旣述の如く幾多の難點と不便とを伴ふを以て、此の度も新公債に依るを可と信じて、四度外債の募集に著手せり。時に歐米射利の徒、之が引受者たらんと欲して眼前の好條件を携へて政府又は當路の有力者に運動し來る者前回に劣らざりしが、彼等は多く發行手數料プレミアムを利するを目的とするのみにて、到底帝國と利害を共にせんとするの志なきを以て、政府竝に高橋は彼等に耳を藉さず、舊來の發行銀行を中心とし、新に獨逸國を募集地に加へて三國資本家をして協同之が引受をなさしむるの計畫を樹て、高橋は先づ米國資本家と內談を遂げたり。

米國資本家の意嚮は略〻前回と同等の條件を以て之に應ぜんとし、且つ夏季は一般に金融市場引立たざる爲め原則としては秋季を適當とすれども、當時會〻講和會議委員の會合期の迫れるを以て、今發行する時は公衆の平和見込のため市場の人氣は寧ろ湧くべしと云ふにありたり。次いで英國側の意嚮を探りたるに、彼等は意外なる新公債募集に先づ一驚し、會〻勃發したるモロッコ事件のため歐洲の形勢不穩となりしに原因して其の意見區々たり。又獨逸に於て獨逸銀行、獨亞銀行の加入は已に高橋が間接に其の承諾を得たる所なるが、英國側は之に對しても反對の意を表明したるを以て、高橋は今や荏苒經過すべきにあらずとして、公債三億圓募集に關する委任狀送附を電請すると共に、六月二十四日米國を發して倫敦に向ひ、七月二日同地に著するや、直ちに從來の發行銀行たるバース銀行、香港上海銀行、發行仲買人たるバンミュア・ゴルドン商會の代表者を招引し、席上今回の三億圓外債募集の理由として左の趣意を力說し、其の諒解を求めたり。

『平和談判は遠からず開會せらるべしと雖、所期の目的を達するや否や、又談判に要する時日幾千なるや豫め定め難し、日本政府が政略及財政に關し遠く思慮し、少くも半年先を見越して萬事周到の用意をなすは從來の慣習なるを以て、眼前に起らんとする平和談判の豫期すべからざる結果を賴みとして此の用意を忽にするは其の採るを欲せざる所なり。戰爭繼續する時は勿論、幸ひ平和を見るに至るとするも今後直に撤兵其の他軍人及び遺族手當等に莫大なる金額を要するのみならず、戰後財政經濟上の處置としては政府は第一に內國の金利を低下し、之に依りて百、

般の殖產興業の發展を圖るべく、之が爲にも外資を藉りて內國債を償却し、民間の資金を增殖せざるべからず。尤も第三回外債金は今尙ほ米國に一億圓、倫敦に八千萬圓、此の外拂込未濟金存するを以て、決して眼前の缺乏を感じたるにあらざることは明かなり。只和戰何れに決定するとも將來外資輸入の必要あること右の如くなるを以て、問題は只市場の形勢を見計らひ好時機を捉ふるの一點にあるのみ、而して今や英米の金融市場緩慢を告げ、日本公債に對する一般の人氣亦頗る良好なれば今日を最も好機なりと信ず。尙又今回は從來の發行地英米兩國に加ふるに獨逸國を以てし、三國共通に募集するを帝國外交政策上便宜なりと認め、之に就きては已に米國資本家の好意を得たり云々。』

茲に於て英國側も其の趣意を諒解し、種々の反對論も忽ち消散するに至り、條件の折衝に入るや略ぼ前回と同等にして、煙草專賣益金を第二抵當とし、發行價格に關しては異論勘からざりしも一應九十と假定することに同意せしめ、大體の下相談は纏りたるの觀ありき。

然るに政府は發行條件を前回よりも一層有利ならしめ、殊に無擔保、已むを得ず擔保を供するときは發行價格を引上ぐるか、又は利率を低下せんと欲したれども、今回の如く發行額巨額に上り、而も前回發行後未だ幾干ならざる時に於ける公債に就ては、擔保提供は寧ろ必須條件なりとの主張强く、殊に資本家中には第一回四分半利付英貨公債の市價二分半增打、此の內利息を引去れば正味增打は一分位に過ぎざるを以て、發行價格は八十八程度にあらざれば成功覺束なしと强言するものあり。果然翌三日夜に至り、倫敦の發行銀行は獨逸銀行家代表との協議の結果を左の如く高橋に齎したり。

一、發行價格は九十とし、其の代りに第一回利子は全額を應募者に與ふること。

一、英獨の切替相場を一磅に付二〇馬克半とす。

一、獨逸株式取引所に提出する目論見書に獨逸法律上必要の事項を揭載すること。

高橋は是に對して斷然反對し、發行價格及利子支拂等前回の條件に劣らんか、交涉は一應中止の外なしと硬く主張し、切替相場は二〇馬克四十五ペニヒ、第三項に關しては帝國政府は煙草專賣益金を減少する傾向を來すが如き規則類を設け、又は行政處分を行はざることを契約するが如き國家行動を拘束する事項は絕對に承諾する能はずと回答せり。茲に於て英國團は直ちに此の旨を米國へ電報し、又獨逸側にも高橋の主張に同意せしむることを約したり。尙ほ同日決定したる事項は、獨逸發行分に要する印紙稅（千分の六）を政府負擔とすること、及獨逸募集金は差當り最も信用厚き同國銀行に利札預け金と爲し、可成市場を攪亂せざる樣注意すべきこと等なりき。

越えて翌七月四日、銀行側は遂に高橋の要求に承服し、左の如く略ぼ前回と同等の條件を承諾せり。

一、發行總額　三千萬磅（二億九千二百八十九萬圓）

一、利　率　年四分半

一、發行價格　百に付九十

一、政府手取金　百に付八十六·四分の三

一、償還期限　二十箇年

一、擔　保　煙草專賣益金（第二次）

此の報告に接したる政府は之を承認することとして、七月五日其の旨返電せしを以て、翌六日深更高橋財政委員と發行銀行團との間に契約書の調印を了せり。

右の如く本公債發行の契約成りしが、明治三十八年法律第十二號に依る起債制限額四億五千五百萬圓は今や既に滿限となれるを以て、明治三十八年七月八日勅令第百九十四號を以て緊急の必要に應ずる爲め公債三億圓募集の旨を發布し、同日勅令第百九十五號を以て前記勅令に依り募集すべき公債の發行規程を公布したり。右兩勅令の全文左の如し。

勅令第百九十四號（明治三十八年七月八日）

政府ハ臨時事件費支辨ノ爲公債三億圓ヲ募集スルコトヲ得

前項公債ニ關シテハ明治三十八年法律第十二號第五條及第六條ノ規定ヲ適用ス

勅令第百九十五號（明治三十八年七月八日）

第一條　明治三十八年勅令第百九十四號ニ依リ英國倫敦、北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ英貨公債三千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四半トス

第三條　本公債ノ元金ハ明治五十八年七月十日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十三年七月十日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店、橫濱正金銀行紐育出張所及別ニ獨逸國內ニ定ムル場所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條　本公債ノ利子ハ每年一月十日及七月十日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條　本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ二十磅、百磅及二百磅ノ三種トス

英貨ト米貨及獨貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙、獨貨二十馬四十五布トス

第六條　本公債元利金ノ償還ハ煙草專賣益金ヲ以テ擔保ス但シ其ノ順位ハ明治三十八年三月發行四分半利付英貨公債三千萬磅ノ次トス

明治三十八年三月發行四分半利付英貨公債償還ノ後ハ本公債ハ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラルヘシ

第七條　本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅トス

第八條　本公債ノ元金ハ明治三十八年七月ヨリ同年十二月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十九年一月十日ニ於テ全半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第二款　募　集

本公債目論見書は七月八日先づ獨逸に於て發表せられ、次いで七月十日倫敦、同十一日紐育に於て發表せられたり。右三地に於ける目論見書及其の全譯文を掲ぐれば左の如し

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½%

STERLING LOAN OF JULY 1905, IN LONDON.

(SECOND SERIES.)

The List of applications will be closed on or before 13th July 1905.

IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½% STERLING LOAN

(SECOND SERIES.)

FOR £30,000,000

Which is now offered for Subscription in London, New York and Germany.

Created under the Authority of Imperial Ordinances Nos. 194 and 195 of His Majesty the Emperor, both promulgated 8th July 1905.

Secured by a charge on the Tobacco Monopoly Revenues of the Empire as stated below.

SUBSCRIPTION PRICE 90 PER CENT.

Repayable at par 10th July 1925, with option to the Imperial Japanese Government to redeem on or at any time after 10th July 1910, on giving six months' notice.

In Bonds to Bearer of £20, £100 and £200, with half-yearly coupons attached, payable 10th January and 10th July. Bonds and Coupons payable in London in sterling, in New York in United States Gold Dollars, at the fixed exchange of $4.87 per pound sterling, and in Germany in Reichsmarks at the fixed exchange of M. 20.45 per pound sterling.

Under the authority of the Imperial Japanese Government £10,000,000 of this Loan has been taken by Messrs. Kuhn, Loeb & Co., and will be issued in New York by them, and by the National City Bank, and the National Bank of Commerce, on the terms of this Prospectus.

Under the same authority £10,000,000 of this Loan has been taken and will be issued in Germany on the terms of this Prospectus by Bank für Handel und Industrie, Berlin; Bayrische Hypotheken und Wechsel Bank, München; Messrs. Born und Busse, Messrs. Delbrück, Leo & Co., Deutsche Asiatische Bank, Dresdner Bank, Nationalbank für Deutschland, Berlin; Norddeutsche Bank in Hamburg, Hamburg; Messrs. Sal. Oppenheim, Junr. & Co., Cologne; A. Schaaffhausen'scher Bankverein, in Berlin; Mr. Jacob S. H. Stern, Frankfort/M; and Messrs. M. M. Warburg & Co., Hamburg.

Coupons and Bonds payable in London at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, 120, Bishopsgate Street Within, E. C.; in New York at the Agency of the Yokohama Specie Bank, Limited, 63/65 Wall Street; and in Germany, through the Deutche Asiatische Bank, Berlin.

A coupon payable 10th January 1906, for interest on instalments, will be attached to the Scrip.

Parr's Bank Limited, the Hongkong and Shanghai Banking Corporation, and the Yokohama Specie Bank, Limited, are authorised by the Imperial Japanese Government to issue the above Loan and are prepared to receive subscriptions for £10,000,000 sterling payable as follows:—

£ 5	per cent. on Application.
£15	per cent. on Allotment.
£10	per cent. on 29th August 1905.
£10	per cent. on 29th September 1905.
£10	per cent. on 31st October 1905.
£20	per cent. on 29th November 1905.
£20	per cent. on 21st December 1905.
£90	per cent.

Payment in full may be made on allotment under discount at the rate of two per cent. per annum.

The Loan is repayable at par on 10th July 1925, but the Imperial Japanese Government reserves the right to redeem, at par, all or any of the Bonds on or at any time after the 10th July 1910, on

giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings in the usual manner at the office of the Yokohama Specie Bank, Limited, London, and the New York Agency of the same Bank and in Germany at such Agency or Agencies as the Yokohama Specie Bank, Limited, shall determine under the instructions of the Imperial Japanese Government.

The Loan is secured both as to Principal and Interest by a charge (limited to £30,000,000, and the interest thereon), upon the annual net revenues of the Imperial Japanese Government Tobacco Monopoly, and subject only to the charge in favour of the prior loan of £30,000,000.

The Imperial Japanese Government has the exclusive right to control the cultivation and production of the leaf, and to purchase, import, manufacture and sell tobacco. It thus possesses the entire monopoly of the tobacco trade within the limits of the Japanese Empire. The estimated net revenue for the fiscal year 1905-6 from this source is *Yen* 32,011,072, which, at exchange of 2s. 0½d. per *yen*, is equal to £3,267,796,18s. 8d., the actual receipts for the first quarter have proved very satisfactory.

Scrip Certificates to bearer will be delivered by the issuing Banks as soon as possible, in exchange for the Allotment Letters, accompanied by the Bankers' receipts.

A Coupon for the payment of interest on instalments at the rate of 4½ per cent. per annum from their respective dates of payment to 10th January 1906, will be attached to the Scrip.

The Bonds will be delivered by the issuing Banks in exchange for the Scrip Certificates as soon as practicable after payment of the last instalment.

Application must be made on the enclosed form, accompanied by the deposit of £5 per cent.

If no allotment be made, the deposit will be returned in full and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards payment of the amount due on allotment.

Failure to pay any of the instalments at due dates will render all previous payments liable to forfeiture.

Certified translations of the Imperial Ordinances creating and authorising the issue of the above Bonds may be seen at the offices of any of the issuing Banks, and at the Offices of Messrs. Alfred Bright and Son, Solicitors, 15 George Street, Mansion House, London, E. C., and of Messrs. Stephenson, Harwood & Co., Solicitors, 31 Lombard Street, E. C.

A London Stock Exchange settlement and quotation will be applied for in due course.

Prospectuses and forms of application may be obtained from the issuing Banks, viz.: Parr's Bank Limited, 4 Bartholomew Lane, London, E. C., and Branches; The Hongkong and Shanghai Banking Corporation, 31 Lombard Street, London E. C., The Yokohama Specie Bank, Limited, 120 Bishopsgate Street Within, London, E. C., and from Messrs. Panmure Gordon & Co., Hatton Court, Threadneedle Street, London, E. C.

11th July 1905.

第二回四分半利付英貨公債倫敦募集目論見書譯文

應募申込簿ハ千九百五年七月十三日以前ニ締切ルヘシ

參千萬磅ノ日本帝國政府第二回四分半利付英貨公債

右公債ハ今回倫敦、紐育及獨逸ニ於テ之ヲ募集ス

本公債ハ千九百五年七月八日公布勅令第百九十四號及第百九十五號ニ依リテ起債スルモノトス

本公債ハ帝國ノ煙草專賣益金ヲ以テ擔保セラルルモノトス

應募價格ハ九十「パーセント」

本公債ハ千九百二十五年七月十日額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百十年七月十日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

證券ハ無記名式ニシテ額面貳拾磅、百磅及貳百磅ノ三種トシ一月十日及七月十日拂半箇年分利札ヲ附ス元利金ハ倫敦ニ於テハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙ノ確定換算率ニ依リ北米合衆國本位貨幣ヲ以テ及獨逸ニ於テハ英貨壹磅ニ付貳拾麻四拾五布ノ確定換算率ニ依リ獨貨ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス

本公債ノ內壹千萬磅ハ日本帝國政府ノ承認ニ依リ「クーン・ロエブ」商會ニ於テ之ヲ引受ケタルニ付同商會、「ナショナル・シチー」銀行及「ナショナル・バンク・オブ・コムマース」ハ本目論見書ノ條件ニ依リ紐育ニ於テ之ヲ發行ス

右ノ權能ニ基キ本公債ノ內壹千萬磅ハ伯林「バンク・フユール・ハンデル・ウント・インヅストリー」「ミユンヘン」「バイリツシエ・ヒポテーケン・ウント・ウエクゼル・バンク」、伯林「ボルン・ウント・ブツセ」商會、「デルブリユック・レオ・ウント・コムパニー」、獨亞銀行、「ドレスドネル・バンク」、「ナチヨナルバンク・フユール・ドイツチユランド」、漢堡「ノルドドイツチエ・バンク・イン・ハンブルヒ」、「ケルン」「ザル・オツペンハイム・ユンル・ウント・コムパニー」、伯林「アー・シヤアフハウゼンシエル・バンクフエライン」、「フランクフルト・アム・マイン」「ヤコブ・エス・ハー・ステルン」及漢堡「エム・エム・ワルブルヒ・ウント・コムパニー」ニ於テ之ヲ引受ケタルニ付本目論見書ノ條件ニ依リ獨逸ニ於テ之ヲ發行ス

元利金ハ倫敦ニ在テハ「イー・シー・ビシヨツプスゲート・ストリート・ウキジン」百二十番横濱正金銀行支店ニ於テ、紐育ニ在テハ「ウオール・ストリート」六十三番六十五番横濱正金銀行出張所ニ於テ及獨逸ニ在テハ伯林獨亞銀行ニ於テ支拂ハルヘシ

假證券ニハ分割拂込金ノ利子ニ對スル千九百六年一月十日拂利札一枚ヲ附ス

「パース」銀行、香上銀行及橫濱正金銀行ハ日本帝國政府ヨリ本公債發行ノ權能ヲ賦與セラレタルニ付英貨壹千萬磅ヲ募集ス其ノ拂込ハ左ノ如シ

應募申込ノ際	百磅ニ付	五磅
公債割當ノ際	同	拾五磅
千九百五年八月二十九日	同	拾磅
同　年九月二十九日	同	拾磅
同　年十月三十一日	同	拾磅
同　年十一月二十九日	同	貳拾磅
同　年十二月二十一日	同	貳拾磅
合計	同	九拾磅

公債割當ノ際全額拂込ヲ爲ストキハ年二分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

本公債ハ千九百二十五年七月十日ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百十年七月十日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ額面金額ニテ本公債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ハ橫濱正金銀行倫敦支店、橫濱正金銀行紐育出張所及獨逸ニ在テハ日本帝國政府ノ指圖ニ從ヒ橫濱正金銀行カ定ムル一箇又ハ數箇所ノ代理店ニ於テ、通常ノ方法ニ依リ抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

本公債ノ元利金（本公債參千萬磅及之ニ對スル利子ニ限リ）ハ前回公債參千萬磅ノ次順位ヲ以テ日本帝國政府ノ煙草專賣益金ニ依リ擔保セラル

日本帝國政府ハ煙草ノ耕作及生產ヲ監督シ及煙草ノ買入、輸入、製造及販賣ノ特權ヲ有シ從テ日本帝國內ニ於ケル煙草ノ專賣權ヲ有ス千九百五年ヨリ六年ニ亙ル會計年度ニ於テ此財源ヨリ生スル益金豫算ハ參千貳百壹萬千七拾貳圓ニシテ之ヲ壹圓ニ付貳志零片貳分ノ壹ノ率ヲ以テ英貨ニ換算スルトキハ參百貳拾六萬七千七百九拾六磅拾八志八片ナリ初ノ三箇月間ニ於ケル收入ハ滿足ニ其ノ收入ノ確實ナルコトヲ證明セリ

無記名假證券ハ發行銀行ニ於テ公債割當通知書竝ニ銀行領收書ト引換ニ出來得ル限リ速ニ之ヲ交付スヘシ

假證券ニハ各拂込期日ヨリ千九百六年一月十日迄年四分五厘ノ利率ヲ以テ分割拂込金ニ對スル利子ヲ支拂フヘキ利札一枚ヲ附ス

本證券ハ最終拂込金拂込後出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ發行銀行ニ於テ之ヲ交付スヘシ」應募申込ハ百磅ニ付五磅ノ保證金ヲ添ヘ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

割當ナキトキハ保證金全部ヲ返還スヘク若シ申込金額ノ一部分ノ割當アリタルトキハ保證金ノ殘額ハ割當ノ際ノ拂込金ニ之ヲ充當スヘシ

拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ旣納ノ拂込金ハ總テ之ヲ沒收スルモノトス

本公債ノ起債ニ關スル勅令ノ證明譯文ハ各發行銀行及倫敦「イー・シー・マンシオンハウス・ジョージ」街十五番狀師「アルフレッド・プライト」商會「イー・シー・ロムバード」街三十一番狀師「ステフエンソン・ハーウッド」商會ノ事務所ニ於テ之ヲ閱覽スルコトヲ得

倫敦株式取引所ニ於ケル受渡及公定相場ニ登載ノ件ハ適當ノ時機ニ於テ之ヲ請求スヘシ

目論見書及申込書式入用ノ向ハ發行銀行卽チ倫敦「バーソロミユー・レーン」四番「バース」銀行及其ノ支店、同「ロムバード」街三十一番香上銀行、同「ビショップスゲート・ストリート・ウヰジン」百二十番橫濱正金銀行及同「スレッドニードル」街「ハツトン・コート」「バンミユーア・ゴルドン」商會ヨリ受取ラルヘシ

千九百五年七月十一日

PROSPECTUS OF THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT
4½ % STERLING LOAN OF JULY 1905 IN NEW YORK.
(SECOND SERIES.)
£30,000,000
IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT 4½ % STERLING LOAN,
(SECOND SERIES.)
DUE JULY 10, 1925.

With option to the Imperial Japanese Government to redeem all or any part on or after July 10, 1910, upon giving six months' notice.

Secured by a charge on the Tobacco Monopoly revenues of the Empire, as stated below.

Created under the Authority of Imperial Ordinances Nos. 194 and 195 of His Majesty the Emperor, both promulgated July 8, 1905.

Coupon Bearer Bonds in the denominations of £20, £100 and £200.

Semi-annual interest payable January 10th and July 10th at the office of the Yokohama Specie

Bank, Limited, in London, at its agency in New York, and through the Deutsch-Asiatische Bank, Berlin.

Principal and interest payable both in London in Sterling, in New York in United States Gold Dollars at the fixed exchange of $ 4.87 per Pound Sterling, and in Germany in Reichsmarks at the fixed exchange of Mark 20.45 per Pound Sterling.

Parr's Bank, Limited, the Hongkong and Shanghai Banking Corporation and the Yokohama Specie Bank, Limited, are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above £ 30,000,000 Bonds. Of this amount £ 10,000,000 is being offered for public subscription in London by the above-mentioned banks.

Under the authority of the Imperial Japanese Government £ 10,000,000 of this Loan have been taken by Messrs. Kuhn, Loeb & Co., and under the same authority £ 10,000 000 of this Loan have been taken and are being issued in Germany by the Bank für Handel und Industrie, Berlin; Bayrische Hypotheken und Wechsel Bank, München; Messrs. Born & Busse, Messrs. Delbrück, Leo & Co., Deutsch-Asiatische Bank, Deutsche Bank, Dresdner Bank, Nationalbank für Deutschland, Berlin; Norddeutsche Bank in Hamburg, Hamburg; Messrs. Sal. Oppenheim, Jr. & Co., Cologne; A. Shaaffhausen'scher Bankverein in Berlin; Mr. Jacob S. H. Stern, Frankfort °/M. and Messrs. M. M. Warburg & Co., Hamburg. Subscriptions will also be received by appointed agents in Austria-Hungary, Holland, Belgium and Switzerland.

The London issuing Banks make the following statements in their prospectus which has been approved by Korekiyo Takahashi, Esq., Vice-Governor of the Bank of Japan, the duly authorized Special Financial Commissioner of the Imperial Japanese Government:

"This Loan is repayable at par, July 10, 1925, but the Imperial Japanese Government reserves the right to redeem at par all or any of the Bonds on or at any time after July 10, 1910, on giving six months' previous notice. Partial redemption to be effected by drawings, in the usual manner, at the

office of the Yokohama Specie Bank, Limited, London, and the New York Agency of the same bank, and in Germany at such agency or agencies as the Yokohama Specie Bank, Limited, shall determine under the instructions of the Imperial Japanese Government. The Loan is secured both as to principal and interest by a charge, limited to £ 30,000,000 and the interest thereon, upon the annual net revenues of the Imperial Japanese Government Tobacco Monopoly, and subject only to the charge in favour of the prior Loan of £ 30,000,000. The Imperial Japanese Government has the exclusive right to control the cultivation and production of the leaf, and to purchase, import, manufacture and sell tobacco. It thus possesses the entire monopoly of the tobacco trade within the limits of the Japanese Empire. The estimated net revenue for the fiscal year 1905-1906 from this source is 32,011,072 *yen*, which at the exchange of two shillings and half-penny per *yen* is equal to £ 3,267,796 18s./8d. The actual receipts for the first quarter have proved very satisfactory."

Referring to the above, the undersigned are authorized by the Imperial Japanese Government to issue the above Loan and hereby offer for public subscription £ 10,000,000 of the above bonds at the price of 87$\frac{5}{8}$ per cent. and accrued interest, New York Stock Exchange usage, which is the approximate parity of the London issue price.

The subscription list will be opened at 10 A. M. on July 12, 1905, and will be closed on or before July, 17, 1905. The undersigned reserve to themselves the right to close the subscription list at any time without notice and to reject and subscriptions and allot smaller amounts than applied for.

All subscriptions, which should be made on the enclosed form, are to be accompanied by a deposit of $ 25 in New York funds per £ 100 Bond.

If no allotment be made, the deposit will be returned in full, and if only a portion of the amount applied for be allotted, the balance of the deposit will be appropriated towards the amount due on August 3, 1905. If any further balance remains, such balance will be returned. Failure to pay any instalments

at due dates, will render all previous payments liable to forfeiture.

The rate of exchange fixed by the Imperial Japanese Government at which principal and interest of the bonds are payable in New York is $4.87 per pound sterling, at which rate the New York issue price of 87⅝ per cent. and accrued interest, figuring $5 per pound sterling according to the usage of the New York Stock Exchange, is the approximate equivalent of the London issue price of £90 per cent. Payment for bonds allotted is to be made in New York funds as follows:—

On application	$ 25.00 per £100 bond,
On August 3, 1905	25.00 per £100 bond,
On October 16, 1905	393.97 per £100 bond,
Total	$443.97 per £100 bond.

Temporary certificates to bearer will be delivered by the undersigned in exchange for allotment letters duly endorsed, upon payment of final instalment. A coupon for payment of the semi-annual interest due on January 10, 1906, will be attached to the temporary certificates.

Payment in full may be made on August 3, 1905, under discount at the rate of three per cent. per annum.

The bonds will be delivered by the undersigned in exchange for the temporary certificates as soon as practicable.

Subscriptions will also be received by the Bank of Montreal, Montreal, by the Old Colony Trust Company, Messrs. Kidder, Peabody and Co. and Messrs. Lee, Higginson & Co., Boston, by the Fidelity Trust Company, the Girard Trust Company and Messrs. Sailer and Stevenson, Philadelphia, by the Illinois Trust and Savings Bank and the Merchants' Loan and Trust Company, Chicago, by Messrs. Francis Bro. & Co., and Messrs. A. G. Edward and Sons, St. Louis, and by the Wells Fargo Nevada National Bank of San Francisco and the Anglo-Californian Bank, Ltd., San Francisco.

Kuhn, Loeb & Co.,
William and Pine Street.
National City Bank,
52 Wall Street.
National Bank of Commerce in N. Y.,
31 Nassau Street.

New York, July 11, 1905.

第三章　外國債

第五節　第二回四分半利付英貨公債

元利金ハ倫敦ニ於テハ英貨ヲ以テ、紐育ニ於テハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙ノ確定換算率ニ依リ獨逸銀行ヲ支拂フヘシ

毎半箇年分利子ハ一月及七月十日横濱正金銀行倫敦支店ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

本公債證券ハ額面壹百磅及貳百磅ノ貳種ト金額無記名利札附トス

本公債ハ千九百五年七月八日布勅令第百九十四號及第百九十五號ニ準據シテ起債スルモノニシテ

本公債ハ帝國煙草專賣證金ヲ以テ擔保セラルルモノニシテ

本公債ハ一部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

但シ日本帝國政府ハ千九百十年七月十日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ其ノ全

償還期限千九百二十五年七月十日

日本帝國政府四分半利付英貨公債第二回募集參千萬磅

第二回四分半利付英貨公債紐育募集目論見書譯文

リ北米合衆國本位貨幣ヲ以テ及獨逸ニ於テハ英貨壹磅ニ付貳拾參馬四拾五布ノ確定換算率ニ依リ獨貨ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス

「バース」銀行、香上銀行及橫濱正金銀行ハ日本帝國政府ヨリ本公債參千萬磅ヲ發行スルノ權能ヲ賦與セラレ內壹千萬磅ハ此等銀行カ倫敦ニ於テ一般公衆ヨリ之ヲ募集ス

日本帝國政府ノ承認ニ依リ本公債ノ內壹千萬磅ハ「クーン・ロエブ」商會之ヲ引受ケ又之ト同一ナル承認ニ基キ本公債ノ內壹千萬磅ハ伯林「バンク・フユール・ハンデル・ウント・インヅストリー」、「ミユンヘン」「バイリツシエ・ヒポテーケン・ウント・ウエクゼル・バンク」、伯林「ボルン・ウント・ブツセ」商會、「デルブリユツク・レオ・ウント・コムパニー」、獨亞銀行「ドイツチエ・バンク」、「ドレスドネル・バンク」、「ナチヨナル・バンク・フユール・ドイツチランド」、漢堡「ノルド・ドイツチエ・バンク・イン・ハンブルヒ」、「ケルン」「ザル・オツペンハイム・ユンル・ウント・コムパニー」、伯林「アー・シヤーフハウゼンシエル・バンクフエライン」、「フランクフルト・アム・マイン」「ヤコブ・エス・ハー・ステルン」及漢堡「エム・エム・ワルブルグ・ウント・コムパニー」之ヲ引受ケ獨逸ニ於テ之ヲ募集ス又應募申込ハ墺太利匈牙利、和蘭、白耳義及瑞西ニ於ケル指定代理店ニ於テモ亦受理セラルヘシ

倫敦發行銀行ハ日本帝國政府特派財政委員日本銀行副總裁高橋是清氏ノ承認ヲ經タル其ノ目論見書中ニ左ノ如ク記載セリ

本公債ハ千九百二十五年七月十日額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但日本帝國政府ハ千九百十年七月十日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ本公債ノ全部又ハ一部ヲ額面金額ニテ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ハ橫濱正金銀行倫敦支店、橫濱正金銀行紐育出張所及獨逸ニ在リテハ日本帝國政府ノ指圖ニ從ヒ橫濱正金銀行カ定ムル一箇又ハ數箇所ノ代理店ニ於テ通常ノ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

本公債ノ元利金（本公債參千萬磅及之ニ對スル利子ニ限リ）ハ前回公債參千萬磅ノ次順位ヲ以テ日本帝國政府ノ煙草專賣益金ニ依リ擔保セラルル日本帝國政府ハ煙草ノ耕作及生產ヲ監督シ及煙草ノ買入、輸入、製造及販賣ノ特權ヲ有シ從テ日本帝國內ニ於ケル煙草ノ專賣權ヲ有ス千九百五年ヨリ六年ニ亙ル會計年度ニ於テ此財源ヨリ生スル益金豫算ハ參千貳百壹萬千七拾貳圓ニシテ之ヲ壹圓ニ付貳志零片貳分ノ壹ノ率ヲ以テ英貨ニ換算スルトキハ參百貳拾六萬七千七百九拾六磅拾八志八片ナリ初ノ三箇月間ニ於ケル收入ハ滿足ニ其ノ數入ノ確實ナルコトヲ證セリ

上記ノ條項ニ依リ下名等ハ日本帝國政府ヨリ本公債ノ發行ヲ承認セラレタルニ付玆ニ紐育株式取引所ノ慣例ニ依リ百磅ニ付八拾七磅八分ノ五ト之ニ對スル利子ヲ加ヘタルモノ卽チ倫敦ニ於ケルト略ゝ同一ノ發行價格ヲ以テ廣ク右公債壹千萬磅ヲ募集ス

應募申込簿ハ千九百五年七月十二日午前十時ニ之ヲ開キ千九百五年七月十七日以前ニ締切ルモノトス下名等ハ何等ノ通知ナクシテ何時ニテモ申込簿ヲ締切リ又ハ應募ヲ拒絕シ及申込金額ヨリ少キ金額ヲ割當ツルノ權利ヲ有ス

應募申込ハ公債百磅ニ付貳拾五弗ノ保證金ヲ添ヘ紐育ニ於テ現金ヲ以テ別紙書式ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

若シ全然割當ナキトキハ保證金全部ヲ返還スヘク若シ申込額ノ一部分ノミ割當ラレタルトキ

ハ保證金ノ殘額ハ千九百五年八月三日ノ拂込金ニ之ヲ充當シ尚殘額アルトキハ之ヲ返還ス拂込期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ既納ノ拂込金ハ總テ之ヲ沒收スルモノトス

日本帝國政府ニ依リ定メラレタル紐育ニ於ケル公債元利金支拂換算率ハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙トス而シテ紐育發行タル八七$\frac{5}{8}$%及之ニ對スル利子ヲ加ヘタルモノハ紐育株式取引所ノ慣例ニ從ヒ英貨壹磅ニ付五弗ノ割合ヲ以テ計算スルニ倫敦ニ於ケル發行價格タル百磅ニ付九拾磅ト略ゝ同一ナルモノトス

割當ラレタル證券ニ對シテハ左ノ如ク紐育資金中ニ之ヲ支拂フヘシ

應募申込ノ際	百磅證券一枚ニ付	二五・〇〇弗
千九百五年八月三日	同	二五・〇〇
同　年十月十六日	同	三九三・九七
合　計	同	四四三・九七

無記名假證券ハ最終拂込金拂込ノ際適當ニ裏書アル割當通知書ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ

假證券ニハ千九百六年一月十日滿期半箇年分利子ノ支拂ノ爲メニ利札一枚ヲ附スヘシ

千九百五年八月三日ニ於テ全額拂込ヲナストキハ年三分ノ割合ヲ以テ割引ヲ爲スヘシ

本證券ハ出來得ル限リ速ニ假證券ト引換ニ下名等ニ於テ之ヲ交付スヘシ

應募申込ハ「モントリール」「モントリール・バンク」「ボストン」「ジエー・オールド・コロニー・トラスト・コムパニー」「キツダー・ピーボデイ」商會「リー・ヒツギンソン」商會「フイラデルヒヤ」「フイデリテイ・トラスト・コムパニー」及「セーラー・エンド・スティブンソン」商會「シカゴ」「イリノイス・トラスト・エンド・セーヴイングス・バンク」「マーチャンツ・ローン・エンド・トラスト・コムパニー」「セントルイ」「フランシス・ブラザース・エンド・コムパニー」及「エー・ジー・エドワード」商會、桑港「ウエルズ・ファーゴ・ネバタ・ナショナル・バンク」及「アングロ・カリフオルニアン・バンク」ニ於テモ亦之ヲ受理セラルヘシ

紐育、千九百五年七月十一日

「ウイリアム・エンド・バイン」街
「クーン・ロエブ」商會
「ウオール」街五十二番
「ナショナル・シチー」銀行
「ナツソー」街三十一番
「ナショナル・バンク・オヴ・コムマース」

PROSPEKT.

ANLEIHE DER KAISERLICH JAPANISCHEN
REGIERUNG VON £30,000,000.
4½% STERLING-ANLEIHE
(2. Serie).

Rückzahlbar am 10. Juli 1925, mit dem Recht für die Japanische Regierung, die Anleihe vom 10. Juli 1910 an jederzeit mit sechsmonatiger Kündigung zu jedem Couponstermin entweder im ganzen oder in Teilbeträgen zurückzuzahlen.

Sichergestellt zur zweiten Stelle durch die aus dem Tabak-Monopol zu erzielenden Einnahmen

des Japanischen Reiches.

Gemäss der durch die Kaiserlichen Erlasse No. 194 und No. 195, veröffentlicht am 8. Juli 1905, gegebenen Ermächtigung hat die Kaiserlich Japanische Regierung in London, New York und Deutschland eine 4½ % Staatsanleihe im Nominalbetrage von £ 30,000,000 emittiert.

Die Anleihe wird in Stücke und Nummern wie folgt eingeteilt;

No.	1	bis No.	225,000	einschliesslich	zu je	£ 20-/-.
„	225,001	„ „	325,000	„	„ „	£ 100-/-.
„	325,001	„ „	402,500	„	„ „	£ 200-/-.

Die Stücke werden in englischer und deutscher Sprache auf den Inhaber ausgestellt; sie tragen auf Grund der Ermächtigung des Finanzministers Baron Arasuke Sone vom 7. Juli 1905 faksimilierte Unterschrift des Viscount Tadasu Hayashi, ausserordentlichen Gesandten und bevollmächtigten Ministers Sr. Majestät des Kaisers von Japan am Hofe von St. James; sie ferner durch einen der ordnungsmässig Bevollmächtigten der an der Emission beteiligten Londoner Banken gegengezeichnet.

Die Anleihe ist mit halbjährlichen, am 10. Januar und 10. Juli eines jeden Jahres fälligen Coupons über je 4½ % versehen. Der erste Coupon ist am 10. Januar 1906, der letzte am 10. Juli 1925 fällig.

Die Anleihe ist am 10. Juli 1925 zu pari rückzahlbar. Die Kaiserlich Japanische Regierung hat sich jedoch das Recht vorbehalten, vom 10 Juli 1910 ab jederzeit den gesamten Betrag der Schuldverschreibungen oder einen Teil derselben mit sechsmonatiger Kündigungsfrist an jedem Couponstermine zu pari zurückzuzahlen. Die teilweise Zurückzahlung erfolgt durch Auslosung, welche bei der Yokohama Specie Bank Ltd., London und deren New Yorker Agentur und in Deutschland bei der Agentur oder den Agenturen, welche die Yokohama Specie Bank Ltd., im Auftrage der Kaiserlich Japanischen Regierung bestimmen wird (für je ein Drittel der betreffenden Auslosung aus den Nummern der seinerzeit an London, New York und Deutschland für die Zwecke der Emission überwiesenen Stücke), in Gegenwart eines Vertreters der Kaiserlich Japanischen Regierung bestellten öffentlichen Notars stattfindet. Die Zahlung der gezogenen Schuldverschreibungen erfolgt an dem auf die Ziehung folgenden Couponstermin, von welchem Tage ab die gezogenen Schuldverschreibungen aufhören, Zinsen zu tragen.

Die Rückzahlung der Schuldverschreibungen sowie die Zahlung der Zinsen erfolgt in London in Sterling, in New York in Gold-Dollars der Vereinigten Staaten, zum festen Umrechnungskurs von $ 4.87 per £ Sterling, und in Deutschland in Reichsmark, zum festen Umrechnungkurs von M 20.45 per £ Sterling.

Die Zahlungen in Deutschland erfolgen in Berlin, Hamburg, Frankfurt a. M. und anderen Plätzen bei der Deutsch-Asiatischen Bank als Agenten der Yokohama Specie Bank Ltd., London, sowie bei den Stellen, welche die Deutsch-Asiatische Bank für ihre Vertretung bestimmen und bekannt machen wird.

Bei der Rückzahlung geloster oder gekündigter Schuldverschreibungen wird der Betrag fehlender Coupons in Abrechnung gebracht. Nach japanischem Gesetz verjähren nichtvorgelegte Coupons nach 5 Jahren, rückzahlbare Schuldverschreibungen nach 15 Jahren, gerechnet vom Tage ihrer Fälligkeit ab.

Alle wichtigen auf die Schuldverschreibungen bezüglichen Bekanntmachungen wegen Rückzahlung, Ziehungen etc., werden durch die Kaiserlich Japanische Regierung ausser in der offiziellen Japanischen Zeitung in zwei Londoner, zwei New Yorker und drei deutschen Zeitungen veröffentlicht. Die Nummern der jedesmal verlosten sowie der aus vorhergegangenen Verlosungen fälligen noch nicht zur Einlösung vorgezeigten Schuldverschreibungen werden alsbald nach jeder Verlosung durch je zwei in Berlin erscheinende Zeitungen und je eine in Hamburg und Frankfurt a. M. erscheinende Zeitung veröffentlicht.

Im Falle einer Konversion der Anleihe sollen die deutschen Obligationäre Anspruche auf die Gewährung derselben Bedingungen haben, wie die englischen und amerikanischen Obligationäre dieser Anleihe. Stellen, bei welchen die Schuldverschreibungen in Deutschland konvertiert werden können, sollen in Berlin, Hamburg und Frankfurt a. M. bestimmt werden.

Für Kapital und Zinsen dieser Anleihe wird der Nettogewinn aus dem Tabak-Monopol als Sicherheit

bestellt. Diese Sicherheit steht jedoch dem bestehenden Vorrecht zu Gunsten der bereits ausgegebenen 4½ % Sterling Anleihe im Betrage von £ 30,000,000 nach. Nach Rückzahlung derselben wird die gegenwärtige Anleihe in die erste Stelle der Belastung des Tabak-Monopols aufrücken. Die über diese Anleihe ausgegebenen Schuldverschreibungen werden bezüglich der Unterlagen folgende Bestimmungen enthalten.

"The Bonds mentioned in Clause 7 are both as to principal and interest secured by a charge upon the Imperial Japanese Government net revenues derived from the Imperial Japanese Government Tobacco Monopoly under or by virtue of the Tobacco Monopoly Laws of the Empire of Japan. The said charge is subject only to the charge in favour of the prior loan of thirty million pounds and shall attach and become effective as regards interest on default in payment of any half-yearly payment of interest and as regards principal if the Imperial Japanese Government shall not at least 14 days before the due date of the principal payable under such Bonds pay in the manner mentioned in Clause 3 hereof the amount of such principal to the Yokohama Specie Bank Limited in London and New York and Germany to such Agency or Agencies, as The Yokohama Specie Bank Limited shall determine under the instructions of the Imperial Japanese Government."

(„Die in Klausel 7 erwähnten Schuldverschreibungen sind sowohl hinsichtlich des Kapitals wie der Zinsen durch die Nettoeinnahmen sichergestellt, welche der Kaiserlich Japanischen Regierung aus dem Kaiserlich Japanischen Regierung-Tabakmonopol kraft der Tabakmonopol-Gesetze des Japanischen Reiches, zufliessen. Diese Sicherstellung steht nur derjenigen zu Gunsten der früheren Anleihe im Betrage von £ 30,000,000 Sterling nach und soll bezüglich der Zinsen dann in Wirksamkeit treten, wenn irgend eine halbjährliche Zinsenzahlung ausbleibt, und bezüglich des Kapitals dann, wenn die Kaiserlich Japanische Regierung nicht wenigstens 14 Tage vor dem Termin, an dem das Kapital dieser Schuldverschreibungen zur Rückzahlung fällig ist, den Betrag dieses Kapitals an die Yokohama Specie Bank Limited in London und New York und in Deutschland an diejenige Agentur oder diejenigen Agenturen, welche die Yokohama Specie Bank Limited aus Grund der Instruktionen der Kaiserlich Japanischen Regierung bestimmen wird, in der in Klausel 3 erwähnten Weise gezahlt hat.")

Gemäss dem früheren japanischen Gesetz vom 27. März 1896 bestand ein Blatttabak-Monopol.

Nach den Bestimmungen dieses Gesetzes waren die Tabakpflanzer verpflichtet, ihre ganze Ernte an Tabaksblättern an die Regierung zu verkaufen, die ihrerseits den Tabak mit einem festgesetzten Preisaufschlage an private Tabakfabrikanten verkaufte. Das Blatttabak-Monopol-Gesetz wurde unterm 31. März 1904 ersetzt durch das Tabak-Monopol-Gesetz. Dieses Gesetz setzt den Umfang des Monopols im wesentlichen wie folgt fest:

Art. 1. Die Verarbeitung des Tabaks ist Monopol der Regierung.

Art. 2. Tabak darf nur durch die Regierung oder durch gehörig von der Regierung hierzu ermächtigte Personen importiert werden.

Art. 3. Tabak darf nur durch Personen gebaut werden, welche hierzu einen Konsens seitens der Regierung erhalten haben.

Art. 4. Der durch die Tabakpflanzer gewonnene Blatttabak wird von der Regierung gekauft.

Art. 5. Die Grenzen des unter Tabakbau zu nehmenden Landes werden durch die Regierung gekauft.

Art. 6. Die Regierung wird jährlich die zu bauenden Tabaksorten, den Umfang des unter Bebauung zu nehmenden Landes und die Ankaufspreise für Blatttabak festsetzen und vorher bekanntgeben.

Art. 22. Verarbeiteter Tabak darf nur durch die Regierung oder durch zu diesem Zweck von der Regierung ernannte Grossisten oder Detailsten verkauft werden.

Art. 23. Tabak-Detailhändler dürfen verarbeiteten Tabak an die Konsumenten nur zu von der Regierung festgesetzten Preisen verkaufen.

Art 35. Es ist niemand gestattet, Tabaksurrogate zu Verkaufszwecken herzustellen oder zu verkaufen.

Das Gesetz enthält im übrigen detaillierte Bestimmungen über die Enteignung früher im Privatbesitz befindlicher Tabaksfabriken in Japan. Das japanische Tabaksfabrikations-Monopol ist seit 1. Juli 1904 für Zigaretten in Kraft und seit 1. April 1905 auch für geschnittenen Tabak.

Das frühere Blatttabak-Monopol erbrachte im Etatsjahre 1900–01 . . . . . *Yen* 7,244,159
„ „ „ „ „ „ „ 1901–02 . . . . . *Yen* 10,866,700
„ „ „ „ „ „ „ 1902–03 . . . . . *Yen* 12,367,569

für das Etatsjahr 1903–04 sind die Einnahmen des Blatttabak-Monopols unter Berücksichtigung des Halbjahrsabschlusses per 31. Oktober 1903 auf . . . . *Yen* 14,898,291

für das Etatsjahr 1904–05 diejenigen einschliesslich der Einnahmen aus dem Zigarettenfabrikations-Monopol auf . . . . . *Yen* 21,072,297

und für das Etatsjahr 1905–06 die Einnahmen des im vollen Umfang in Kraft befindlichen Tabakmonopols auf . . . . . *Yen* 32,011,072

veranschlagt.

Kapital und Zinsen der Anleihe unterliegen gegenwärtig keiner japanischen Steuer; eine diesbezügliche Verpflichtung für die Zukunft wird nicht übernommen.

Die Ausgabe der Anleihe erfolgt im Interesse der Erhaltung des Bestands der Goldreserve und zwecks Bildung eines Fonds für unvorhergesehene Ausgaben.

Die Anleihe ist zu je einem Drittel in London, New York und Deutschland emittiert. Die Interimscheine über Londoner Anteil werden ausgefertigt durch die Parr's Bank Ltd., die Hongkong and Shanghai Banking Corporation und die Yokohama Specie Bank Ltd., diejenigen über den amerikanischen Anteil durch die Herren Kuhn, Loeb & Co. im eigenen Namen und namens der National City Bank und der National Bank of Commerce in New York, welche die Emission gemeinsam mit den Herren Kuhn, Loeb & Co. vornahmen.

Über den deutschen Anteil werden bis zur Fertigstellung der definitiven Schuldverschreibungen mit dem deutschen Reichsstempel versehene Interimscheine ausgegeben, die von den unterzeichneten deutschen Banken bezw. Bankfirmen ausgestellt sind und deren kostenfreier Umtausch in mit dem deutschen Reichsstempel versehene Originalstücke seiner Zeit des Näheren bekannt gemacht werden wird. Die über den deutschen Anteil ausgegebenen Interimscheine sind mit dem Coupon per 10. Januar 1906 versehen. Die Stückelung der deutschen Interimscheine ist folgende:

No. 1 . . . . . 150,000 einschliesslich zu je £ 20.
No. 1 . . . . . 40,000 „ „ „ £ 100.
No. 1 . . . . . 15,000 „ „ „ £ 200.

London, in August 1905.

In englischer Übersetzung;
(gez.) Korekiyo Takahashi,
Vice-Governeur der Bank von Japan
und Ausserordentlicher
Finanzkommissar der Kaiserlich
Japanischen Regierung.

Der Umrechnungskurs für den Handel an der Berliner Börse ist auf M 20.40 für 1 £ festgesetzt.

Auf Grund vorstehenden Prospekts sind nom. £ 30,000,000 4½ % Sterling-Anleihe der Kaiserlich Japanischen Regierung

2. Serie

zum Handel an der Berliner Börse zugelassen.

Berlin, Hamburg, Frankfurt a. M., Köln, München, im August 1905.

Bank für Handel und Industrie. Bayerische Hypotheken und Wechsel-Bank. Born & Busse. Delbrück, Leo & Co. Deutsch-Asiatische Bank. Deutsche Bank. Dresdner Bank. National-Bank für Deutschland. Norddeutsche Bank im Hamburg. Sal. Oppenheim Jr. & Cie. A. Schaaffhausen'scher Bankverein. Jacob S. H. Stern. M. M. Warburg & Co.

第二回四分半利付英貨公債獨逸募集目論見書譯文

日本帝國政府第二回四分半利付英貨參千萬磅公債

本公債ハ千九百二十五年七月十日ニ之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百十年七月十日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ各利札支拂期日ニ於テ本公債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

本公債ハ日本帝國ノ煙草專賣益金ニ依リ第二順位ヲ以テ擔保セラル

日本帝國政府ハ千九百五年七月八日公布勅令第百九十四號及第百九十五號ニ據リ倫敦、紐育及獨逸ニ於テ額面總額參千萬磅ノ四分半利付公債ヲ發行スルノ權能ヲ賦與セラレタリ

本公債ハ次ノ證券及番號ニ分タル

自	一番	至二二五、〇〇〇番	各貳拾磅證券
自二二五、〇〇一番		至三二五、〇〇〇番	各百磅證券
自三二五、〇〇一番		至四〇二、五〇〇番	各貳百磅證券

本公債證券ハ英、獨兩國語ヲ以テ記載シ且無記名式トシ千九百五年七月七日附大藏大臣男爵曾禰荒助ノ委任ニ基キ「セント・ゼームス」朝廷ニ派セラレタル日本帝國特命全權大使子爵林董ノ署名印刻ヲ押捺シ尚適法ナル權限ヲ有スル倫敦發行銀行ノ一ニ依リ副署セラル

本公債證券ニハ毎年一月十日及七月十日拂ノ各二分二厘五毛ノ半箇年分利札ヲ附ス最初ノ利札ハ千九百六年一月十日ニ滿期トナリ最終ノ利札ハ千九百二十五年七月十日ニ滿期トナルモノトス

本公債ハ千九百二十五年七月十日額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ日本帝國政府ハ千九百十年七月十日以後何時ニテモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ各利札支拂期日ニ於テ本公債證券ノ全部又ハ一部ヲ額面金額ヲ以テ償還スルノ權利ヲ留保ス一部償還ハ日本帝國政府ノ代表者及此目的ノ爲日本帝國政府ニ依リ指名セラルヘキ公證人ノ面前ニ於テ橫濱正金銀行倫敦支店、橫濱正金銀行紐育出張所及獨逸ニ在リテハ日本帝國政府ノ指圖ニ從ヒ橫濱正金銀行カ定ムル一箇所又ハ數箇所ノ代理店ニ於テ普通ノ方法ニ依リ抽籤ヲ以テ之ヲ行フヘシ

當籤證券ノ支拂ハ該抽籤執行後ノ利札支拂期ニ之ヲ行フヘク當籤證券ニハ其日以後利子ヲ附セサルモノトス

公債元利金ノ支拂ハ倫敦ニ在リテハ英貨ヲ以テ、紐育ニ在リテハ英貨壹磅ニ付四弗八拾七仙ノ確定換算率ニ依リ合衆國金弗貨ヲ以テ及獨逸ニ在リテハ英貨壹磅ニ付貳拾馬四拾五布ノ確定換算率ニ依リ獨貨馬ヲ以テ之ヲ爲ス

右支拂ハ獨逸ニ在リテハ伯林、漢堡、「フランクフルト・アム・マイン」及其ノ他ノ場所ニ於ケル倫敦橫濱正金銀行ノ代理店タル獨亞銀行カ其ノ代理店トシテ指定廣告シタル代理店ニ於テ之ヲ爲ス」

當籤又ハ償還ノ告知ヲ受ケタル證券ノ支拂ヲ爲スニ當リ欠缺セル利札ノ金額ハ之ヲ控除ス旱

示セラレサル利札ハ支拂期日ヨリ五箇年、償還期ノ到達セル證券ハ償還期日ヨリ十五箇年ヲ經過スルトキハ日本ノ法律ニ依リ無效トス

償還抽籤等總テ本公債證券ニ關スル重要ナル通知ハ日本帝國政府ニ於テ其ノ官報ヲ除キ倫敦ニ於ケル二種ノ新聞紙、紐育ニ於ケル二種ノ新聞紙及獨逸ニ於ケル三種ノ新聞紙ニ之ヲ廣告スヘシ

各時當籤シタル證券ノ番號及既ニ當籤シテ未タ支拂ヲ受クルカ爲呈示セラレサル證券ノ番號ハ各抽籤後直チニ伯林ニ於テ發刊セラルル二種ノ新聞紙及「ハムブルヒ」ニ於テ發刊セラルル一種及「フランクフルト・アム・マイン」ニ於テ發刊セラルル一種ノ新聞紙ニ之ヲ廣告スヘシ

本公債借換ノ場合ニ於テハ獨逸ニ於ケル證券所有者ハ英國及米國ニ於ケル本公債證券所有者ト同一ノ條件ニ從フノ權利ヲ有ス獨逸ニ於テ證券變換ノ取扱ヲ爲ス代理店ハ伯林、「ハムブルヒ」及「フランクフルト・アム・マイン」ニ於テ指定セラルヘシ

本公債ノ元利金ハ既發行四分半利付英貨公債參千萬磅ニ次キ煙草專賣益金ヲ以テ擔保セラレ該公債ノ償還後本公債ハ煙草專賣收入ニ依リ優先ニ擔保セラルルニ至ルモノトス

本公債ニ關シ發行セラレタル證券ニハ其ノ擔保ニ關シ次ノ規定ヲ記載スルモノトス

第七項ニ記載セル本公債ノ元利金ハ前回公債參千萬磅ノ次順位ヲ以テ日本帝國ノ煙草專賣法ニ基ク日本帝國政府ノ煙草專賣益金ヲ以テ擔保セラル而シテ若シ半箇年拂利子ノ支拂ヲ怠リタルトキハ利子ニ關シ及若シ日本帝國政府カ本證券ニ關シ支拂フヘキ元金ヲ其ノ支拂期日前少クトモ十四日ニ倫敦及紐育ニ在リテハ橫濱正金銀行ニ對シ及獨逸ニ在リテハ日本帝國政府ノ指圖ニ從ヒ橫濱正金銀行カ定ムル一箇所又ハ數箇所ノ代理店ニ對シ本契約第三項ニ記載セル方法ニ依リ之ヲ支拂ハサルトキハ元金ニ關シ擔保ノ效力ヲ生スルモノトス

葉煙草專賣ハ千八百九十六年三月二十七日ノ舊日本法ニ基キ成立シタルモノニシテ其ノ規定ニ依リ煙草耕作者ハ收穫シタル葉煙草ハ總テ之ヲ政府ニ販賣スルノ義務ヲ有シ政府ハ一定ノ價格ヲ以テ之ヲ個人ノ煙草製造業者ニ販賣セリ

葉煙草專賣法ハ千九百四年三月三十一日ニ於テ煙草專賣法ニ依リ改正セラレタリ此法律ハ專賣ノ範圍ヲ根本的ニ次ノ如ク確定セリ

第一條　煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス

第二條　煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條　煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

第四條　煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス

第五條　煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム

第六條　政府ハ每年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公告ス

第二十二條　製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十三條　煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第三十五條　何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

其ノ他此法律ハ日本ニ於テ從來個人ノ所有トシテ存在シタル煙草製造所ノ公用徵收ニ關スル詳細ナル規定ヲ爲セリ

日本ノ煙草製造專賣ハ卷煙草ニ對シテハ千九百四年七月一日以來實施セラル且刻煙草ニ對シテモ亦千九百五年四月一日以來實施セラレタリ

從來ノ葉煙草專賣收入左ノ如シ

一九〇〇—一會計年度	七、二四四、一五九	圓
一九〇一—二會計年度	一〇、八六六、七〇〇	
一九〇二—三會計年度	一二、三六七、五六九	

千九百三—四年ノ會計年度ニ於ケル葉煙草專賣收入ハ千九百三年十月三十一日ニ於ケル半箇年決算ニ徵スレハ左ノ如シ

一四、八九八、二九一		圓

千九百四—五年ノ會計年度ニ於ケル葉煙草專賣ノ收入ハ卷煙草製造專賣收入ヲ合シテ左ノ如ク見積ラル

二一、〇七二、二九七		圓

千九百五—六年ノ會計年度ニ於ケル全範圍ニ於テ實施セラレタル煙草專賣收入ハ次ノ如ク見積ラル

本公債ノ元利金ハ日本ニ於テ現存スル如何ナル租稅ヲモ課セラレサルモノトス而シテ將來ニ於テモ此ノ義務ヲ課セラルルコトナシ

本公債ハ金準備ヲ維持シ及臨時支出ノ爲ニ基金ヲ作ラムカ爲ニ之ヲ發行スルモノナリ

本公債ハ倫敦、紐育及獨逸ニ於テ各三分ノ一ヲ發行シ米國發行ノ分ニ對スル假證券ハ「クーン・ロエブ」商會ト共同シタル「ナシヨナル・シチー」銀行及「ナシヨナル・バンク・オヴ・コムマース」ノ名ニ於テ之ヲ發行スヘシ

獨逸發行ノ分ニ對シテハ本證券ノ印刷セラルル迄ハ左ニ署名セル獨逸銀行或ハ銀行組合ニ於テ獨逸帝國ノ印紙ヲ貼用シタル假證券ヲ發行スヘシ而シテ該假證券ト獨逸帝國ノ印紙ヲ貼用シタル本證券トノ引換ハ適當ノ時期ニ於テ之ヲ廣告スヘク此場合ニ於テハ何等ノ費用ヲモ要セサルモノトス

獨逸發行ノ假證券ニハ千九百六年一月十日拂滿半箇年利札ヲ附ス

獨逸發行ノ假證券ハ額面種類及番號左ノ如シ

自一番	至一五〇、〇〇〇番	各貳拾磅證券
自一番	至　四〇、〇〇〇番	各百磅證券
自一番	至　一五、〇〇〇番	各貳百磅證券

（英譯）

一九〇五年八月倫敦